

宝町とふるさと



宝町20周年記念事業実行委員会

宝町航空写真





宝町20周年を迎えて

宝町町会

会長 清水 武夫

宝町20周年を迎えるにあたり、町会の皆様には益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。

又20周年を記念し、記念誌を発行いたしますことは、誠に意義深く喜びにたえません。原稿及び資料を集め、宝町史となるような記念誌を作成した編集委員の方々には、誠にご苦労様でした。

発足当時を振り返ってみますと、未完成の住宅地に知らない人達ばかり、その人達同志が話し合っ、一番必要な町会の設立、施設の整備等々、先輩役員の方々が基盤作りをして下さったおかげで、太田市一番の住宅地が出来たのです。

20年経ちましても、まだ未完成の場所や、今後の町会運営に沢山の課題が残っております。

たとえば、昨年完成したテレビアンテナ受信設備のことです。

電源開発(株)と約2年間にわたる交渉の結果、宝町全域のアンテナを新しく改良受信することが出来ました。又、平成3年には夏まつりの舞台が台風で倒れ、これも新しく作成しました。防犯灯も古くなり、腐食した器具を平成5年度に西部と南部、6年度には東部と北部のものを取り替えました。

20年にもなりますと、其の他色々と老化してきますので、予算を組み、新しく取り替えて行きたいと思っております。

これからも町会役員と皆様で、20年を機に、さらに住みよい生活環境の充実した宝町を目指して行かなければと思っております。

皆様におかれましては今後なお一層のご協力をお願い申し上げまして、ご挨拶といたします。



「宝町20周年によせて」

太田市長 清水 聖 義

この度は、宝町20周年記念誌“ふるさと宝町”の刊行、誠におめでとうございます。

既にご案内のとおり、宝町は昭和50年、地権者及び関係各位のご協力のもと、群馬県企業局の一方ならぬご尽力により、本市初の大規模住宅団地として誕生いたしました。

以来、20年という歳月を経た平成7年5月末現在、世帯数1,500戸、人口4,751人を擁する本市最大の行政区に発展いたしました。この間、自治会役員並びに住民の皆様一人ひとりの地道なご努力によりまして、着実な地域活動を実施しその実を上げられました。なかでも、町会発足と同時に行われた「夏まつり」及び昭和53年に始まった「宝町運動会」は、町の二大行事として定着し、今では他の地域からも大勢の人々が訪れ、住民のふれあいの場のみならず、地域間交流の場としても広く市民の間で親しまれております。

「地方の時代」が標榜され、本年は国において地方分権法が成立するなど制度上の整備が進められておりますが、真の地方自治は、そこに住む住民が自ら考え、自ら行う活動によってこそ育まれるものであり、そういった観点からも、宝町の実績は正に本市コミュニティ振興のリーディングケースとして価値あるものと存じます。

市といたしましても、こうした地域づくりの原点を踏まえ、より多くの市民の皆様のご意見を拝聴し、可能な限り行政に反映できるよう努めてまいりたいと考えております。

20周年という良き節目を契機として、宝町のマークが象徴するように、町内の6地区がお互いの切磋琢磨を通して連帯協調し、一体となった輝かしい街となりますことを心から願ひいたしますとともに、皆様のご健康とご多幸を祈念いたしまして、ごあいさついたします。



「宝町 20 周年によせて」

群馬県企業管理者

廣 瀬 玉 雄

宝町が20周年を迎え、これを祝って記念誌「ふるさと宝町」が発行されますことを心からお喜び申し上げます。

宝泉住宅団地は、群馬県企業局が太田市及び地元関係者のご協力を得て造成した住宅団地です。当時、太田市では産業経済の発展に伴って人口の増加が著しく、特に生産活動に従事する人達の持ち家志向が高まったことから、住宅地の開発が都市政策の上から欠くことのできない重要課題となっていました。そこで太田市の西部にある由良、沖野、別所及び西野谷地内（現在の宝町）に居住環境の整った低廉な宅地の供給を図るため、大規模な住宅地としてこの団地を造成致しました。

昭和49年の分譲と同時に宝町が誕生して以来、多くの皆様のご尽力によって着実な歩みを続け、町内会の活発な活動が展開されてきたと伺っております。このことは、他の地域の町づくりにも大いに模範になるのではないかと考えます。

今では宝町を故郷とする人達が各界において立派にご活躍されている姿を見るとき、太田市の発展はもとより、200万人県民を数える県土の発展に大きく寄与しているものと確信し、誠にご同慶にたえません。

この記念誌の発行をさらなる町の発展の契機とされ、宝町が益々住み良い町となりますよう祈念致しましてお祝いの言葉と致します。



宝町 20 周年によせて

宝泉地区区長会

会長 久保田悦也

この度、宝町町会が20周年を迎えられましたことは、誠にご同慶の至りであり、衷心よりお慶び申し上げます。

顧みますと昭和47・8年頃、当時の田島太田市長さんのご尽力により住宅団地の造成がなされ、今では1,500戸ともなり、太田市一番の行政区となりました。

宝泉も住宅団地や西部工業団地が造成され、著しく変貌したのでございます。

昔のことを振り返ると、宝泉小学校から見渡すこの一帯は、一面田圃で、宝泉の穀倉地帯を代表するかのよう、沖野・西野谷・上田島・東田島などの集落が一望できたことを思うと隔世の感があります。

造成された住宅団地もオイルショックの影響で、土地を購入して家を建てるのは大変な一時期もありました。しかし、みんなよく頑張ったと思います。

また地区運動会などではお互いに一致協力され、オレンジ色の運動着で頑張っていた姿が目につかびます。

さまざまな思い出も感慨ひとしおのうちに、町会は、確かな二十歳の歴史を刻みました。これはすべて、住民各位の自覚と責任のもとに町会を育て上げた成果であり、改めて敬意を表するものでございます。

あと5年で21世紀となり、高齢化社会の到来にもなります。いまこそ「地域の輪」が大切です。それだけに、区民各位の一層の協力が必要です。お互いに、みんなして頑張りましょう。

最後に、住んでよかった「ふるさと宝町」のために、町会の益々の発展をご祈念申し上げお祝いのことばといたします。



宝町 20 周年によせて

20 周年記念実行委員長

中 畠 顕 弥

宝町が誕生して、今年で 20 年になります。前に 10 周年記念がありましたが、それも本当に昨日の様な気がいたします。

時の流れの早さには驚かされてしまいます。宝町で生まれた子供も 20 歳前後になっているわけです。

20 年の間には様々な出来事があり、今改めて振り返ってみますと、その時は良い事なのか良くない事なのか分からず、夢中で過ごして来ました。又、なんであんなふうにやってしまったのか、と反省する事ばかりです。楽しい事は忘れてしまい、嫌な事だけが記憶に残っています。

仕事や生活に追われての日々ですが、この機会に、自分自身の事も大切ですが、町の事を考えて見る必要があると思います。と申しますのは、他でもなく、私達自身が高齢化して来ているという事実です。仕事中心から、今度は町、地域との関係が長くなるわけですので、ある程度そこへ重点を置いた考え方が必要になって来ると思います。

宝町は幸いな事に、諸先輩方々が苦勞して組織の基礎を作っていただいており、なんでもやりやすくなっております。20 年間、大なり小なりお世話になって来ました。ですから、どんな事でもいいから町の為に協力、応援する気持ちです。

20 周年記念として、何かを残す事を検討しました。その結果、中央公園に東屋あずまやが設置される事になりました。この東屋は、お年寄りや子供たちが夏の強い日差しの日も冷たい雨の日も、安心して休憩出来る所となります。私達もそこに座り、これからの事について考えたいと思います。

最後になりますが、これを節目にして宝町の発展する今後を祈念いたします。

20 周年、おめでとうございます。

目 次

空から見た宝町「航空写真」

宝町20周年を迎えて……………	宝町町会会長 清水武夫	1
宝町20周年によせて……………	太田市長 清水聖義	2
宝町20周年によせて……………	群馬県企業管理者 廣瀬玉雄	3
宝町20周年によせて……………	宝泉地区区長会会長 久保田悦也	4
宝町20周年によせて……………	20周年記念実行委員長 中嶋顕弥	5
町会のあゆみ……………	町会顧問 西倉志郎	8
町会本部役員名簿……………		14
地区役員名簿……………		16
隣組長名簿……………		20
子ども会育成会……………	平成6年度子ども会育成会会長 天笠久江	22
子ども会活動……………	平成6年度子ども会会長 小黒寛子	22
育成会本部役員名簿……………		23
子ども会年間行事……………		23
21世紀に向けて……………	宝町テレビ共同受信施設組合組合長 柿沼法明	26
宝町商店会……………	会長 岩崎好助	27
宝町・夏まつり……………	おまつり会代表 高木勝治	28
宝町中央公園……………	中央公園管理者 橋本武三	29
宝寿会……………	第一宝寿会会長 橋本武三	30
	第二宝寿会会長 新井品治	
10周年記念事業「風船だより」……………		31
20才／吉田 恵……………		32
宝町とともに歩み続けて20年……………	本多奈々絵	33
20才のおもいで……………	大藤二三	33
歴代町会長座談会……………		34
宝町・町会功労表彰(感謝状含)……………		46
表彰状・感謝状・賞状……………		47
宝町10周年表彰……………		51
宝町町会外歴代役職者一覧……………		51
宝町誕生ものがたり……………	浅井哲男	52
宝町発足のころ……………	碓氷卓丸	57
宝町のあゆみ……………		58
宝町・年表……………		70
宝町20周年記念式典町会功労者……………		74
特記……………		74
編集後記……………		74
編集を終えて……………		75

町 会 の あ ゆ み

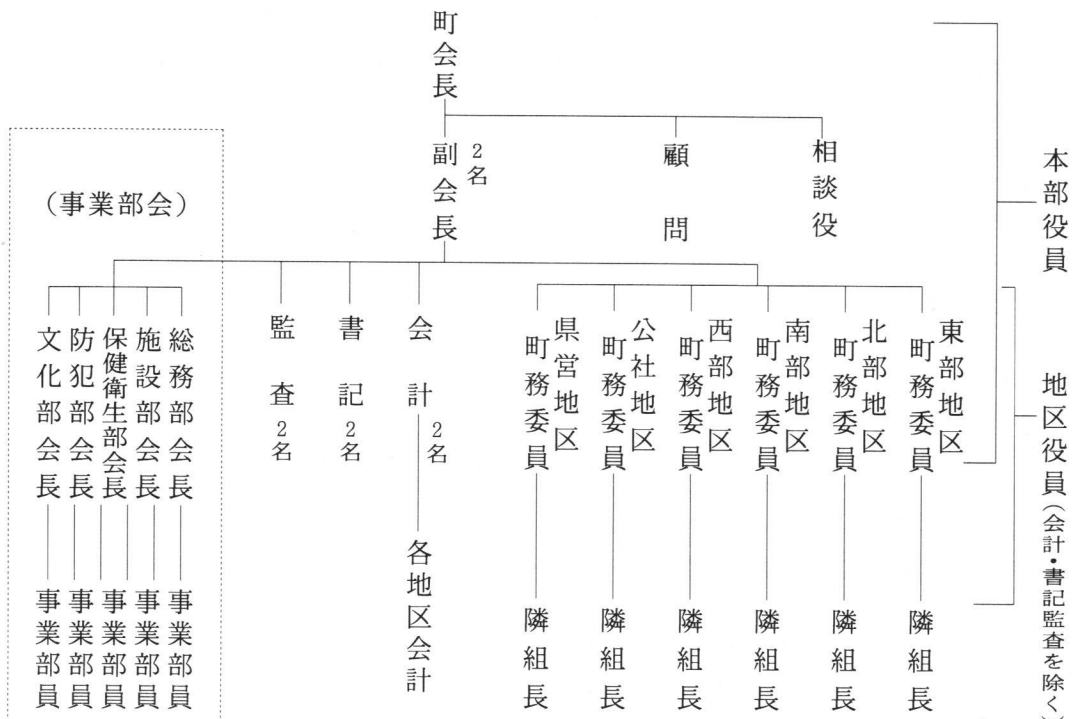
町会顧問 西 倉 志 郎

昭和50年の末に宝町町会設立準備委員会が結成され、翌年の5月30日に中央公園に於いて設立総会が開催され、「宝町町会」が成立致しました。

当時の町会費は大型店2,000円/月、店舗併用住宅500円/月、個人住宅250円/月、公営住宅200円/月とまちまちでした。59年の総会によって大型店2,000円/月、その他250円/月に変更され、その後、平成6年に大型店2,000円/月、その他350円/月になりました。

皆さんからおあずかりした町会費のうち、年間約半分の2,000円位が各種の募金や体育協会や消防団等に支払われております。その他、市の方から事務委託料や保健衛生等の委託料が町会の会計に入り、町会費と一緒にして、夏まつりや運動会の費用として使われています。

宝 町 町 会 組 織 図 (初期の組織図)



町会規約も町会発足と同時に発行し、改訂案は総会の承認を得て改訂されます。

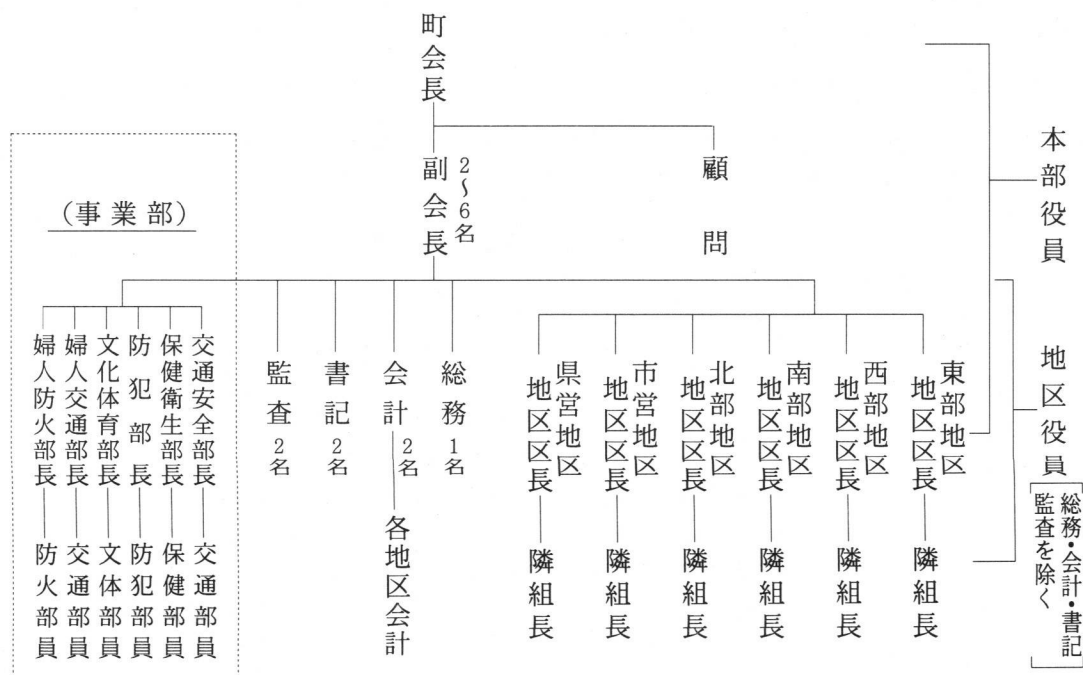
町会の上部団体として、宝泉区長会と由良宝町区長会があります。毎月1回会議が開催され、太田市からの説明会や色々な報告等があります。宝泉区長会に出席出来るのは区長(町会長)と区長代理(副会長)です。宝町の意見を有利に進めるには、多勢の区長代理(副会長)を選出して会議に参加したいのですが、会費等が人数掛けで支払わなければならないので金額が増える為、増員をひかえております。

宝町町会役員の活動として、6つの部会(防犯部、交通安全部、文化体育部、保健衛生部、婦人防火部、婦人交通部)の専門活動と入出金担当の会計(監査)等があり、町会長は全体の会務を総括します。又、地区の区長は自分の地区を総括し、住民からの要望や苦情等は月1回の本部役員会議(町会長、副会長、各部長、会計、書記、各地区区長)に起案審議され、陳情書の提出や総会審議等になります。

現在、宝町は1区6地区制ですが、世帯数の増加により4分割独立案が提案されました(昭和63年総会提案)。1年間の継続審議として慎重に審議され、平成元年の総会にて「4分割は時期尚早」として承認を得ました。

大きい町なればこそ盛大な夏まつり等も出来るのであって、今後も「宝町は一つ」で「住みよい町づくり」に励みたいと思います。

宝町町会組織図(現行)



宝町隣組と世帯数の推移

()内：隣組数 (総会議案書参照)

	東 部	西 部	南 部	北 部	県 営	市 営	合 計
昭和55年	200(16)	103(7)	196(20)	183(15)	80(12)	150(21)	912(92)
56年	202(16)	104(7)	211(20)	194(17)	80(12)	150(21)	941(93)
57年	202(16)	104(7)	215(20)	203(17)	80(12)	150(21)	954(93)
58年	212(16)	105(7)	222(20)	220(17)	80(12)	250(33)	1,089(105)
59年	212(16)	106(7)	228(20)	235(20)	80(12)	278(37)	1,139(112)
60年	218(16)	105(7)	230(20)	245(20)	80(12)	278(37)	1,156(112)
61年	225(18)	106(7)	235(21)	265(20)	80(12)	278(37)	1,189(115)
62年	242(18)	106(7)	244(21)	275(21)	80(12)	278(37)	1,225(116)
63年	242(18)	106(7)	255(24)	291(20)	80(12)	278(37)	1,252(118)
平成元年	252(20)	106(7)	255(24)	355(23)	80(12)	278(37)	1,326(123)
2年	252(19)	106(7)	255(24)	355(23)	80(12)	278(37)	1,326(122)
3年	254(19)	106(7)	285(27)	363(25)	80(12)	278(37)	1,366(127)
4年	254(19)	106(7)	287(27)	365(25)	80(12)	278(37)	1,370(127)
5年	254(19)	106(7)	287(27)	380(26)	80(12)	278(37)	1,385(128)
6年	256(19)	105(7)	302(28)	415(27)	80(12)	278(37)	1,436(130)
7年	256(19)	106(7)	300(28)	517(27)	80(12)	288(37)	1,547(130)

町 会 決 算 推 移

年 度	金 額	年 度	金 額
昭和51年	1,951,087	昭和61年	6,477,853
52	3,358,441	62	7,504,917
53	3,923,607	63	7,977,966
54	4,405,475	平成元年	9,439,056
55	4,855,275	2	9,243,223
56	5,104,238	3	8,697,827
57	5,516,970	4	8,972,421
58	5,930,012	5	9,743,433
59	5,869,617	6	10,937,226
60	6,488,462	7年度予算	11,640,584

▶ 事業部の紹介 ◀

町会の中では、現在6部会が活動を行っております。

- きれいな環境に……と、主に可燃ごみ、不燃ごみをはじめ、春・秋のクリーン作戦等に係わる「保健衛生部」
- スポーツをはじめとし、趣味、娯楽、倶楽部、また将来への展望として、美術、芸術、文学等の文化系、また教養系の強化に夢はせている「文化体育部」
- 毎月20日は防犯の日と定め、「カギかけ・声かけ・心がけ」の三かけ運動の推進、町内からの犯罪がなくなるよう、広く運動している「防犯部」
- 今や車社会、交通事故はどこで遭遇するかわかりません……と、安全指導。太田市での「交通災害共済」制度も紹介「交通安全部」
- 交通安全対策などで、お気付きの点がありましたらご連絡を……と、交通安全部と共に活動する「婦人交通部」
- あってはならない火災。万一にそなえて、消火器（消火器設置の義務はありません）での初期消火は役立ちます。また、火災時の心得も大切、と予防に力を入れる「婦人防火部」

町内6部会的一端を記したい。

保 健 衛 生 部

部 長 及 川 茂 美

市行政の役割である保健衛生委員として、宝町内における予防検診、予防広報等の保健に関すること、またごみ、危険物、汚泥等の衛生に関する業務を担当。町内に住む人たちが健康で、住みやすく、清潔な町でありつづけるためのお手伝いを役割としています。

10月より「カン」と「ビン」の分別収集

第1・第3水曜日（祝日・振替休日と重なった場合は収集は休み）

出 し 方		回収するもの	出せません
① 回収日の朝8時30分までに 出して下さい ② 袋から出してカン、無色ビン、 色付きビン用のカゴに分けて 入れて下さい ③ 回収するもの以外は入れない で下さい ④ カゴがいっぱいの時は、袋の ままカゴのまわりに置いて 下さい ⑤ 中をざっとすすいで下さい ⑥ フタはとって下さい （ビンについているフタ等） ⑦ カンはできるだけつぶし、ビ ンは寝かせて入れて下さい	ビン類	酒ビン ビールビン 清涼飲料のビン 食品類のビン 洋酒ビン	割れたビン 油のついたビン 化粧品類のビン 陶磁器類（茶碗等） グラス・コップ等 ペットボトル 蛍光管・電球 鏡・窓ガラス等
	カン類	飲みもののカン 果物の缶詰めのカン のり・茶筒カン 菓子カン ビールカン 清涼飲料水のカン	ペンキカン 油のついたカン スプレーカン 一斗カン 大きなカン

◆ わたしたちの町です。みんなできれいにしましょう。

文化体育部

相談役 新 島 力 雄

体育・趣味・娯楽等、宝町住人の福利（幸福と利益）厚生全般を担い、お手伝いする部会。宝泉体協（宝泉地区体育協会）主催の各種行事参加（宝町20周年記念誌に賞状を記録）には、愛好会との連携により、出場選手の選出及びその連絡等、世話役をつとめ、又町内各行事においても積極的に協力し、楽しく明るい、活気ある町づくりのために活動している。

宝町のスポーツは宝町20周年記念誌に賞状を記録したように、また歴代町会長座談会の中で、三代・本多俊一町会長の記にもあるように活発であった。全国的には女子のソフトボールの活躍があり、国体（国民体育大会）出場者や大相撲で序二段（この秋場所）の力士もいる。

一方、文化面ではあまり表面に現れていないが、文化部、のち文化体育部の域から外れるものの、町内には各方面で活動されているみなさんの様子がうかがえる。

国際的芸術家には、ローザンヌ・バレエ・コンクールをはじめ「バレエ」で活躍する人や、世界書展やベルギー展など、「書」で参加の書家。国内での中央（東京）活動では、絵画で数人、また女流王将戦などの棋士もいる。県内活動では、絵画、陶芸等の作家が長年にわたり県美術展（県展）に入選しており、また、県央（前橋）での展覧会にも出品している。マンドリン音楽でも町内関係者が多数おり、高崎の音楽センターをはじめ、市内でも毎年定期演奏会を開き、宝町の子供会が招待を受けたこともある。市内活動は、太田市勤労者美術展で知事賞を受けた画家や同展の審査員、同好会会長など巾広い人材がある。書道では、故人となられた矢田部一華、勝山信泉、金井好道の門下生がたくさんいる。文学においても全国レベルで活動している人や、新聞を発行している人もいる。

防 犯 部

部 長 荒 井 清

太田市防犯協会委員として、防犯部員は防犯意識の啓蒙、夜間の巡回、広報活動、防犯診断等のほか、防犯灯の増設、維持管理を行い、犯罪のない明るい町を目指して活動をつづけている。「住民一人ひとりが、事件・事故に注意して、安全で住みよい街づくりを……。」

安全で住みよい地域社会の実現は、みんなの願い。

都市化の進展、住民意識の多様化、私たちの身近に犯罪が発生しないように、地域における生活の安全を守るため、防犯活動を行っている。

- 広報活動の推進
- 暴力団追放運動の推進
- 侵入盗防止対策の推進
- 少年を取り巻く環境浄化活動の推進
- 性犯罪の防止活動の推進
- 覚醒剤を拒絶する社会環境づくりの推進
- 各種防犯活動の効果的推進
- 地域安全活動の推進

交通安全部 婦人交通部

部長 足立孝雄
部長 青木幸子

宝町が発足して20年。宝町交通安全部は、

毎月1日——県民交通安全運動

15日——太田市指定交通安全運動と広報、及び街頭指導実施

夏——県民総ぐるみ交通安全運動

秋——全国交通安全運動

と、巾広く活動してきました。住民の安全協力のもと、20年間に及ぶ交通安全指導が続けられ、今後もよりよい町づくりのため、交通安全は町民全体でありたい。

宝町の西に宝泉中学校、東には宝泉小学校があり、朝と午後は登下校の生徒が行き交う。宝町の中央の道路は、前橋・館林線（伊勢崎県道）へ。また、同線からの通り抜けの車両が日増しに増え、信号機も3基備え付けられたが、より一層の安全を望みたい。

婦人防火部

部長 石橋正子

太田市婦人防火クラブ宝泉支部第二班の防火クラブ員として、消防団の隊員の指導のもとに防火活動を行っております。昭和55年、消防百年を機会に創設されて以来、火災ゼロの太田市を目指して、防火クラブ員は、太田市民一人ひとりの防火に対する意識を深めてもらうための活動をしております。宝町は現在まで、一般住宅の火災はゼロです。この記録は延ばし続けたいものです。

地震三原則 ① その場に合った身の安全
② す早く火の始末
③ 隣近所の助け合い

指定避難場所 ① 宝泉中学校
② 宝泉小学校
③ 宝泉公民館等

非常の備え	非常食	乾パン・ビスケット・即席ラーメン等 缶詰(調理なしで食べられる物)・水(最低一人1リットル位)
	救急セット	消毒薬・脱脂綿・包帯・絆創膏等
	衣類	セーター・軍手・毛布・下着類等
	その他	現金(10円硬貨等も)・預金通帳・証書類・懐中電灯 ローソク・トランジスターラジオ・乾電池・マッチ・印鑑 ライター・卓上コンロ・アドレス帳・ボールペン・貴重品等 ★乳幼児のいる家庭：粉ミルク・オムツ等3日分位

宝 町 ・ 町 会 本 部 役 員

役 職	昭和 51 年度	昭和 52 年度	昭和 53 年度	昭和 54 年度	昭和 55 年度
会 長	岩 瀬 更 生	岩 瀬 更 生	岩 瀬 更 生	岩 瀬 更 生	岩 瀬 更 生
副 会 長	依 田 和 三	依 田 和 三	平 間 正 二 郎	平 間 正 二 郎	平 間 正 二 郎
書 記	大 橋 内 本 義 隆	新 井 俊 博	斎 藤 恒 雄	斎 藤 恒 雄	須 藤 三 郎
会 計	田 辺 進 昇	大 内 義 隆	大 内 義 隆	榎 田 賢 治	大 北 島 賢 治
会 計 監 査	川 田 智 恵	藤 田 邦 正 田 晴 夫	佐 久 間 俊 雄	小 椋 孝 夫	小 池 裕 美 男
区 長	東 関 城 田 崎 山 木	高 木 勝 治	湯 田 秋 一	湯 田 秋 一	岩 崎 好 助
部	西 南 依 宮 丸 茂	大 前 美 道 秋 一	川 口 伊 佐 正 一	井 上 井 下 地 上	今 辻 新 井 原 康 一
会	北 南 北 市	米 茂 木 小 林 真 一	小 塚 見 忠 則	武 尾 上 幸 義	篠 田 吉 田 西 保 四 郎
総 務	伴 根 常 野 井	湯 大 柿 猪 倉 常	平 塚 清 武 梅 宏	大 竹 平 賀 野 像 田	小 久 渡 星 川 安
施 設	化 野 伊 勢 貞 男	利 章 敬 男	太 郎 雄 光 吉 侑 敬	隆 浩 雄 吉 侑 敬	宏 郎 淳 吉 一 康
文 防 犯 保 衛 生 交 通 安 全					

役 職	昭和 56 年度	昭和 57 年度	昭和 58 年度	昭和 59 年度	昭和 60 年度
会 長	岩 瀬 更 生	平 間 正 二 郎	本 多 俊 一	本 多 俊 一	岩 崎 好 助
副 会 長	平 間 正 二 郎	本 多 俊 一	辻 俊 夫	辻 俊 夫	大 槻 政 司
顧 問					大 堀 斎 藤 耕 一 平 生
書 記	須 藤 三 郎	岩 丸 山 浦 隆 史	岩 瀬 更 生	岩 瀬 更 生	岩 瀬 更 生
会 計	藤 井 三 郎	久 保 田 均	常 松 房 文 男	常 松 房 文 男	大 白 井 栄 徳 二 成
会 計 監 査	北 島 賢 治	石 関 勝 衛 勲	藤 井 勲 均	伴 松 村 日 出 幸 夫	斎 藤 直 井 堅 二
区 長	東 岩 崎 好 助	岩 崎 好 助	岩 崎 好 助	岩 崎 好 助	大 槻 政 司
部	西 南 北 市	千 堀 江 水 島 暮 秀	五 堀 江 水 島 暮 秀	五 堀 江 水 島 暮 秀	小 堀 佐 関 石 斎 西 長 大 足 橋
会	務 化 犯 保 衛 生 交 通 安 全 婦	小 浅 荒 森 竹 柴	斎 藤 伸 一 泉 郎 敬 子	斎 藤 伸 一 敦 郎 徹 弘 子	斎 藤 伸 一 敦 郎 徹 弘 子

[illegible]

宝町・地区役員

(複数選出地区有)

役員	昭和51年度	昭和52年度	昭和53年度	昭和54年度	昭和55年度
副地区長	北 東宮地司朗 西久保田芳雄 南関山二朗 北高橋潔雄・杉山均 市	小野昭三・川田智恵			根岸勝章 樽原次郎
会 計	東宮地司朗 西久保田芳雄 南関山二朗 北高橋潔雄・杉山均 市	小島政敏 高橋健二・山田敏一 大谷恭陽 黒岩充男 山田政夫・石塚久則 長沢秀男	竹中栄一 天笠徹一 川田光俊 新井敏夫 石井敏夫 松村日出幸	鳥山建夫 鈴木利夫 金谷三悦 新小島慎 内田慎	前芝和夫 藤生久生 大根田耕平 伊岸勝文 清永義雄
文 化	東常田敬・青木勇 西小塚幸哉 南安達秋康・古内博 北石川博志 市高橋道彦・鈴木正美	柿沼法明 仲川清博 古内博志 石川博二 岡田伸	清水弘・柿沼法明 中村要人 川島武光 新島力雄・石川博志 武地敏行 久保田克夫	藤井勲・横谷彰夫 中村要人 賀勇雄 木津寛 曾我部	小金沢仁志・小黒康晴 渡辺淳 岡田修 竹吉弘・高橋紀夫 小林一佳 工藤清美
保 健 衛 生	東広瀬凱康二夫 西南金井貞敏 北安江敏彦 市古暮芳男・神山誠一	宮下正吉 倉持木 高崎美佐 茂木まつ子 尾島匠司	宗像宏志 青崎宏超 富岡武達 金谷達雄 栗田唯之	宗像宏志 板倉部 笠秀正 森島	山田紀夫 川崎孝幸 小方司・有坂文雄 須藤一男 桑原講二
防 犯	東渡沢辰雄 西南高木清・北爪実 北野口育夫・山中弘 市狩野伊勢男 堀田信秋・高井義男	猪俣嘉・塩谷洋三 田中庸夫・木暮豊 川田忠雄・佐藤昌男 星野梅吉・久保四郎 返田明・金子賢二 ABCグループ・白石雅雄 高橋秀幸・石川利信	塩谷洋三・荒井清 青木健三郎・田中剛 東正郎・新井靖 佐藤優・星野梅吉 野上庄一・樋野博文 島田幸雄・江原幹夫	荒井清・長谷川太一郎 石坂三雄・木暮豊 新井品次 星野梅吉・宮本正雄 深沢進・斎藤正夫 井口悟・山田珠美	荒井清・長谷川太一郎 大竹千代蔵・井上義朗 新家新三郎・芹沢三夫 星野梅吉・御纏征寿 小沢逸治 青木実・阿部具子 相沢勝敏・栗原時雄
総 務	東大佐前美由 西南伴野秀男 北場利太 市岡谷幸創 三	湯山秋敏 田田尾義宜 林三敦・西沢健二 天笠敦	平塚清太 高木上明 道平克春 高橋井春	大内義隆 我妻野泉 大松大長 山千代司	小西健昌 木村桂英 山藤浦雅 伊箕久保 大久保雅司
施 設	東高町橋国道夫 西南丸田山岸勝文 北根岸田勝文 市	大川正秀 福道上原稔・星野光司 道伊飯島	本竹勝一 小此木忠寿 尾沢田 芹	本竹勝一 浩今安晶 大山啓利 浦野木利	勝一 堀庄二 高野保正 久保橋人 高橋正一 服部紘
交 通 安 全	東東 西南西南 北北 市市	常猪田敬 猪木暮泉 小工藤隆・高橋弘 神谷	常田敬・猪俣嘉 秋山 安達秋 工藤倉山 熊和	嘉守 秋山 康 工藤志久 杉吉	常田敬・武内朋行 樽原秀蔵 石坂三雄・鈴木利光 安達秋康・浅見貞雄 永野正義・島袋英治 富沢幸二 国井勉・吉田屯
交 婦 通 人	東東 南南				宗像弘子・青木好子 塩谷京子 柴里子・斎藤俊江

※ 昭和51年度から昭和55年度までは半年交替の地区・時期有

役員	昭和56年度				昭和57年度				昭和58年度				昭和59年度				昭和60年度			
地区副区長	東西南北 小町寺	東西南北 塚今山	東西南北 小津金	東西南北 前柴	東西南北 斎藤	東西南北 山崎	東西南北 山崎	東西南北 山崎	東西南北 山崎	東西南北 山崎	東西南北 山崎	東西南北 山崎	東西南北 山崎	東西南北 山崎	東西南北 山崎	東西南北 山崎	東西南北 山崎	東西南北 山崎	東西南北 山崎	東西南北 山崎
会 計	小町寺	塚今山	小津金	前柴	斎藤	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎
文 化	小町寺	塚今山	小津金	前柴	斎藤	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎
保 健	小町寺	塚今山	小津金	前柴	斎藤	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎
防 犯	小町寺	塚今山	小津金	前柴	斎藤	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎
総 務	小町寺	塚今山	小津金	前柴	斎藤	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎
交 通	小町寺	塚今山	小津金	前柴	斎藤	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎
安 全	小町寺	塚今山	小津金	前柴	斎藤	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎
婦 人 交 通	小町寺	塚今山	小津金	前柴	斎藤	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎
婦 人 防 火	小町寺	塚今山	小津金	前柴	斎藤	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎	山崎

役員	平成3年度				平成4年度				平成5年度				平成6年度				平成7年度					
地区副区長	東西南北 市	一中河神石須	一場島田谷井永	義茂正敏辰	雄樹一隆夫雄	一天小向井幸竹	場笠林幸男内	義幸五十嵐	雄徹男剛弘	山高中小宮山雅行 小暮野	崎橋野山田純一 暮秀稔	雪健信山田純一 秀稔	光二夫柳落	山小新今泉	崎堀井正田中 武幸	雪次田武幸	光郎昭誠男夫	宗矢遠竹川深	像部藤吉口堀	宏久健敦義	侑雄一弘司和	
会計	東西南北 市	太田今相中真	刀中安川島貝	又庸晶公	吉夫夫博明彰	田中郡佐返藤	村村司野田塚	恵武喜隆貞	弘彦六志明吉	宮飯高若金堤	下島橋杉谷	博光菊一修弘	和明江宏一志	長橋石渡長近	谷本井辺谷藤	川と誠義孝	良き一純幸	春子郎浩純幸	今川栗小星小	井村田岩野林	弘政博哲昌	二司之郎洋実
文化体育	東西南北 市	橋本茂・浅井哲男 亀ヶ沢美輝雄二 佐野秀男・高橋健二 斎藤晃・富沢真二 長島秀夫・赤石政男 永野正義・諸星有一 金子孝行 長竹秀起・松山隆治 堀田邦房	茂・浅井哲男 美輝雄二 高橋健二 富沢真二 赤石政男 諸星有一 孝行 松山隆治 堀田邦房	浅井哲男 美輝雄二 高橋健二 富沢真二 赤石政男 諸星有一 孝行 松山隆治 堀田邦房	男雄二 雄二 健二 真二 政男 有一 行 隆治 邦房	鍵田実・内田雅男 五十嵐一二三 笠原清治・青木健三郎 伴場裕・斎藤義也 水谷年光 岩松清市・森尻武昭 山田輝昭 茂牧甲児・富岡健司 大清水政幸寿	男一二三 健三郎 義也 光 武昭 輝昭 健司 政幸寿	雅男 健三郎 義也 光 武昭 輝昭 健司 政幸寿	須藤睦雄・井上恒男 金子徳三郎 井上一男・我妻勲 内田一吉・吉田恵洋 生方啓三 岩松清市・田中耕二 新島力雄・山本教之 久米川正志・吉沢薫 鈴藤一幸 加藤啓治	睦雄・井上恒男 徳三郎 我妻勲 吉田恵洋 啓三 耕二 教之 吉沢薫 一幸 啓治	恒男 三郎 勲 恵洋 啓三 耕二 教之 吉沢薫 一幸 啓治	和明江宏一志	田辺琢也・山中昇操 石川高田睦久・中井明生 大沢誠一・永江勲 佐藤辰之丞 新島力雄・渡辺好造 岡部明男・小田中範巳 鈴木宏明・石川穰 笠野松浩孝 野口孝一	琢也・山中昇操 高田睦久・中井明生 大沢誠一・永江勲 辰之丞 渡辺好造 小田中範巳 石川穰 松浩孝 野口孝一	山中昇操 中井明生 永江勲 渡辺好造 小田中範巳 石川穰 松浩孝 野口孝一	昇操 明生 勲 好造 範巳 穰 浩孝 孝一	塚越宣雄・小林稔 大槻一清・星野晃 田中勉・相崎勝彦 小暮剛・中島邦男 小山日出男 大関善弘・高橋信幸 島崎喜好・新島力雄 細川堅志・川島隆浩 落合幸矢・金子孝	宣雄・小林稔 一清・星野晃 勉・相崎勝彦 剛・中島邦男 日出男 善弘・高橋信幸 喜好・新島力雄 堅志・川島隆浩 幸矢・金子孝	小林稔 星野晃 相崎勝彦 中島邦男 日出男 高橋信幸 新島力雄 川島隆浩 金子孝	稔 晃 彦 男 男 幸 雄 史		
保健衛生	東西南北 市	荒板鳴深白石	井倉海沢石関	勝哲裕邦和	清洋二司雄則	荒猪高下大下半	井俣野泉田	明二和	清生男洋豊之	前藤昌小及桜	芝生山沢川井	千久光逸茂達	賀夫良治美郎	田藤前吉及塚	原生原田川越	博久良政茂	男夫一治美修	鳥池長鈴木寛充及阿部	山浦谷寛茂川部	建昌鐮黒田茂岩	夫子一平美次	
防犯	東西南北 市	長谷川太一 東江瀨政 関口治安 久保田均 栗原時雄	谷川更一郎 瀨政 星野一亥 花輪守留 尾島孝昭	太一 更一郎 星野一亥 花輪守留 尾島孝昭	一郎 更一郎 星野一亥 花輪守留 尾島孝昭	岩瀬更生・橋本修弘 清水鈴木利晴 岡村晴重 星野一亥・久保田均 花輪守留・関口治安 小林雅偉 栗原時雄・尾島孝昭	更生・橋本修弘 鈴木利晴 村晴重 久保田均 関口治安 雅偉 尾島孝昭	橋本修弘 利晴 晴重 均 治安 偉 孝昭	岩瀬更生・橋本修弘 清水鈴木利晴 岡村晴重 星野一亥・久保田均 花輪守留・関口治安 小林雅偉 栗原時雄・尾島孝昭	更生・橋本修弘 鈴木利晴 村晴重 久保田均 関口治安 雅偉 尾島孝昭	橋本修弘 利晴 晴重 均 治安 偉 孝昭	生昭明秋 保達 花輪守留 安治安 木国義 栗原時雄・尾島孝昭	荒井昭中達秋 田安達秋 杉田光治・高橋聡秀 塚越政明 六本木国義 栗原時雄・尾島孝昭	井昭中達秋 安達秋 光治・高橋聡秀 越政明 本木国義 栗原時雄・尾島孝昭	清夫昭敏 豊山康 安達秋康・佐々木敬 高橋聡秀・塚越政明 星野一亥 六本木国義 栗原時雄・尾島孝昭	昭敏 山康 秋康・佐々木敬 聡秀・塚越政明 一亥 本木国義 栗原時雄・尾島孝昭	昭敏 山康 秋康・佐々木敬 聡秀・塚越政明 一亥 本木国義 栗原時雄・尾島孝昭	清夫昭敏 豊山康 安達秋康・佐々木敬 高橋聡秀・塚越政明 星野一亥 六本木国義 栗原時雄・尾島孝昭	昭敏 山康 秋康・佐々木敬 聡秀・塚越政明 一亥 本木国義 栗原時雄・尾島孝昭	清夫昭敏 豊山康 安達秋康・佐々木敬 高橋聡秀・塚越政明 星野一亥 六本木国義 栗原時雄・尾島孝昭		
交通安全	東西南北 市	常田敬・山田美男 神宮勝彦 足立孝雄 清水武夫・鈴木浩勝 遠藤勝 増田健司・安村利夫 長谷川隆史 西沢捷治 桑原講二・石川利信	敬・山田美男 勝彦 孝雄 鈴木浩勝 勝 安村利夫 隆史 捷治 石川利信	山田美男 勝彦 孝雄 鈴木浩勝 勝 安村利夫 隆史 捷治 石川利信	美男 勝彦 孝雄 鈴木浩勝 勝 安村利夫 隆史 捷治 石川利信	常田敬・岩崎好助 斎藤真孝雄 足立孝雄 新井靖・福島守道 塚越浩之 藤沢義明・清水千之 小暮秀庄一 石井邦広・保坂和久	敬・岩崎好助 真孝雄 孝雄 靖・福島守道 浩之 義明・清水千之 秀庄一 邦広・保坂和久	好助 孝雄 雄 守道 之 千之 庄一 和久	常田敬・田中敏明 杉戸孝雄 足立孝雄 高橋治・石関勝衛 中庭徹 上武寛之・佐瀬かつ江 野田清次郎 小野里正孝 末松謙太郎・斎藤貞雄	敬・田中敏明 孝雄 孝雄 治・石関勝衛 庭徹 かつ江 清次郎 里正孝 貞雄	田中敏明 孝雄 孝雄 石関勝衛 庭徹 かつ江 清次郎 里正孝 貞雄	常田敬・橋本隆行 冲村孝雄 足立孝雄 薊理江・上村芳照 小此木清 安江敏彦・大江教雄 松村日出幸也 松岡孝 近藤克也・渋沢浩治	敬・橋本隆行 孝雄 孝雄 上村芳照 清 教雄 日出幸也 孝 浩治	橋本隆行 孝雄 孝雄 上村芳照 清 教雄 日出幸也 孝 浩治	園田朝民・高橋利光 常田孝雄 足立孝雄 斎藤良弘・佐藤昌男 柳沢宣子 原沢芳治・柿沼和利 柳田勝太郎 鈴木宏明 土屋稔・石原東一	朝民・高橋利光 孝雄 孝雄 良弘・佐藤昌男 宣子 和利 勝太郎 宏明 石原東一	高橋利光 孝雄 孝雄 佐藤昌男 子 郎 明 一	利光 雄 雄 昌男 子 郎 明 一	利光 雄 雄 昌男 子 郎 明 一			
婦人交通	東西南北 市	熊中安金佐対	谷村八十子 崎子 野千鶴 比地照	邦子 子 鶴 照	子枝 子 子 子	平塚佳子・青木幸子 竹島静ミ子 栗原末世子 井上沢直美 野薄井	佳子・青木幸子 静ミ子 末世子 沢直美 薄井	青木幸子 静ミ子 末世子 沢直美 薄井	青木幸子 静ミ子 末世子 沢直美 薄井	木上川幸子 高小武南 笠原玉ゆ孝 雲孝	幸子 桂匡 原玉ゆ孝 雲孝	子江江江子 子江江江子 子江江江子 子江江江子	青木幸子 山下真由重 木野八重 内八重	幸子 真由重 木野八重 内八重	子操子子佳子 子操子子佳子 子操子子佳子 子操子子佳子	青木幸子 木千恵 田上陽 井上陽	木幸子 千恵 千恵 千恵	幸子 千恵 千恵 千恵	子子子子子子 子子子子子子 子子子子子子 子子子子子子			
婦人防火	東西南北 市	高関渡根岸伊長	橋口喜代 田雅子・生田禮子 藤弘秀	全正代 子美子 子美子 子美子	子子子子子子 子子子子子子 子子子子子子 子子子子子子	広瀬久子 口トモ子 畑橋正子 村くみ子 石橋村島	久子 トモ子 正子 正子 村島	代子子子子子 子子子子子子 子子子子子子 子子子子子子	木古栗石伊松 村畑原橋原島 春光澄正津 枝子江子子枝	幸子 桂匡 原玉ゆ孝 雲孝	子江江江子 子江江江子 子江江江子 子江江江子	青木幸子 山下真由重 木野八重 内八重	幸子 真由重 木野八重 内八重	子操子子佳子 子操子子佳子 子操子子佳子 子操子子佳子	青木幸子 木千恵 田上陽 井上陽	木幸子 千恵 千恵 千恵	幸子 千恵 千恵 千恵	子子子子子子 子子子子子子 子子子子子子 子子子子子子				

隣 組 長

<東 部>

組	昭和51年度	昭和52年度	昭和53年度	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度
1	天笠尚次	原沢則勝	高木俊次	武内朋行	竹田和宏	斎藤武雄	内田雅男
2	及川博之	小金沢仁志	渋谷辰雄	千葉賢一	須賀直治	県和夫	清水弘
3	古野時男	清水正義	尾崎勇	横谷彰夫	飯塚清彦	橋本修	新井昇
4	沖村景	八代昌尚	小沢功	綿貫文夫	森尻滝雄	亀ヶ沢美輝雄	大内義隆
5	五十嵐一二三	大沢照夫	原田邦行	川畑征昭	栄井孝雄	半田清二	吉岡邦男
6	森	中島孝誉	重田功	小西宏	田村恵弘	田村敬章	田原博男
7	柴崎和夫	太田義征	猪俣嘉	栗原英治	藤井勲	芦輝雄	大槻勝男
8	(未入居)	光山晶善	本多俊一	太刀川辰雄	小暮健次	長谷川良春	山内一也
9	栗田治呂	石村信弘	山田美男	須藤睦雄	斎藤哲男	戸崎康宣	今井弘二
10	菊地敏弘	宮内正之	長谷川太一郎	野原一雄	諏訪昭夫	小玉靖人	大友晋
11	大前美由	村田迪司	長谷川守男	青木勇	糟谷一久	神宮勝彦	木村幹雄
12	清藤敏郎	渡辺哲夫	高橋博	前芝和夫	塚越恒雄	正田トシ	小島正敏
13	高橋国夫	相田義郎	根本貞夫	権田昭光	大崎正成	青木邦充	森山日出雄
14	細野	野原憲作	根岸好	苗崎吉弘	長沢章夫	前田敦弘	宮下博和
15	秋山	小黒康晴	広瀬凱康	田中敏明	福田紀男	大槻政夫	内田正男
16	—	—	—	大谷信男	渡辺貞行	五十木元次	森田三千雄

<西 部>

A	(1)	仲川清	天笠徹	鈴木利光	藤生久夫	高田睦久	川村政司
B	(2)	高橋健二	川口伊佐雄	我妻勲	大竹千代蔵	相崎徳蔵	山中真
C	(3)	高岸道也	竹島浩	石坂三雄	小堀庄次郎	中井昭生	池浦昌子
D	(4)	田中庸夫	青木健三郎	井上義郎	渡辺淳	天笠俊英	矢部久雄
E	(5)	倉村吉男	青崎宏志	板倉勝洋	今家正敬	古畑光子	平原登美子
K	(6)	山田敏一	高木清	木暮豊	川崎孝一	千葉英一	宮坂しげ子
N	(7)	福秀正	中村要人	北島賢治	木村健二	大山隆司	青田勝利

<南 部>

1		横尾隆	1 山崎春松	1 高木政一	1 西山泰	1 佐藤征洋	鳴海哲二
2		佐々木毅	2 東正郎	2 後藤守	2 小泉晟	2 鳥羽治男	斎藤伸一
3		阿部敬男	3 道上明宏	3 大竹剛	3 須藤三郎	3 長谷川充男	内田一吉
4		山田幸朗	4 山木一郎	4 相沢喜一	4 斎藤晃	4 今安晶夫	関根源弘
5		郡司喜六	5 金谷和友	5 吉岡三郎	5 柴昇	5 松野勇	平林幸一
6		清水博	6A 猪瀬孝	6A 平賀勇雄	6A 大久保武泰	6 新井靖	太田雄康
7		川田光一	6B 金井稔	6B 新井郁夫	6B 近野弘	7 岩田勝己	奈良仙吉
8		津久井文次	7 田部井朝保	7 丸山尚文	7A 浅見貞雄	8 河田正一	塚田兵衛
9		大塚征二	8 清水武夫	8A 松本留吉	7B 深沢賢治	9 野崎睦夫	茂木泉
10		小宮弘行	9 竹沢邦雄	8B 金谷実	8A 中西紀夫	10 芦沢三夫	中野信夫
11		小此木清	10 庭山熙彦	9 竹沢邦雄	8B 渡辺稔	11 石井克典	石井誠一郎
12		吉田恵洋	11 青木繁雄	10 宮本国夫	9 渡辺信善	12 金井貞男	黒田郁夫
13		大谷恭陽	12 西倉志郎	11 石関繁雄	10 高野二男	13 滝原喜男	伴場文男
14		宮沢真二	13 金谷満州男	12 辻俊夫	11 清水巖	14 山田邦夫	伴場浩
		—	14 安藤正行	13 阿部喜蔵	12 宮崎真吉	15 下山一夫	永江勲
細移動有		—	—	14 岡部喜代志	13 滝沢弘江	16 横島篤男	霜田好弘
		—	—	15 福村祐三郎	14A 此島時次	17 遠藤勝	中庭徹
		—	—	16 新井品治	14B 北原広志	18 森宣典	栗原正敏
		—	—	—	15 高木靖光	19 本多晃	曾田金治
		—	—	—	16 飯塚豊治	20 佐々木敬	藤生富次郎

<北 部>

組	昭和51年度	昭和52年度	昭和53年度	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度
1		橋本行雄	新島力雄	新井克紀	竹吉弘	林寛治	田島武二
2		狩野伊勢男	蟻川弁次	新井三男	小沢逸治	岡部邦男	藤原保雄
3		藤田慎吾	黒崎邦夫	宮本政雄	伊藤佳子	笠原道夫	向井幸男
4		新井伸一	正田弘	小椋孝	根岸勝章	清水信男	丸山隆史
5		小川昌宏	尾頭忠雄	大泉洋	永野正義	小原雅弘	黒岩充男
6		青木光男	坂間新一	大山啓作	高橋紀夫	後藤完二	原崎実
7		原沢芳治	石川博志	茂木清	飯塚裕治	高倉文晴	茂木司郎
8		大関善弘	新井俊博	馬場三雄	茂木喜美男	高田敏和	米田一男
9					久保四郎	花輪守留	山下時男
10		石関岩男	大平守	関口治安	酒井文男	久保田均	関田和文
11		鈴木寛充	富岡武文	越後健悦	御纏征寿	館野忠夫	本木久夫
12		落合進	佐藤優章	天笠秀夫	小島袋英治	津布久蔵	星野一亥
13		徳山秀夫	岡田	志水功	有坂文雄	島崎美佐子	小池栄二
14					新井忠男	福田政代	小暮忠雄
15						金谷修作	増田健司
16						片岡貞雄	小林巧
17						山田昇	金井光子

<県 部>

1		返田明	野上庄一				其田光弘
2		小野昭三	松沢寿雄				山形光男
3		飯島稔	高橋克典				塚越和美
4		天笠敦	萩本光男				米谷正勝
5		岡田伸一	武地敏行				関根文雄
6		茂木松子	真下信一				鈴木宏明
7		堀江重政	金谷達雄				持田真人
8		藤田邦正	児玉悦直				大野米雄
9		塩見政夫	斎藤敏夫				井根武
10		山田政二	桶野博文				関根清
11		金子賢隆	熊倉忠志				風戸和男
12		神谷					飯塚

<市 部>

A	1	反田真人	秋山和久	内田正之	榎原次郎	浅賀信男	池田悦男
B	2	長沢英男	江原幹夫	竹内敏幸	越智修	田島実	島田幸雄
C	3	井上良子	芦田勲	久保田光男	橋本謙一	寺尾実	高田勇治
D	4	小林広	久保田克夫	吉田康寛	工藤清美	金谷次雄	荒井精一
E	5	春山淳三	金井春男	加藤昭次	木村克光	戸崎正雄	田野芳勝
F	6	松島清司	南雲正美	西村涉	長沼正之	木暮秀夫	関根光宏
G	7	橋本英昭	小林恒雄	長谷川敏明	栗原	木成茂男	原武雄
H	8	土屋栄治	山口賢載	山田珠膜	金子明	鈴木二夫	小林真一
I	9			浜谷和彦	青木啓雅	水品富士夫	尾内幸
J	10			村岡清	大須賀	塚森	菊池恵美子
K	11			近藤克也	大野政幸	曾我部徹	菊池恵美子
L	12			内田慎二	清水義雄	高橋徹	井上正
M	13	57年度 新棟組長 下田英男・山内幸一 石田 仁・高瀬 博 鈴木和夫・城代隆良 小暮秀雄・高柳忠昭 宮崎 博・田口彰一 潮見貞三・栗原祐二					青木規幸
N	14						川本茂男
O	15						篠原鈴男
P	16						吉田浩
Q	17						能登谷
R	18						町田秀仁
S	19						斎藤昭夫
T	20			真佐藤陽次	北沢敏	川田幸	小暮明
U	21			深堀義和	栗原真澄	森村治夫	新井正尚

子 ども 会 育 成 会

平成6年度子ども会育成会

会 長 天 笠 久 江

■ 活 動 に つ い て

宝町子ども会育成会は、昭和52年7月に発足して以来、今日まで歩んできました。子ども会には、小学1年生から中学3年生までが入会しております。その子ども会を援助していくのが育成会の仕事です。

昭和60年度の子どもの会員は1,049人でしたが、平成6年度では581人です。子供達が減少して行く傾向はこれからも続いて行きますが、未来を担う子ども達に健全な活動ができるように、子ども会育成会の役割は大きいと考えます。

スポーツ少年団・塾・部活動など、忙しい日々を過ごしている子ども達も多いと思います。本年度の行事は、次ページに掲載しました。是非参加して、楽しい一時を過ごすように、ご家庭でも声をかけて下さい。

子 ども 会 活 動

平成6年度子ども会

会 長 小 黒 寛 子

子ども会では、毎年いろいろな行事を考えています。私たちがどうしたら楽しむことができるか、大人の人と役員の人達で相談しています。例えば、子ども大会、お化け大会、クリスマスツリーの大行進など、さまざまな行事を考え、取り組んできました。

中でも子ども大会は、大人の人達も参加して楽しく過ごすことができました。私は午前中、ウォークラリーに参加しました。大変暑い日だったので疲れました。おいしいお弁当を宝泉小の木陰で食べ、午後は宝町子ども大会で、○×クイズを楽しみました。

今年は、図書の役員がなくなりました。それは、借りる人が少なくなったからです。でも、育成会の役員さんに言うと借りられます。中学生も一緒に、小さい子の面倒を見てあげると、もっと楽しくなると思います。

子 ども 会 会 員 数

(町内戸数および戸数割合)

小学1年～中学3年(単位:人)

年度	地 区	東	西	南	北	県	市	計	備考
昭和 59 年	人 数	2 4 3	1 2 0	2 5 6	2 6 3	5 8	9 4	1,034	
	戸 数	2 1 8	1 0 5	2 3 0	2 4 5	8 0	2 7 8	1,156	
	人数/戸数	1.1	1.1	1.1	1.1	0.7	0.3	0.9	
平成 7 年	人 数	6 8	3 3	1 0 7	1 3 4	2 6	1 6 6	534	
	戸 数	2 5 6	1 0 6	3 0 0	5 1 7	8 0 2	8 8	1,547	
	人数/戸数	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.6	0.4	

昭和59年度は宝町10周年記念誌による、平成7年度子ども会会員数は平成7年5月1日現在育成会資料、戸数は平成7年1月31日現在で町会総会資料による。

宝町・育成会本部役員

役 員	昭和52年度	昭和53年度	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度
会 長	関 城 由 作	庭 山 熙 彦	庭 山 熙 彦	熊 倉 忠 志	川 口 伊 佐 雄
副 会 長	大 庭 下 山 栄 熙 二 彦	橋 本 喜 美 夫 三 郎	橋 本 喜 美 夫 三 郎	川 口 伊 佐 雄 夫 夫	西 倉 志 郎 八 郎 明
書 記	沢 岡 畑 田 義 久	高 野 橋 上 秀 庄 幸 一	木 田 成 中 茂 洋 夫 安	斎 藤 武 雄 清 夫 夫	茂 松 本 喜 美 夫 夫
会 計	金 広 井 島 秀 泰 隆 治 志 勇	安 清 達 水 秋 康 巖 勝 勲	清 我 高 石 橋 川 秀 俊 幸 一	中 長 野 根 信 三 雪 光 勇	中 井 野 上 信 昭 三 男 清
会 計 監 査	佐 青 野 木 庸 利 孝 明 一 夫 彦	久 保 田 芳 雄 邦 志 明 夫 男 安 夫	野 原 山 斎 中 仲 西 中 石 新 熊 杉 長 沢	橋 清 飯 石 杉 田 庭 高 荒 竹 井 西 矢 新 斎 郡 茂 松 金	山 斎 橋 高 中 庭 清 新 石 杉 矢 井 斎 金 菊 飯 板 関 新 白 関 川 深 飯 米
理 事	伴 坂 鈴 箕 木 相	場 従 木 浦 成 馬	上 沢 崎 藤 曾 根 志 信 三 忠 邦 秀 宗	本 水 塚 井 山 中 山 木 尾 内 上 倉 古 井 藤 司 木 本 子	崎 藤 本 木 村 山 水 井 井 山 古 上 藤 子 池 塚 倉 口 井 石 根 崎 堀 塚 田

平成6年度 子ども会年間行事

*子ども会会員数 男313人 女268人 計581人
*育成会役員数 231人

月	宝町子ども会の行事	宝泉地区子ども会の行事	太田市子ども会の行事	月	宝町子ども会の行事	宝泉地区子ども会の行事	太田市子ども会の行事
4	・子ども会総会(10日) ・子ども図書館(24日)	・土器づくり(9日)		10	・子ども図書館(23日) ・資源回収(23日)	・子ども大会 リハーサル(9日)	・子ども大会(16日)
5	・資源回収(22日) ・子ども図書館(22日)	・子ども会会長会議 (8日)		11	・子ども図書館(23日)		
6	・子ども大会(5日) ・子ども図書館(26日)	・子ども大会(5日)	・インリーダー 講習会(25~26日)	12	・クリスマスツリー大行進(17日) ・子ども図書館(25日)	・しめなわづくり (10日)	
7	・ラジオ体操(21~26日) ・子ども図書館(24日)		・太田祭り、みこし フェスティバル(23日)	1	・子ども図書館 (22日)	・上毛かるた大会 (15日)	・上毛かるた大会 (29日)
8	・夏祭り盆踊り練習・夏祭 り(6・7日)・子ども図書館(24 日)・お化け大会(28日)	・球技大会(6日) ・青健推ふれあい大会(21日)		2	・子ども図書館 (26日)	・卓球大会(19日)	
9	・地区運動会(11日) ・子ども図書館(24日)	・ふれあい広場 (10日)	・金山清掃(4日)	3	・子ども図書館 (26日)		・軽スポーツ大会 (5日)

*その他、宝町には6地区ありそれぞれの活動をおこなっている(東・西・南・北・県・市) *子ども会育成会の役員会は宝町・宝泉地区とも月一回。
*宝泉・太田地区の行事では、子ども会役員のみ人数制限がある場合がある。

役 員	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
会 長	西 倉 志 郎 井 上 昭 三 酒 根 興 一 長 三 男	木 幡 丈 文 高 勝 治 笠 木 正 茂 島 夫 神 木 隆 木 成 夫	木 幡 丈 文 高 勝 治 森 本 英 茂 木 文 藤 本 保 町 原 健 梶 田 英 夫 寿	町 田 健 寿 高 勝 治 斎 藤 一 金 子 英 黒 岩 伸 松 田 房 明 典 男
副 会 長	松 本 芳 夫 飯 塚 容 久 中 野 信 邦 白 石 夫 雄	清 井 水 弘 池 浦 三 中 野 信 望 山 崎 雪 夫 光	森 本 英 彰 石 坂 三 雄 清 水 弘 町 田 健 長 谷 井 純 中 野 信 夫	斎 藤 一 明 黒 岩 伸 典 荒 尾 清
会 計 監 査	中 村 良 明 竹 内 平 八 郎	荒 尾 清 酒 井 興 一	荒 尾 清 酒 井 興 一	荒 尾 清
理 事	庭 山 熙 彦 茂 木 沼 柿 尾 法 斎 藤 武 新 井 雪 山 崎 三 清 井 邦 石 上 義 杉 井 律 井 金 勝 菊 板 一 米 文 関 義 関 義 川 勝 深 田 勝 岡 久 高 藤 佐 茂 佐 金 藤 島 茂 子 金 田 高 山 草 間 神 谷 関 田 木 幡 幡 千 代 丈	藤 生 久 夫 岡 田 義 夫 小 泉 義 夫 草 間 義 夫 松 野 義 夫 新 井 義 夫 御 井 義 夫 白 井 義 夫 御 井 義 夫 白 井 義 夫 米 井 義 夫 竹 井 義 夫 井 井 義 夫 石 井 義 夫 川 井 義 夫 深 井 義 夫 吉 井 義 夫 町 井 義 夫 鳥 井 義 夫 関 井 義 夫 林 井 義 夫 津 井 義 夫	郎 一 彦 夫 志 有 熙 夫 倉 星 山 夫 本 島 口 夫 田 藤 子 夫 藤 子 夫 倉 本 夫 藤 本 夫 山 田 夫 田 林 夫 谷 井 夫 端 水 夫 原 保 夫 西 諸 庭 夫 松 飯 原 夫 高 斎 金 夫 飯 板 森 夫 佐 高 夫 島 梶 夫 小 長 夫 田 清 夫 藤 夫	廃 止 高 西 木 藤 梶 勝 志 丈 保 英 木 倉 幡 原 田 治 郎 文 雄 夫



賑やかに どじょうつかみをする子供達



楽しいキャンプ・花火大会

役 員	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度
会 長	梶 田 英 夫	尾 崎 勇	石 坂 三 雄	和 田 一 夫	八 木 五 月
副 会 長 (委 員 長)	高 木 勝 治	金 井 秀 邦	小 林 沢 一	松 野 佳 佳	黒 大 中 森 高
書 記	西 倉 治 郎	新 持 荒 塚	亀 梅 高 春	野 富 矢 野 堂	大 中 森 高 大 若
会 計 監 査	関 小 黒 橋 小 新	関 大 魚 長	梅 田 新 中 藤 松	梅 田 正 武 力 公 次 敏	中 吉 椎 平 松 大
副 委 員 長	町 藤 金 松 斎	梶 田 英 夫	尾 崎 越 田 山	石 中 亀 梅 高 春	和 松 野 富 矢
補 佐	田 原 子 田 藤	梶 田 英 夫	尾 崎 越 田 山	石 中 亀 梅 高 春	和 松 野 富 矢
理 事		高 西 木 倉 治 郎	高 西 木 倉 治 郎	高 西 木 倉 治 郎	高 西 木 倉 治 郎

役 員	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度(現在)
会 長	近 藤 亨	石 橋 貴 美 子	内 田 恵 美 子	天 笠 久 江	檜 堀 大 北 飽 笠
副 会 長 (委 員 長)	村 福 鈴 菊 町	青 木 山 村 智 一	星 野 根 川 島 戸	小 柳 沢 堀 井 沢 蔵	堀 大 北 飽 笠
書 記	福 田 鈴 三 中	外 津 木 石 鈴 三	関 桑 石 竹 木 石	小 阿 細 黒 石	堀 大 北 飽 笠
会 計 監 査	石 伴 樽	宮 倉 小 近 村 石 福 田 菊 伴 町 樽	渡 江 佐 石 青 倉 外 津 小 宮 萩 小	木 佐 関 内 星 渡 関 桑 飯 江 木 佐 尾 遠	堀 大 北 飽 笠
副 委 員 長	原 場 木 賀 楓 尻 山	直 文 五 勇 公 武 初	子 男 子 孝 亨 香 子 子 皓 武 男 子 子	子 男 子 孝 亨 香 子 子 皓 武 男 子 子	子 男 子 孝 亨 香 子 子 皓 武 男 子 子
補 佐	八 平 大 森 高	木 賀 楓 尻 山	木 賀 楓 尻 山	木 賀 楓 尻 山	木 賀 楓 尻 山
理 事	高 西 尾 村	木 倉 崎 松	木 倉 崎 松	木 倉 崎 松	木 倉 崎 松

21世紀に向けて—多チャンネル化と維持管理—

宝町テレビ共同受信施設組合

組合長 柿 沼 法 明

1975年に「宝町」が誕生して、今年で20年になります。テレビの組合は2年遅れて1977年に設立されました。この18年間に大きく変革したのは、衛星放送の受送信と全地域網羅、全設備の改修が行われた事です。

宝町には送電線があり電波障害が出やすい為、共聴設備を設置し、土地の分譲を行いました。日本で初の共聴設備。都市ガス、下水道付き分譲地です。顧りみますと超高級の附帯設備付き分譲住宅地と思われます。

さて1977年に設立されたテレビ組合ですが、当初月額200円(1軒あたり)の組合費でスタート致しました。設備の償却と維持費を計算すると、毎年若干の値上げをしていかなければ改修時の積立金が不足致します。しかし土地を買い、住宅ローンにおわれ、支出は少しでも少ない方が良いとの思いから、今年まで月額200円で運営されています。

また、ソウルオリンピックに合わせて衛星放送の受送信設備を導入し、各戸での衛星アンテナ、衛星チューナー等の負担を無くして、衛星第1放送、衛星第2放送を楽しむ事が出来るようになりました。

話は変わりますが、1昨年、送電線の工事が行われた事をご存知と思います。

電源開発という会社が住民に対し説明会等を開催致しましたが、宝町の住民には無関心の人が多く、会場はいつもガラガラでした。これでは何の補償もなく95Mの鉄塔を建てられてしまうので、町会、育成会、テレビ組合、その他有志の方々合計10名で対策委員会を設立し、電源開発や太田市長宛に陳情書や要望書を提出致しました。

この活動によって電源開発との話し合いの場が得られ、10数回の交渉が行われました。

最初の交渉では共聴設備の改修、増設、組合事務所の建設、20年間の維持管理費用等、合計金額が10億円を越えました。何回もの交渉を繰り返し、お互いの歩み寄り

によって、最終的に3億5000万円を町に支払う事、線下を緑地にする事で、町は送電線工事に協力する「覚書」を交わしました。

3億5000万円で妥結したのは、電源開発が支払える最高限度額であり、その金額があれば少なくとも約30年間は維持管理出来る額と試算出来たからです。

早速、約1億5000万円をかけて古い設備を全面改修致しました。又、約1億円をかけて周辺の家にも配線し、町内全域に共聴設備を整備致しました。

この工事は最優良資材(郵政省の推進する)を用いた最新型設備であり、近未来の都市型CATVにも対応出来る設備です。

都市型CATVは現在全国で普及しており次世代型メディアとして脚光を浴びているもので、全国でも無いのは群馬県とほかに4県だけです。群馬県でも平成9年4月開局に向けて、郵政省に認可申請(前橋・伊勢崎エリア)が出されております。

又、両毛5市エリアへの設置や県内11市エリアへの設置も研究されており、いつの日か宝町に導入される時、今のこの設備を利用し売却する事で維持管理から開放されるということも理想ではないでしょうか。

電源開発から支払われた3億5000万円のうち2億5000万円は古い設備の改修や町内全域の工事に使われましたが、残り1億円は高利回りの貯蓄として税引き後、1年間に約500万円の利子を生み出しております。この利子をさらに貯蓄して行き、15～20年後の改修費用とすれば組合員の負担は軽くなり、その後の15～20年の維持が出来ます。

つまり、この先30～40年間は突発的な事故のない限り維持出来るということです。

この様にテレビ組合の未来は大変明るいのですが、まだまだ設備しなければならない事もたくさんあります。WOWOW放送やCS放送、さらに町内放送による住民連絡網等、夢と希望をもって運営してゆきたいと思います。

宝町商店会

会長 岩崎 好助

私共商店会も設立以来18年をむかえ、皆様方の御愛顧、御利用を心から感謝致しております。

これまで町会にて行う最大行事である「宝町夏まつり」と「秋の親子大運動会」にも共催させていただいておりますが、残念ながら親子大運動会はここ数年開催されておられません。再び親子大運動会が開催されますときには、微力ながら協力を惜しまないつもりでおります。

また今年は宝町が誕生して20年とのこと、実行委員会が設立されいくつかの記念事業がありますが、町内地図の作成に協賛させていただきました。

宝町が出来て10年、20年とたち、町の様子も少しずつ変化しております。多くの若者が高校、大学を卒業し、東京方面や遠い所でがんばっております。その人達のふるさととして自慢出来るような

まちづくりが、町会や育成会、商店会の役目だと思います。

商店会においては全国的にみても大型店舗におされ、昔からの地元の商店の衰退がさげばれていますが、この町内にも何軒かの大型店があって、Aコープ宝泉店の閉鎖後は西側の商店街の過疎化が進み、何軒かの店のシャッターが閉められ、商店街としての活気が薄くなってきております。しかしながら、そうしたなかでも専門店化や独特の個性化等によって発展している店も多くあります。

宝町商店会は商店会であり、商工会ではありません。金融機関や医療施設等は加盟しておりますが、工業関係や建設関係等は加盟していません。

私共商店会も会員相互の連帯を深め、地域のために頑張っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

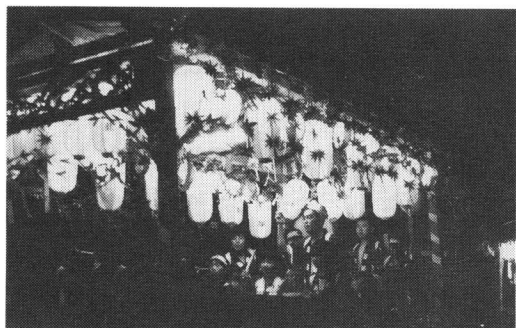


夏まつり・商店会抽選会

宝町・夏まつり

おまつり会

代表 高木 勝治



宝町。誕生してから20年が経ちます。それぞれの事情があって、この町に住みついた私達オトナには、良かれ悪しかれ想いで多い「ふるさと」があります。ふるさとの想いでは、子どもの頃の環境、友だち達、そしていろいろあったでき事です。

宝町ができて、オトナ達が何もしないでいたら、宝町ではなく宝団地になってしまう。そしたら私達の子ども達は、ふるさとの実感も思い出もない人間としてオトナになっていく。ふるさとのない子ども達、これは私達オトナの責任として拒否しよう。こうして始まったのが「宝町・夏まつり」でした。

——町が祭りをつくり、祭りが町を興す——
そんな大仰に考えた頃もありました。

そうして祭りを継続し、発展させるために「おまつり会」が出来ました。おまつり会は毎年、企画・実行される「夏まつり」の成果と伝統を次年度に引き継ぐ事を第一の役割と考えました。

町会の実行委員会のみでは毎年役員さん達が変わるため、夏まつりの成果・伝統がうまく引き継がれず、その結果、大変な苦労となり、夏まつりの縮小、そして消滅にもなりかねません。

しかし、夏まつりの主体は町会・実行委員会です。宝町の大会の主体は町会の他にはなく、おまつり会は、あくまでも夏まつりの行事と伝統を引き継ぐ黒子であります。

行事と伝統を引き継ぐ子ども達主体のものとして、「祭りばやし」を選びました。当初は大太鼓・小太鼓・カネ等、これらを借り集めるのが大変でした。当時の宝町は子どもが多くて、それらの道具は三地区から借り集めました。

今考えれば、大切なものをよくも貸してくれたものです。結局3年間、借り物で祭りばやしを練習・実行しました。次年が私とカミさんの結婚十周年でした。これを理由にして、自前の祭りばやし道具一式を買い込みました。太鼓の皮の裏には、高木勝治・恭子結婚十周年と書いてあります。

太鼓は丈夫で、まだ一枚も破けてません。自前の道具一式がそろったので、太田まつりにも参加できるようになりました。子ども達の夢と思い出が、一層ふくらむことになったわけです。

そんな事、いろいろありましたが、とにかく楽しみ、苦しみ、飲みながら夏まつりをやって参りました。そしてこの数年間、宝町・夏まつりはこの町に定着し、少しずつでも充実・発展しているようです。祭りばやしを始めた頃の子ども達が、大人みこし、女みこしをかついだり、赤ん坊をつれて祭りに帰ってきています。

大川師匠は杖をついて歩くようになり、おまつり会の面々、男も女もみんな髪が白くなったり薄くなったり、シワもふえました。30周年には一体どうなっているでしょう？



宝 町 中 央 公 園

中央公園管理者 橋 本 武 三

宝町中央公園は太田市で一番広い公園で、宝町が10周年の年に、太田市で一番きれいな公園として市長さんから表彰されました。その後、群馬県の「まちづくり実行委員会」から功労者表彰もされました。

4年程前に、中央公園の管理を「宝寿会」でお願いできないかということになり、管理することになりました。

東部、西部、南部、北部、県営、市営の「宝寿会」年2回のクリーン作戦と、毎月の各地区(東西南北県市)順番による清掃がおこなわれています。また中央公園愛好会の人達の重点的工夫によって、未来に向かっての開発もなされています。

今年で20年、当時植えられた桜、ケヤキ、さつき、山茶花などの木々もみんな大きくなって、私たちを楽しませてくれています。特に、桜の花と宝町の夏祭りは、宝町の名所と名物になったと言っても過言ではないでしょう。

四季を通じて、緑。花はいつも美しく咲き、特にバラの花はみごたえがあり、たくさんの人を喜ばせています。このバラは、公園のそばにお住まいの「高木」さんの毎日の手入れと、公園周辺の方々の努力、宝町全員の協力とで、毎年美しい花を観賞することが出来ます。

これからも、みなさんと共に公園を守っていきたいと思います。



予定される「あずまや」

現在の中央公園にぜひ足を運んで楽しみ下さい。

宝 寿 会

町内高齢者人口調べ(人) 太田市高齢対策課調べ

年度\年齢層別	60～69歳	70～74歳	75歳以上	計
昭和59年4月1日	90	31	25	146
平成7年4月1日	168	50	80	298

宝町の老人クラブは「宝寿会」として、昭和54年4月8日、初代会長を中野梅三郎さんをお願いして発足致しました。会則に、(目的)として、お互いに仲良く楽しく励まし合い、常に心身の健康を保ち教養を高めながら明るい生活を進めることに努めることを、また(事業)としては

1. みんなで話し合いをします。
2. ためになる話を聞きます。
3. 楽しみの会をもちます。
4. 社会にためになる奉仕をします。
5. その他必要なことをします。

と、そして町内の60歳以上の人で構成する(60歳未満でも入会はできます)と定められております。

53名で誕生した宝寿会ですが、今では第一宝寿会47名、第二宝寿会32名と時代の流れとともに会員が増えております。中央集会所西側の用水路を中心に、東側を第一、西側を第二と分けておりますが、これは助成金や補助金の関係だけで、事業活動は会則にも明記してありますように、いつも一緒にやっております。

上の表でもお解りのとおり、宝町も高齢化が進み、70歳以上の方が130名もおられます。ひとりで家に閉じこもっているのではなく、出来るだけ多くの方になごやかで楽しい“今日”を過ごしていただくために、私たち「宝寿会」の近況をお話いたします。

最近、「宝町老人憩の家」の看板が中央集会所の入り口に掲げられたのをご存じですか？これは、私たちが月例会を含めいろいろな催しをするのに集会所を使わせていただいておりますので、町会の了解を得て、市役所に「憩の家」の届けを致しました。こうして習字や俳句、お華や編み物や料理教室、健康講話などの教養講座やボールカロッテやミニゴルフ、ミニボーリングなどの準備諸掛かりや施設利用料、講師謝礼などには補助金として市から年間25万円が支給されることになり、事業活動に弾みがかかります。

宝寿会の単独事業としましては、毎月中旬の火曜日に月例会をもち、閉会后、公園清掃や空き缶拾いをやっております。

第一宝寿会会長 橋本武三 ☎31-5553

第二宝寿会会長 新井品治 ☎31-2768

例会以外の今年の行事は

- 4月 お花見会・ボールカロッテ競技会
- 6月 健康講話「痛みの治し方」
講師 宝診療所・高木勝治先生
- 7月 言いたいこと聞きたいこと
- 8月 しめ縄張り(夏祭りお手伝い)
- 9月 婦人部料理教室
- 10月 宝寿会クリーン作戦
- 11月 婦人部編み物教室
- 12月 集会所公園掃除
- 1月 新年会、カラオケ・踊り大会
- 2月 ミニゴルフ、ミニボーリング競技
- 3月 総会、役員改選

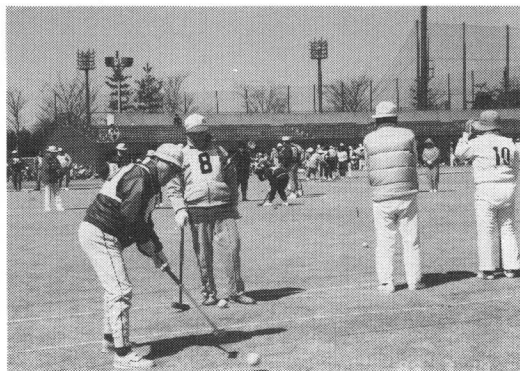
など一部実施済みで、健康講話は非常にためになりました。

太田市には太田市老人クラブ連合会があり、9支部で約105のクラブが加盟しており、宝泉支部では24クラブが活動しています。

太田市老人クラブ連合会の行事には老人福祉文化祭(会場・太田市社会教育総合センター)があり、講演会、作品展、ふれあい音楽会、芸能大会などが催されます。また、今年は“太田市老人クラブ連合会研修の旅”が11月15日～17日に山形(庄内・最上)2泊3日で予定されています。財団法人群馬県老人クラブ連合会でも、研修旅行や芸能発表会が催されます。

宝泉支部でも太田市教育委員会主催、宝泉公民館主管の“宝泉高齢者学級”に積極参加し、健康で生きがいのある生活と高齢者の社会的役割について学んでおります。

どうぞどなたでも参加できますので、お気軽にお電話下さい。お待ちしております。

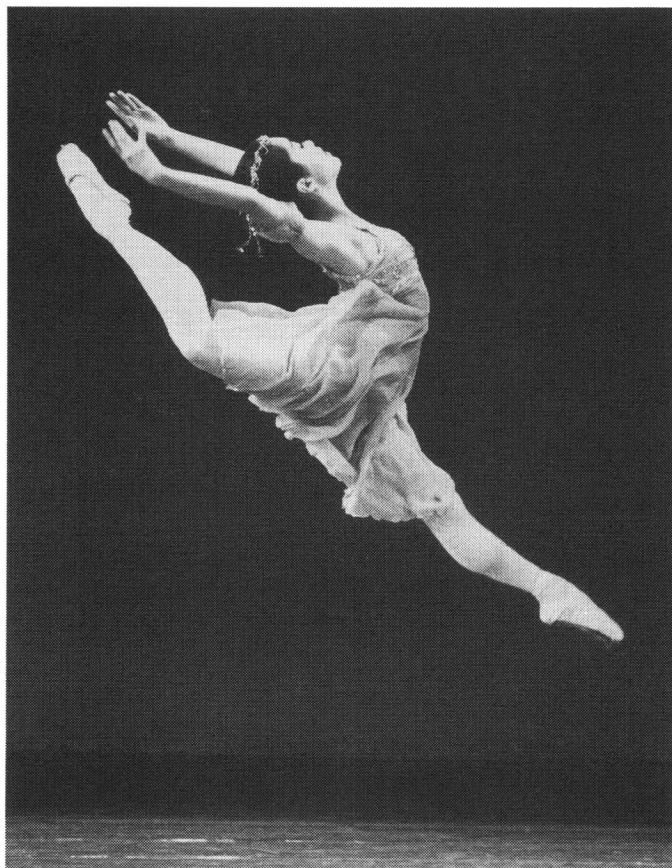


ゲートボールを楽しむ会員たち



10周年記念事業「風船だより」

- 1984 山本禮子に師事
1988 第45回全国舞踊コンクール 文部大臣賞受賞、第2部1位受賞
1990 第47回全国舞踊コンクール ジュニア部入賞1位
ベルギーへ短期留学
1991 第48回全国舞踊コンクール ジュニア部2位受賞
青山バレエフェスティバル(第6回)に出演
1992 東京フェスティバルバレエ イン大阪に出演
バレエ新鋭二人展「アンノウンシンフォニー」に出演(文化庁芸術祭参加作品)
日中友好20周年記念「白鳥の湖」に出演
1993 第21回 ローザンヌバレエコンクールにてセミファイナリストとなる
英国イングリッシュ・ナショナル・バレエ・スクールに1年間留学
1994 フランスのラ・ボールにて国際ダンスフェスティバルに出演
3ヶ月間、工藤大氏ならびにシルヴィー・クラヴィエ(元パリ・オペラ座)に師事
1995 フランスのカンヌへ短期留学



宝町とともに歩み続けて20年

本多 奈々 絵

私が生まれた昭和50年頃は、まだベビーブームの延長でもあり、子供達も大勢いました。幼稚園、小学校などの楽しい思い出は枚挙にたえません。

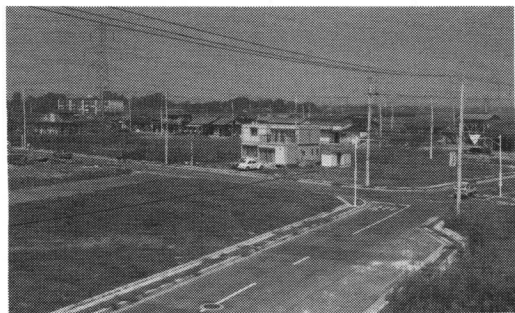
その頃は、現在繁栄している群馬銀行、スーパー・フレッセイ（設立当時はマッセイ）などありませんでした。勿論、車の交通も少なく、町の中には信号機が一つもなく、人々は注意して交差点を通行していたことが思い出されます。

ところが現在はどうでしょう。遠くは北海道、沖縄など、近くは太田市内からも家を造って続々引っ越してきて、正に団地そのものになりました。それから着々と商店が増加し、交通の面に関しても信号機が3ヶ所に設置され、当時を思うと感憾無量です。

しかし、残念なことに現状では太田市を始め周辺の市町には大中の企業が少なく、都会の学校で学んだ人達は卒業しても受け入れの対応に弱く、Uターン現象をおこすほどに至ってません。

都会に出て就職、結婚する人も多くいます。そんな現状を考えると、我が町はゴーストタウンになりかねません。

これからは町の活性化、魅力ある町づくり、長期的ビジョンを切望します。



交番・あぞう・秋山商店周辺

大 藤 二 三

20才の日、太田の空の下にいた。詩作活動の日々をおくり、楽しい日々連続であった。

青春時代の日、仲間の早瀬忍、真樹こずえらも詩作をし、早瀬忍が処女詩集を発行、2ヶ月後には大藤二三が、更に2ヶ月後には真樹こずえが発行。

早瀬忍と真樹こずえとが結婚し、宝町誕生の時から県営地区での生活をおくり、宝町の住人であった。

3人の処女詩集の巻頭の詩を掲載して、おもいでとしたい。

早瀬 忍詩集

表紙 緑
孔版印刷
B 6 横
50部発行

—あなたに捧げる—

シクラメンの美しさも
然ることながら
一輪の野菊の美しさを
忘れてはいけません

大 藤 二 三 らくがき詩集 —むらさき—

表紙 紫
孔版印刷
B 6 縦
100部発行

—序にかえて—

吹きぬく
赤城おろしの冷たさに
思い沈める涓流のうねり
その邊りに
その邊りに
嫩芽をひそめ
春を待つ草の一叢

真樹 こずえ 道の端詩集

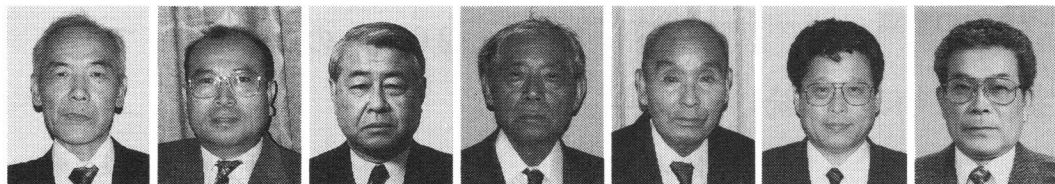
表紙 青
孔版印刷
B 6 横
70部発行

—詩友—

感情とリズムを忘れた時
一人の友をなくす

ごつごつの石も
夕日に浮かぶ船も
道の端の雑草も
雪にうずもれた棚も
青い海も
水の流れも
すべてのものは生きている
だが
彼らを素直に強く育てるのは
名のある詩人
そして……名のない詩人

愛情と言葉を忘れた時
一人の友をなくす



初代町会長 二代町会長 三代町会長 四代町会長 五代町会長 六代町会長 七代町会長
 岩瀬更生 平間正二郎 本多俊一 岩崎好助 堀江雅司 西倉志郎 清水武夫

自昭和51年5月30日 昭和57年4月1日 昭和58年4月1日 昭和60年4月1日 昭和62年4月1日 平成元年4月1日 平成5年4月1日
 至昭和57年3月31日 昭和58年3月31日 昭和60年3月31日 昭和62年3月31日 平成元年3月31日 平成5年3月31日

歴代町会長座談会

1. 日時 平成7年5月28日(日)
午前10時00分～午後1時00分
2. 会場 宝町中央公園集会所

斎藤(編集委員・司会) 本日は宝町の20周年記念誌発行にあたり、歴代町会長座談会を企画致しましたところ、ご多忙にもかかわらずご出席をいただき、感謝致しております。残念ながら、三・四・五代の3名の方のご都合が悪く欠席ということになってしまいましたが、忌憚のないご意見や苦労話などを、時間の許す限りいろいろ聞かせていただけたら幸いです。よろしくお願い致します。

まず、主催者側と致しまして、宝町20周年記念事業実行委員会委員長の中嶋顕弥さんにご挨拶をお願い致します。

中嶋(20周年実行委員長) ただ今ご紹介を頂きました北部の中嶋です。現職は副会長で、今年宝町が20周年を迎えるに当たり、実行委員長を仰せつかりました。ご指名ですので、一言ご挨拶を申し上げます。

記念事業の一環として記念誌の発行を企画いたしまして、編集委員の皆さんにお骨折りを願っている訳ですが、本日この座談会が催されますことは、まことに時宜を得たところと役員一同大変喜んでおります。歴代の町会長さんにおかれましては、ご多様のところご列席を賜り厚く御礼を申し上げます。それぞれお役目中に時代時代のご苦労を重ねて頂いたお陰で、本日の宝町がこうしてある訳でございまして、温故知新と申しますが、この

座談会が今後の宝町をよりいっそう住みよいと申しますか、そういった方向づけに役立つ事をご期待申し上げて、はなはだ簡単ですがご挨拶とさせていただきます。

斎藤 有り難うございました。座談会に入ります前に、初めての方もいらっしゃるのです、自己紹介をお願い致します。初代の岩瀬さんからお願いします。

岩瀬(初代) 東部の岩瀬です。別にお金がある訳ではないんですけど、群馬銀行のすぐ側です。(笑) すぐ側でも無いかな? 南へ5軒目になりますかね。宜しくお願いします。

平間(二代) 私は二代目で、岩瀬さんが基本的なルールを敷かれた後を継いで6年間、副会長を含めてやらせて頂いた平間です。北部です。宜しくお願いします。

西倉(六代) 私は六代になりますが、2期4年間やりまして、そのあと現在の清水町会長に引き継ぎました。南部です。宜しくお願いします。

清水(七代・現) 私は、今やってる七代目です。3年目になりました。南部の清水です。宜しくお願いします。

斎藤 次ぎは編集委員とお手伝いに来て頂いた方ですが、それでは荒井さんから…。

荒井(記念誌委員長) この記念誌の発行代表者ということで、町会の方から言われま

して、記念誌をまとめている荒井と申します。東部で、町会の方では防犯をやっております。宜しくお願いします。

清水 弘（記念誌編集長） 今回の20周年で編集委員をやれというご指示が出ましたのでやらせてもらっています。東部の清水と申します。宜しくお願いします。

根 岸 南部の根岸と申します。婦人防火をやってます。宜しくお願いします。今日はお手伝いでまいりました。

石 橋 同じく婦人防火をやってます。北部の石橋と申します。宜しくお願いします。

庭 山（編集委員・司会） 南部の庭山です。町会の役は会計監査です。西倉さんが町会長になったときに会計をやれということで受けてから、会計、会計監査をやっています。今回編集委員を拝命、皆さんに引き回してもらっています。宜しくお願いします。

斎 藤 同じく南部の斎藤です。平間さんの町会長の時から本多町会長、岩崎町会長、そして西倉町会長まで、総務をずっとやってまいりました。今回編集委員ということで、今日この席に参加させて頂いています。宜しくお願いします。

それでは、さぁお話しをと言ってもなかなか難しいと思いますので、私の方から提案させて頂き、進めさせて頂きます。

最初に初代の町会長の岩瀬さんに、その当時の苦労話や、思い出話をお願いします。

岩 瀬 苦労話というと、金苦労が一番でしたね。まず、何をやるにもお金がかかりまし

たし、お金が無いことには……。それと、ヤハリお金は二の次になるかもしれないけど、みんなの気持ちをまとめるということ。その辺が一番、初期の頃苦労したところですね。

今は色々組織ができて活発に動いてますけど、みんな出来たばかりの町だったから「こうしたい。」「ああしたい。」ということが色々あって、まあ、そういう人達がいろんな活発な働きかけをしてくれました。それを、町という組織の中に如何に調整をとっていかということですね。いずれの形にしても、それぞれの組織がみんな活発に活動するようになってからは何も言うことはありませんでしたね。（笑）

庭 山 最初は広い町内で戸数が少なかった訳ですから、広く満遍なく活動されるということでご苦労が多かったと思いますが……。

岩 瀬 戸数は少なかったけれども、意見は多かったですねー。みんないろんな意見を活発に言ってもらいまして、一つのことでも纏めるまでには、手間と時間がかかりました。

例えば、毎晩のように県営に行って説明会をすとか協議をし、あるいは東部でもやるといったことでした。幾人かで考えがまとまると、町の決まったことに意見を言ってくる訳ですね。その辺のところを皆さんに納得してもらえるまでは、そこへ出向かなければならない訳です。地域によっては、皆さんから突き上げられると言うと言葉が悪いですけど、勇気のある助言を頂きました。

そういう意味合いから、兎に角町の中でやっていることについては極力情報を流そうとい



座談会風景

うことで、あそこ青焼きのコピーだったですけれど、1週間に2回くらいは町内回覧を出すという方法をとりました。

ただ、そういう回覧一つ回しても、その内容がどうだこうだということで電話がきますので、出向いて、“こんにちは、／”と玄関に一步入ると、“誰に断って玄関に入ったんだ、／”（爆笑）。それと、“俺の敷地の中に断りなしに入った”とか、組織の中の人ではないんでしょうけど、脅しみたいなのをかけられたこともありました。

庭 山 この話、初めて聞きました～。

さて、当初、一区画にバラバラっていう家並みでしたが、協力する方が結構いましたよね。その人達を、よく見つけられたなあーと思っているんですが……。

岩 瀬 ええ、見つけられたというのもあるんですけど、確かに出向いて行って一晩夜明かしで粘ったという聞こえがいいんですけど、受けてくれるまでは帰らないよって、酒も飲みましたし、一晩明かしてやっと無理に頼んだったという人も何人かいます。その時受けてくれた人達は、一旦受けてくれるとほんとに献身的に動きましたね。それは町会長から頼まれたからということでもなしに、何とかしようという建設的な考え方の人が多かったんだと思います。お祭りとか運動会という催しをしようとするときに、“俺の会社に・・が有るから持ってこよう”とか、“俺の会社じゃこうだよ”っていうように、全部機材は持ち寄りだったんですよね。それがいろんな業種の人が集まったということもあって、それぞれが勤め人で、自分の家には何もないんだけど、自分が勤めている会社或は知り合い、そういうところまでをフルに利用して、町の行事を盛り上げてきた訳です。

いろんな大会や会議をやる時には、私は会社の食堂に行って、テーブルから椅子からスピーカーまで貸出してもらってやったものでした。そんなことが3年くらい続きましたね。

結局、みんなそれぞれ小さい子供たちを抱

えていて、自分の子供が可愛い、なにか行事をしてあげたいという思いから、みんな真剣だったんですね。

庭 山 初回の町会の会議が乙女の像の前で行なわれましたが、動員するのは大変だったんでしょうね。役員になる方は決まっていたんでしょうか？

岩 瀬 決まっていたんです。それぞれが自発的に受けてくれましたね。勿論、やるまでには事前の打ち合わせを重ねましたが。

庭 山 私が転居して来たのは51年3月ですから、かなり早い時期だったと思いますが、広報や回覧など情報伝達がスムーズに行われているのでびっくり致しました。

岩 瀬 どういう組織を作ろうかということで、碓氷さんの所でズーッと会議をやったんですけど、私も太田に来て日が浅かったこともありまして、でも10年位経ってましたけど、太田の行政には携わっていませんでしたので分かりませんでした。町の組織ということになったときに、桐生がこういう形でやってるってことで提案したら、それが良いということで決まったわけです。だから、初めは町務委員という名前を使いましたが、あれは桐生の行政の名前なんですよ。今は桐生でも、町務委員とは言わないようですけど。

斎 藤 どうぞ、飲み物でも飲みながらお話し下さい。

岩 瀬 今はね、本当に平穏のように感じますけど、それこそ戦後の日本と同じようじゃないけど、ガタガタした時代から高度成長して楽になったっていう感じなら良いけど、今それぞれが20年歳をとった訳ですから、若い人たちに何か欲しいと思いますけど…。チョット活気がない感じがしますね、／ そうしなくても済んでいるのかもしれないけどね。

西 倉 テレビ組合の話は、岩瀬さんの方へ最初話が行ったんですか？

岩 瀬 そうですね。町会が出来て半年後かな？ 初め町会の中に施設部を作りましてね。テレビ組合規約の作成や維持管理費の試算な

どをやっていました。

西 倉 柿沼さんは、何時登場したんですか？

岩 瀬 柿沼さんは昭和54年4月からでしたね。私が頼んだんですけど。初めは施設部で、テレビだとか防犯灯の管理をやってました。アンテナや受信施設は何れにしても、組合組織にして将来運営してもらおうですよっていうことをご存知の浅井さんが企業局におられたので、その時分からそういう方向だということ聞いておりました。

未だ入居者が少なかったですし、今の西部地区の新潟鉄工所住宅地や勤労者住宅地は公共住宅を建てるとかで空き地でしたし、市営は丸っきりの原っぱ、県営は北の1棟しかない状態でしたので、町会費は住んでいないから貰えないんですけど、テレビの設備はもう田圃の中に出ていたんです。

それで、そのテレビの設備については、架線その他の器具には耐用年数がありますから、3年で傷む物・5年で傷む物・10年で傷む物等いろいろあるんですけど、20年経ったら総交換しなければならないということで、それには、あの当時で何千万円という費用がかかるようでしたから、そのお金を積み立てて行かなければならない訳なんです。とにかくお金が無いですから、まず居ない所、今言った空き地からもお金を取らなきゃならないということで、市営は1棟も建って無かったんですけど、県営・市営とも全部戸数割で金を納めてもらったんです。

斎 藤 そうですか……。

岩 瀬 ただ、問題は組合費だったんですね。最低弾いても当初250円、3年か5年後には300円とか500円という計算をしましたから、そんな資料が残っていると思います。それをやって行っても、架線を張り替える時には何千万円という借金が残る訳だったんです。そういうことから、もっと高い組合費が欲しかったので、その組合費のことで随分あちこちへ足を運び、地区地区で説明会をしましたが、高いということで、“そんなんだったら入らな

い……”って言う人が大分いましたよ、／（笑）。

大体250円、それ以下ではやっていけないという話が、結局200円になってしまったんです。その説得にも随分時間を費やしました。そんな作業を施設部でやった訳なんですけど、ある程度何とか説得して、一括で入ってもらえるという見通しがたった段階で、組合の設立となりました。

斎 藤 そうでしたか。

岩 瀬 それが、思ったより耐用年数が持ちましたし、又、今回はいろいろなお骨折りで、お金を掛けずに交換出来ましたから良かったですね。

斎 藤 集会所のことでもご苦労があったと聞いてますが……。

岩 瀬 そうそう、出来たのは昭和52年4月ですから町会の発足からかなり遅くなりましたが、作るに当たって県に陳情するのに現職の県会議員の福田作三さんと市議員だった長谷川芳男さんをお願いし、市役所からも行ってもらったりして、県庁に3回くらい行きましたかね。それで、やっと建てる話になりました。

あの頃でも地域の集会所ってのは皆さんから寄付を募って建てるのが建前だったんですけど、宝町の場合には町全体が困っていて、一寸したことでもガタガタしましたので、皆さんからお金を出してもらうなんてとても考えられなかったんです。そこで、市や県や国とかの公のお金を何とか工面してもらわなくてはならないということで、色々動いてもらいました。

で、動く先は、企業局が造成をしたので、企業局を窓口にして陳情に行ったんです。それで最終決定したんですけど、あくまでも公のお金を使うのであるからということでやった方法が、中央公園の運動具小屋だったんです。そういう資金使途で、国と県の資金が出せたんですね。だから、この坪数は、いくら今お金があっても増やせないんです。公園の敷地面積に対する％で決められているからです。

県が半分くらい出してくれたんだと思います。

西 倉 中央公園の運動具小屋の話が出たので、私の記憶では、中央公園は最初は運動公園の計画だったと思うんですが……。

岩 瀬 4～5段程度のスタンドの入った絵を描いて市の方が何枚か持って来て役員会でも検討したと思いますが、具体的な具申をしたかどうかははっきりした覚えはないんです。ただ、運動の場もいいけど、みんなの集まれる場も必要だということだね。結論から言うと、グランドみたいな形にするのは、いろんなことを総合するとボツになっちゃったんです。

西 倉 記憶によると、一番の反対は、風が吹くと埃が風下の住宅へバーンとね……。 (笑)。

岩 瀬 グランドがボツになって、それでは何にでも使えるということで、子供達も遊べるように、これから老人になっても利用出来るようになってことで、幾つかの区切りを作ったというのが園路になったりしました。その後色々検討されましたが、結局のところ「市の公園課の描いた絵のままで良いんじゃない」ということになっちゃいました。

グランドにしなかったのには、学校が東と西にあったということもあって、敢えてそこまでは良いんじゃないかってこともありました、確か西倉さんが言ったように埃の問題……私が、その話を出したかもしれませんね。 (笑)。

清 水 一つ、岩瀬さんに聞きたいことがあるんですがね。実は、区長を決めるのに頼みに行くでしょ。そうすると「俺は勤めているから出来ない」と断られるんですけど、初代の町会長は勤めていましたよね。20年前ですから、岩瀬さんはまだ若くて勤めていて、町会長。それも初代をやったんだから……。そこで定年になったからって頼みに行くと、「遊んでちゃ食って行けないから、第二の人生・仕事を見つけたからだめだ」と断られちゃうんですよ。

岩 瀬 時代の差もあるんでしょうけど、本人の考え方にもよるんでしょうね。

清 水 だから、勤めていたのによくヤッタ

な一と思っているんですけど、どんな風にやられたのかなと思って。

岩 瀬 私はね、割合に我が儘がきくところにあったということなんです。はっきり言いますと。

清 水 立場も、ある程度～。

岩 瀬 そうですね。私も会社で中くらいのところにいたんでは、とても出来なかったかもしれない。あれこれと幾つかの指図をすれば、適当に時間が取れたこともあったということです。

清 水 町会の用の有るときには、昼間でも？

岩 瀬 そうですね。ですから、私が町会のことでもやってなかったならば、もっとズーッと私の人生は変わっていたかも知れません。会社の中でもね、いろんな面だね……そういう査定は、ボーナスの時にみんなやられましたから。

ただ、それを問われたことがあるんです。“会社とそれとどちらが大事なんだ？”と社長に言われたことがありましたけど、その時にね、チョットそう言われたので反抗もあったんですけども、“会社よりも、そっちの方が大事だ”と言ったのを覚えています。

清 水 町会の方が？

岩 瀬 ええ。まだ若かったんですね。40代ですから。“勤めは何処でも探せる。ただやっと求めた家なんだから、その所を住み好くしたい為に動いているんだ”と言ったら、その時の社長はそれ以上は言わず、“分かった。それと同じように会社の方も頼むよ。”と。会社の方も一生懸命切り回してやっていたから、両方とも一生懸命やったつもりでした。

清 水 会社の方でも、ある程度理解してくれたんですね。

岩 瀬 本当のところはどうだったんでしょうかね。 (笑)。

中 嶋 これは、全部に言えることですからね。そりゃ、何なり犠牲はありますよね。

岩 瀬 世の中変わって来てますね。勤め人

はかなり大変になっている。

それにしあって、その人の受け止め方であって、そういう中でもきちんとやる人はやるだろうと思います。ただ、誰しも好んで受けたい仕事ではないということは確かですね。

西 倉 確かにね、町会長はね、仕事をやりながらでは出来ませんね。

清 水 昼と夜を比べると、夜よりは昼間の仕事の方が多い。

岩 瀬 昼間出るのが大変だったんです。でも、何とか会社に言っというて出られたからね。夜はもう、家に帰って来たら一切町会ですよ。それこそ毎晩ですよ。それと、1週間に一度ずつは集会所で会議でした。集会所が出来までの3年間は、私の家が毎週、会場でした。

清 水 奥さん、お茶入れが大変だったんでしょうね。

岩 瀬 月2回にしたのは、大分経ってからでしょう。4〜5年経ってからじゃないですか。

清 水 いつ頃から、月1回になったんでしょうね？

西 倉 私の時。

清 水 西倉さんになってからですか。随分経ってからですね。

岩 瀬 それまでは毎週ですもの。その他、夜には何かしら行事がありましたから。その辺は、帰って来るとすぐパッと町の中のことになり替えることが出来たんですから、やはりそれは年齢的な若さがあったんでしょうね。

それと、あの頃はね、部活動がうんと活発だったんですよ。特に文体部は細かく動いたんですね。今は宝泉の行事に参加させることぐらいで、それでも参加者がいないで苦労しているみたいですけど。あの頃は、町の中で宝泉でやってる行事は全部やりましたからね。

清 水 弘 あの頃はクラブがあって、クラブが出てましたよね。

清 水 今は文体部で何か募集の回覧を回しても、今一つ反応がないんです。ま、20年経ったんだから、仕様が無いんですけどね。

岩 瀬 みんな歳とってきましたからね。

中 嶋 やることがいっぱい増えてますから。団体で楽しむことから、個人とかあるいは仲間、好き同志でやるとかいう風になんか変わってきてますから。ゴルフにかわったり……。

西 倉 市役所や、対外的に苦労したことは。岩瀬さんの時代は、何事もスタートだから多かったと思いますが…。私が一番参ったのは用水路の水が溢れちゃって。大雨の中で〜。
荒 井 やっぱ、私もありますよ、台風が来た時に、宝町のメイン通りに水が流れた時があったでしょ。あれはね、水門がしまっていたから田圃の中へ水が流れて、メイン通りに流れ込んだんですよ。たまたま向こうへ行ったら道路が水で溢れているので、雨の中、ビッショリになって水門を上げたことがあります。(笑)。

中 嶋 2年位前ですか？

荒 井 もっと前です。3年位。水門を2回、雨の中で上げたことがあります。

西 倉 今日は快晴で。(笑)。今朝もやってきましたが、クリーン作戦は、本来は我々が自発的に掃除をするところを、太田市が全市一斉に“皆で協力して綺麗にしましょうよ、”という呼びかけで、我々も“やりましょう。”と答えている訳ですよ。ところが、雨ならクリーン作戦は中止というのもおかしい話ですが、いろいろあるのでしょうか。

岩 瀬 今度、平間さんの番だよ、(和やかな笑い)。

庭 山 平間さん、最初に町会に入られたのは？

平 間 別に騙されて云々というわけでも無いんですが、会社の同僚から、北部が当番で何かしら受けなきゃいけないよ。住むからには何か受けよう。ジャァ、一番手数のかからないのは何だというわけだね。そしたら、今までやって来た中で、特に仕事の方に差し支えないでやれるのは副会長じゃないかっていうんでね。(笑)。それじゃそれにしようっていうことで、副会長を受けたわけです。受けてみて、岩瀬会長さんと一緒にやった内容か

らいくと、初め聞いたのとは随分違うなっと。(笑)。昼間も大分色々やらなきゃならないし、夜もやらなきゃいけないし、当初週に一度の曜日を決めた会議をこなし、その他に部会が有りましたから、それこそ楽だと言われたけれど全然楽じゃないと思いましたね。だけど岩瀬さんのやってることを色々見ていましたから、会長のことを思えば僕の方はまだ楽だと思っていましたし、このまま行くんだたらね、少しくらいは大丈夫かな？なんて形でね過ごしていたら、いつの間にか会長が回って来ちゃいました。

確かに岩瀬会長が言ってるようにね、会社である程度目こぼしじゃないけど、余裕を取ってくれるようじゃないと、サラリーマンでは勤まらないだろうね。それによって、やっぱりマイナスも随分ありましたよ。

清水 弘 平間さんが町会長の時でしたか、広報を発行されましたね？

平間 そうです。「広報・たからまち」第一号を全戸に配布いたしました。A4・4ページで、内容は町会役員の紹介と年間行事や施設の説明程度でした。私のときは一号だけでしたので、第二号、第三号発刊への期待は大きく持っていました。どうぞ実現して下さい。

庭山 飛行機の事故があったでしょ。あの頃は？

岩瀬 あのとときは、私がまだやってました。

平間 私は副会長でした。ただ、遭難の方の責任者を私がやったんじゃないかな。あちこち山の中を歩きましたよ。もお、1週間のうちに4日くらいずつ歩いたんじゃないかな。

清水 弘 53年だと思いましたけど。

荒井 あの時はいくつかの町会会議を開いて、搜索の方法を緊急に検討しましたね。

平間 そうね。東西南北各市の各地区から何人か自主的に応援をもらって、そして毎日の編成をしてね。で、今日はこのブロックは谷川岳、赤城の沢沿いとか、いろいろ方面、方向を選んで、随分行きましたよ。

荒井 私もそのメンバーに入ってたし、知らない道を覚えたですよ。山道をね、

平間 あの一、深山新山(みやましんざん)って言ったかなー、赤城の裏の方ですけど。そこに熊が出るなんて知らなかったし、今でも“またぎ”っていう人がいて、あの辺で専門に商売しているってことも知りませんでした。“またぎ”って、熊狩りとか狩猟を専門にやってる人だそうです。

清水 弘 私も今度の日曜日に搜索に行くって時に、幾日前に見つかったから“行かなくても良いよ”なんて言われました。

平間 こわかったですよ。胸ほど熊笹が生えているところを行くんですよ。すると“またぎ”っていう人がね、此处は30分くらい前に熊が通ったとこだなんてね。(笑)。木に確かに爪の跡はあるし、熊の糞があつてね、それをチャント言う訳。

それと、びっくりしたのはチョロチョロ流れている1メートルくらいの川に、ヤマメがいっぱいいるんです。グワーッと群をなしていて。それを手掴みで取ってるんです。信じられないけどね…。僕ら搜索で行ったんでなかったら、少し取ってこようかなと思ったんだけど。(笑)。

庭山 それで、最初の情報は勿論報道によったんでしょうけど、岩瀬さんの方へ対策を、っていう形で来たんですかね？

岩瀬 対策云々ということで話は無かったですけど、自主的にやるようになったんですね。

荒井 町の住民だから、みんなで協力しようよという声が出たと思うんですよ。

岩瀬 そうですね。初めに、市の方で対策本部が出来たんです。

平間 東部の人で、全然知らない人でなかったものですから余計ね。それで、じゃー町会の名前もかりてということで、搜索の方の責任者を僕がやったわけです。

岩瀬 丁度、お祭りと一緒だったんだよね。

平間 ねー、それで手分けして。

岩 瀬 お祭りも、どうしようかって言っていたんだけど、お祭りの時にはもう見つかってました。

平 間 あれは、ほんと手弁当でしたね。ガソリン代も何もかも、みんなボランティアですね。

岩 瀬 あの当時はみんなそうだもの。お祭りだって、全部手弁当で……。

斎 藤 続いて、西倉さんお願いします。

西 倉 2期4年間務めさせていただき、苦労も致しましたが、一面得難い経験もさせていただきました。

いろいろなことがありましたが、一貫して言えることは、一生懸命にやってやろうという人の心根は総て同じだということです。格好良い言葉で言えば、ボランティア精神ということだと思うんですが。あとは、手段とをもって行き方の差があるだけだと私なりに思っているんですが。

その中で一番大事にしているものは、現在でも私の財産になっているんですが、やはり人との繋がりがっていうんですかね。如何に仲間を集めるか、如何に仲間の集約した意見で事を進めて行くか、ということが一番難しいことであり、又一番大事なことかなあという気がして、現在でもそれを基本にしてやっているんですが…。

基本に流れる「良いことかな」を即、行動に移すのは、他人に無いとこじゃないかなと思ってます。その辺の自分の特徴を活かしながら、人の協力を得ながら、ということで、自分ではやって来たつもりなんですが…。

一番最初に、取っ掛かりで育成会の方をやったんですが、基本的に言いますと、『子ども会育成会とあっても、子ども会を育成するよりも先ず大人が意識改革をしなければ…。』ということで、随分大人の勉強会みたいなことを受けて、みんなでワイワイ、ガヤガヤやって来ました。

その理念の中で教わったことは、言葉の意味で良ーく分かったんですが、「子ども会育

成会」であって「子供育成会」ではないということでした。子供達が自主的に屋内外で活動するのに、知恵と物とお金は支援するけど決して手は出さず、指導はリーダークラブなどのお兄さんお姉さんをお願いして、育成会は黒子に徹するということですね。それから、子ども会育成会の考え方が変わったんです。

唯行事をやるだけでなく、見方を変えて、それが基本的なルーツでズーッと私の場合やって来たんじゃないかなーと思うんですがね。

私も仕事で忙しくしていたんですが、4年目でしたね。こりゃだめだなー、これ以上出来ないから清水さん代わりにやって下さい。とお願いし、清水さんが、“西倉さん、ほかは全部やるから、会議に出てくれるだけで良いから”と言われましてね。何とか4年間つとまりました。

最後に来て、大きな問題が起きました。高圧線の建て替えの話です。私の時代で終わるかなと思ったんですが、結果的には終わらせませんでした。これは何とかしなきゃならないと総務の斎藤さんに叱咤激励され、真剣に取り組み、最後の仕事としてやって行こうと決意しました。その時に、各組織やグループの有識者に集まってもらって10人委員会という組織を作りまして、電源開発との交渉に当たり、委員の皆さんのご協力で、結果的にはうまく行きました。

平 間 私が心配したのは、全町民に、どのくらいの高さで、こういうものだよ。というパンフレットを出したうえで、それでどうなんだろう。と問いかけ、町民のいろんな意向をどれくらい受け入れたかということなんです…。

斎 藤 全部出てます。鉄塔の高さから、電圧の高さから、工事期間、工事の安全上のことについて、各戸配布でまわってます。

西 倉 当初、ここ集会所での地区別の説明会で、例えば東部からは5名とか、市営じゃ1人とかの参加者しかなく、その無関心さには唖然とさせられました。これで良いのかな？

と……。町民の皆さんからの問題提起を期待したんですが、本当にがっかりしました。

清水 弘 ただ気になったのは、ここで説明会をするっていった時に、もう高圧線は新田町まで出来ていましたよね。

斎藤 私たちは、ここは良いから迂回してくれるよう要請しました。

西倉 そんな時に、或る方から手紙をいただきました。ずばり問題点が指摘されておりまして、総務のところへ持って行ったら、総務が“此れだよ、”“じゃ、やるか、”という具合で始めた訳なんです。

清水 弘 ほかでも同じような問題があったと思いますが？

西倉 ほかの地区での話も聞いておりますが、宝町ほどの成果は挙げていないということです。何ととっても、それはチームワークですね。私の兄も川崎の方で同じ高圧線の問題が出ているらしいのですが、てんでんばらばらで、結局最後には個人で対応するということになったらしいですね。やはり、まとめ上げ方が難しいんじゃないかと思います。まったく幸運に恵まれたと感謝しております。

斎藤 清水さん、南部ではさきほど区長の選考でだいぶお悩みのようでしたが…。

清水 ええ、何か妙案でもありますか？

斎藤 東部では今まで結構うまくいってきたということですので、ご披露いただきましょうか。

清水 弘 東部は4ブロックに別れて、各ブロックから選考委員を選出します。選考委員は区長適任者を選び、区長の選出を一任されます。区長を選べなかった時は、4人の中から、誰かが区長になればよい訳です。

区長適任者の選考に当たっては、第一に定年になった人、第二には町内で商売をやっている人、第三に定年前でもやってくれそうな人、第四には女性でも良いという段階での選択肢で行っており、小玉さんを選んだ時からこのシステムです。

荒井 各地区で区長さんの選出問題でだい

ぶご苦労が多いようですが、初代の時のお話を一つ…。

岩瀬 いや、大変なんですよ、ね、

清水 弘 なぜ、岩瀬さんに決まったんですか？ 最初の予定では碓氷さんになるように聞いていましたけど…。

岩瀬 碓氷さんは役所へ行っていたから、地域のまとめとして、宝町の中に区組織を作るということは知っている訳です。私たちは新しい町に住んだけど、そういうことは知らなかった訳ですね。ただ、やがては自治体組織みたいなものを作らなきゃならないだろうということは思っていましたけど。

それで、碓氷さんが市の方から聞いて来て、各地区の早く住んだ人に呼びかけて、碓氷さんの家で始まったわけです。初めは、広報を一人で配るのは大変だから地区で配る人を見つけたのが始まりで、それで集まって…、となったわけです。

そういう中で、ただ広報配りだけでなく、自治体組織を作らなきゃならないだろうという話が、集まった人の中から出てきたわけです。それじゃ準備をしようということで何回か会合をもったんですけど、碓氷さんには碓氷さんの考えがあったと思います。

清水 弘 それが、第一回の総会で変わった訳は？

岩瀬 それはね、町会長は公務員なんですよ。非常勤公務員なんです。市役所の職員は公務員でしょ。兼務することが出来ないんです。

清水 弘 あ、なるほどね…。

清水 私も知らないである公務員の家へ行ったら、“私は公務員だから町会長は出来ません。”と、のっけから断られちゃいました。

全員 あ、なるほどね…。

平間 準公務員ですよ、ね、

岩瀬 そうです。それで、その時に集まっていたのが、西部では小塚さん依田さん、北部で丸山さん、県営から茂木勇さん、東部では私と、それと南部は岡田さん、そのくらいだったかな。そうそう、東部の常田さんもいまし

たね。亡くなった関城さんと。わずか時期がずれて入って来て、宮崎さんも。あと田辺さん、今いないかも知れないけど会計をやったね。ポツポツ集まって、10人前後になってましたね。

私が昭和50年の8月に住んだから、9月か10月頃でしたかね。広報のことで、碓氷さんと回り始めたのが。それで来春からスタートということでしたが、碓氷さんが“私は出来ないんだよ。”とストップになっちゃったわけです。碓氷さんが出来ないということになって、それじゃ岩瀬さんになってことで、“ワー”ってみんながいっちゃったんです。(笑)。“そーんなん出来ないよ。全然やったことが無いんだから。”ということだったんですけど、“岩瀬さんがいいよっ。”という話になって、“それじゃー”ということで、それから場所を私の家に変えて、“作るなら毎日でも集まって協議をしましょうよ。”ということになったんです。柴さんもいました。

清水 弘 柴昇さんね。

岩瀬 家に集まった頃は、どうしよう、こうしようっていう話と、やるんだったら何か資料を集めようかという話くらいで終わっちゃったんです。それからが本式の作業に入ったんで、だから実際に町会が出来たのは5月だったか6月でしたね。

清水 51年の？

清水 弘 5月30日でしたね。

清水 丁度、今頃だ。

岩瀬 それで、それをやるについては、もう少しスタッフがいなければということで、“あそこなんかなかどうか。ここんちはどうか。”と、ただ顔を見て、年格好からあの人はこういうふうだなんて傍から人を眺め、それから、見ず知らずの家へいろいろ頼みに行ったのです。

清水 そういう方法しかなかったんですね。当時は…。

岩瀬 そういう中に、もうこの人も出ちゃったけど、大内さんなんかがいまし、猪俣さん

とかね。私が東部だったから、東部の近辺の人達がどうしても先になっちゃったわけですけど。その頃から、この荒井さんなんかもまだ若かったんだけど、町ん中クルクル、クルクル回ってましたからね。

そういう人が集まって、抱負を持った人達ですから、自発的に活動をするという雰囲気だったんです。

また、私は自分の意見と違っても、集まった12～3人の過半数の人が左の方が良いというんだったら左の方に…。私はあまり自分の意向は出さず、多数決で決めました。

庭山 町会の会則はどうやって決めたんですか？

岩瀬 会則はね、私が集めてきたんですよ。それを叩き台にして、今の会則の骨子が出来たんです。

清水 良く出来てますよね。

岩瀬 そうですね。碓氷さんがやったらもっと違うものになったと思いますけど、役所のことに精通している人ですからね。ただ、知らない人達が集まってやったことですから、兎に角、みんなで決めて、みんなでやるんだよってことで…。そのためには全員が役員をやるんだっていう形でね。だから、よその地区に比べて、いろんな役員が非常に多いと思いますけど。下部組織なんかでね。

清水 今そうね、六つの部会を入れて83名ですか。総勢役員でね。

岩瀬 あの頃はわかんなかったから、六つの部会しか作らなかったんですね。もう少し行政や何かのことなんかを知っていたらば、もっと沢山の部会を作ったかも知れないですよ。

清水 もういいですよ。6つで、(笑)。

岩瀬 ただ町の中を網羅出来るような組織にしたいと思ったんですけど、町会外組織が有るんです。町会の組織で包括してない部分が半分以上有るわけです。だから、そういうことまでも、本当は取り込まなければならなかったのかなあという思いがします。それが

良いかどうかは別にしてね。

清水 弘 書記はどうだったんですか？ 今だとテープにとったりしてますけど。当時の議事録を見ると、かなりお堅いっていかちんと記録されてますね。あの当時もテープを使ったりだとか？ 初期の頃の議事録を見ると、非常に良く出来ているんですね。

岩 瀬 テープはね、常田さんが持っていましたから、常田さんがとったみたいですね。書くのは大内さんでした。

清水 弘 大内さんの書いたものを見ると、言葉遣いとか文脈が本当にきちんとしていて、「ワーッ、スゴイナー」って思いましたね。

岩 瀬 何回めからは、総会の記録がテープにとってあるんですけど、設立総会の時はテープレコーダーがありませんので、書いたものしかないんです。

斎 藤 清水さん、この辺で現町会長として何かひとつお願いします。

清水 最近では、そこの緑地（中央集会所西側高圧線下緑地帯）のことですけど、市役所の方から、「宝町に前々から“貸して下さい。”と言われてたから、どうぞお使い下さい。」と渡されましたが、「ただし、管理は宝町でして下さい。」と言うんですよ。丁度、中央公園の長さだけ、木は2本しか植わってないですけどね。

岩 瀬 緑地の駐車場ですか？

清水 そうです。だから中央公園と一緒にこっちも管理するわけです。

お蔭で中央公園は綺麗に手入れがされており、毎年太田市から表彰されています。南部としては、処理場より南の遊歩道緑地の西側路側帯が綺麗に舗装され、除草や草刈りの手間がなくなりましたので、その手をこちらに回そうと言うことで、今朝ほども南部では除草をやりました。折角お金をかけて芝を植えてもらったのだから、草茫々にする手はないし、300戸も戸数があるんだから、なんとかその人数でやれば綺麗な公園になると…。

岩 瀬 これからは、そういう方に力を入れ

た方がいいと思いますよ。

清水 ええ。創設期の岩瀬さんから引き継がれ、歴代の町会長さんの築かれた業績の上に立って、これからは心豊かに奇麗な芝生の上に寝転べるというような環境作りを目指したいと思っています。

斎 藤 現町会長のこれからの抱負が出たところで、全町民の期待を双肩に担って頂き、ご努力されることを期待して、この辺で閉会致したいと思います。

本日は有り難うございました。（拍手）。了

当日欠席された町会長各位から手記とコメントを頂きましたのでご披露致します。

第三代町会長 本多 俊一 記

私の在任中の思い出の中に、宝泉地区運動会における宝町地区の2分割の問題がありました。と申しますのは、毎年行われます宝泉地区運動会において宝町が存在は極めて大きく、毎年ほとんど優勝、あるいは準優勝という圧倒的な強さを発揮していました。

それもその筈で、他地区に比べて人口も多く、しかも若い人達が大勢いて層が厚く、すべての競技に秀でていました。

その結果、外部からは宝町が強すぎて他地区は優勝出来ない。又、内からは申し込みをしても出場出来ない等々の非難の声が上がり、宝泉地区の体協の役員の方々から、行政区とは別に運動会に限って、2～3に分割してほしいと再三にわたり強い要請がありました。

当方としても宝泉地区全体を考慮して、昭和58年運動会を前に、町会役員皆様方のご理解、ご協力をいただき、宝町1区、2区の二つに分割して登録し、現在に至りました。（中央集会所西の用水路を中心に、東側が宝町1区＝東部・北部、西側が宝町2区＝西部・南部・県営・市営）その後の結果は、皆様ご存じのとおりです。

当時を振り返ってみると、思いきって決断して良かったと、現在自己満足している次第です。

第四代町会長 岩崎好助 談

私は東部地区区長を何年かやっていたので、町会長就任については大きな抵抗はありませんでした。しかし、本部役員の改選ではほとんどの地区区長さんが変わったために役員同士の意志の疎通がはかれず、町会内での足並みがとれず、大変苦労しました。そんな中でも役員さんや諸団体の方々の力強い協力があって、夏まつりや宝町10周年記念式典が立派に挙行出来たことを、10年経った今でも感謝しております。

私が町会長の時、太田市長等に対し15件の陳情書を提出しておりますが、宝泉小学校の西門設置については、多くの子供達が便利に使用しています。残念だったことは、東武バスの「宝町行き」が廃止になってしまったことです。東武鉄道(株)に陳情書を提出して再考をお願いしたのですが、残念ながら赤字路線のため無理でした。

又、宝町商店会の会長も兼務しておりましたので、多忙のため健康を害しまして1期2年で退任させていただきましたが、その後10年間町内の戸数も大変増加し、現在の役員さんはなお大変だろうと思います。今後も宝町町会においては町づくりのリーダーとなり、より一層の発展を期待しております。

第五代町会長 堀江雅司 談

私が町会長の時は大変楽でした。役員はみんなよく協力して活動してくれました。行事も定着してました。春のお花見から始まり、夏まつりはお祭りの会が皆さんが全面的に手伝ってくれました。私は定年退職後無職でしたから時間は充分あり、太田市役所へもよく行きました。市役所には同級生や知人が何人かおり、色々なお願いも致しました。側溝の整備や道路の舗装などは口頭でお願いし、早め

に実現出来たこともあります。

困ったことはゴミの問題でした。集会所の西側にゴミステーションがありましたが、そこは大量のゴミが集積され、粗大ゴミも危険物も生ゴミも燃えるゴミも全部一緒の山となっており、市役所はゴミの収集を拒否しました。日ごとにゴミの山は高くなり、見かねたある有志の方々がゴミの仕分けを始めました。それを見た私は、在宅の町会役員を集めて一緒にゴミの仕分けをしました。夏の暑い日の午後、悪臭とウジムシと汗との戦いでした。その時、私は感じました。「誰かがやらなければ終わらないのだ。誰か始めれば協力者はいるのだ。」ということ。その後、処理場の西のステーションと共に廃止して、分散化致しました。

退任前に宝町の4分割の提案が出され、大変困惑致しました。役員会議において慎重に審議を重ねた結果、「宝町は一つ」で結審し、総会で承認を得ました。大きな町になりましたが、大きな町のメリットを生かして、私たち老人にも暮らし良い町を創ってほしいと思います。



座談会風景

20周年記念事業実行委員会

委員長 中 嶋 顕 弥

記念誌編集委員会

委員長 荒 井 清

編集長 清 水 弘

委 員 斎藤伸一・本多俊一

〃 西倉志郎・庭山熙彦

宝 町・町 会 功 労 表 彰 (感謝状含)

年 代	被 表 彰 者	対 象	表 彰 者
1978 昭和53年 8月13日	岡田修 丸山紘一 関山城由作 常田敬三 依田和 茂田勇 伴木場庸利 柴昇 宝町女子バレーボール部 高木勝治	51 副会長ほか 51 北部区長ほか 51 東部区長 52 初代育成会会長 51 文化部長 52 副会長 51 文化部長 52 副会長 51 県営区長 52 県営区長 51 総務部長 52 書記 51 会計 52 会計 団体表彰 街路灯20灯寄付 感謝状	岩瀬更生
1979 昭和54年 8月12日	米田一男 小野昭三 岩田勝巳 宝町男子バレーボール部 本勝一郎	52 北部区長 53 北部区長 52 県営区長 53 県営区長 51.52.53 宝町テレビ組合長 団体表彰 「神興」寄贈 感謝状	岩瀬更生
1980 昭和55年 8月10日	斎藤晃 藤内隆 榎田満 宗像宏佑 湯田秋一 庭山熙彦 宝町女子ソフトボール部	53 書記 54 書記 51 書記 52.53 会計 53 会計 54 会計 53 保健衛生部長 54 保健衛生部長 53 東部区長 54 東部区長 53 育成会長 54 育成会長 団体表彰	岩瀬更生
1981 昭和56年 8月9日	安達秋康 星野梅吉 北嶋賢治 宝町子どもカルタチーム 久保田板金	53.54 交通安全 55 交通安全部長 53.54.55 防犯部長 54 会計 55 会計 団体表彰 祭り櫓 感謝状	岩瀬更生
1982 昭和57年			
1983 昭和58年 4月24日	岩瀬更生	51.52.53.54.55.56 町会長	平間正二郎
1984 昭和59年 4月1日	平間正二郎 西保田均 倉志郎	53.54.55.56 副会長 57 町会長 56 会計 57 会計 56 育成会長代 57 育成会長	本多俊一
1985 昭和60年			
1986 昭和61年 3月30日	本多俊一 辻俊夫 木幡丈文	54.55.56.57 副会長 58.59 町会長 55 南部区長 56.57.58.59 副会長 58 育成会長 59 育成会長	岩崎好助
1987 昭和62年 3月29日	小西宏明 中村良子 池浦昌子	55.56 総務 58.59 副会長 55.56.57.58.59.60 交通指導員 58.59.60 交通指導員	岩崎好助
1988 昭和63年 3月27日	斎藤伸一 岩崎好助	57.58.59.60.61 総務 55~59 東部区長 60.61 町会長	堀江雅司
1989 平成元年			
1990 平成2年 4月1日	堀江雅司 曾我部徹 佐藤美子 東公園愛護会	56~61 南部区長 60~61 副会長 62.63 町会長 61.62.63 交通指導員 61.62.63 交通指導員 52~63 公園管理	西倉志郎
1991 平成3年 3月31日	橋本武三 佐藤耕平	62.63.1.2 東部区長兼副会長 60~2 北部区長兼副会長	西倉志郎
1992 平成4年			
1993 平成5年 3月28日	西倉志郎 荒井清一 斎藤伸一	60~63 文体部長 1 南部区長 1~4 町会長 56 防犯部長 1~4 保健衛生部長 57~61 総務 1~4 総務	清水武夫
1994 平成6年			
1995 平成7年			

表 彰 状 ・ 感 謝 状 ・ 賞 状

年 月 日	受 者	状	大 会 ・ 種 目 ・ 他	表 彰 者
1976 (昭和)				
51.8.22	宝 町 チ ー ム	準優勝	宝泉地区野球大会	宝泉地区体育協会会長 小林輝次
51.10.3	宝 町 地 区	第六位	宝泉地区体育大会陸上総合	宝泉地区体育協会会長 小林輝次
51.11.28	宝町チーム団体	準優勝	第4回宝泉地区バドミントン大会	宝泉地区体育協会会長 小林輝次
1977				
52.5.22	宝町地区チーム	第三位	宝泉地区対抗大会・卓球	宝泉地区体育協会会長 小林輝次
52.6.12	宝町地区(男子)	優 勝	宝泉地区対抗大会・バレー	宝泉地区体育協会会長 小林輝次
1978				
53.8.13	宝町女子バレーボールチーム	表彰状	宝泉地区2年連続優勝	宝町町会会長 岩瀬更生
1979				
54.5.2	防犯委員会宝町地区	表彰状	明るい街づくりに尽力	太田市防犯委員会会長 増田静哉 太田警察署長・警視 横尾文吾
54.8.12	宝町男子バレーボールチーム	表彰状	宝泉地区連続3期優勝	宝町町会会長 岩瀬更生
54.8.26	宝 町	準優勝	第6回宝泉地区バドミントン大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
54.9.16	宝 町	優 勝	第6回宝泉地区体育大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
1980				
55.4.27	宝 町 チ ー ム	優 勝	第7回宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
55.5.18	宝 町(一般男子)	第三位	第7回宝泉地区ソフトボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
55.5.18	宝 町(壮年の部)	準優勝	第7回宝泉地区ソフトボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
55.8.24	宝 町	準優勝	第7回宝泉地区バドミントン大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
55.9.14	宝 町 地 区	優 勝	第7回宝泉地区体育大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
1981				
56.2.18	宝 町 地 区	表彰状	第7回福祉大会事業成績優秀	太 田 市 長 戸沢久夫 太田市社会福祉協議会長 阿蔵岩吉
56.4.26	宝町地区(男子)	優 勝	第8回宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
56.4.26	宝町地区(女子)	優 勝	第8回宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
56.5.17	宝 町(一般男子)	準優勝	第8回宝泉地区ソフトボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
56.7.19	宝 町	準優勝	第8回宝泉地区野球大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
56.9.20	宝 町	準優勝	第8回宝泉地区体育大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
56.12.6	宝 町	第三位	宝泉地区第1回ゲートボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
1982				
57.4.25	宝 町(男子)	優 勝	第9回宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
57.4.25	宝 町(女子)	準優勝	第9回宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
57.5.16	宝 町	準優勝	第9回宝泉地区ソフトボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
57.5.21	宝 町 B	優 勝	第1回宝泉地区ゴルフコンペ団体	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫

年 月 日	受 者	状	大 会 ・ 種 目 ・ 他	表 彰 者
57.5.21	宝 町 A	第三位	第1回宝泉地区ゴルフコンペ団体	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
57.6.13	宝町スポーツクラブ男子C	準優勝	太田市ソフトボール春季大会	太田市ソフトボール協会会長 吉田和彦
57.6.28	宝 町 防 犯 部	表彰状	防犯活動に献身・尽力	県防犯委連合太田市部長 戸沢久夫 太田警察署長 田村太平
57.9.19	宝 町	優 勝	第9回宝泉地区体育大会・総合	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
57.11.7	宝 町	優 勝	第9回宝泉地区バドミントン大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
1983				
58.4.17	宝 町 地 区 (女子)	優 勝	第10回宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
58.4.17	宝 町 地 区 (男子)	優 勝	第10回宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
58.5.24	宝 町 A	優 勝	第2回宝泉地区ゴルフ大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
58.5.24	宝 町 B	準優勝	第2回宝泉地区ゴルフ大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
58.5.29	宝町スポーツクラブ男子C	第三位	太田市ソフトボール春季大会	太田市ソフトボール協会会長 吉田和彦
58.6.5	宝町女子ソフト	優 勝	第5回太田市家庭婦人スポーツ大会	太田市教育委員会教育長 北條富司
58.11.13	宝 町 A	優 勝	第10回宝泉地区バドミントン大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
1984				
59.4.29	宝 町 二 区 (女子)	優 勝	第11回宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
59.4.29	宝 町 二 区 (男子)	優 勝	第11回宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
59.4.29	宝 町 一 区 (女子)	準優勝	第11回宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
59.5.20	宝 町 一 区 (男子)	優 勝	第11回宝泉地区ソフトボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
59.5.27	宝町女子ソフト	準優勝	第6回太田市家庭婦人スポーツ大会	太田市教育委員会教育長 北條富司
59.9.9	宝 町 二 区	第四位	第11回宝泉地区体育大会・総合	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
59.9.9	宝 町 一 区	第五位	第11回宝泉地区体育大会・総合	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
59.9.23	宝 町 子 ども 会	優 勝	第1回太田市子ども会親善野球大会	市子ども会育成体協会会長 小暮藤太郎
59.11.11	宝 町 二 区	準優勝	第11回宝泉地区バドミントン大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
1985				
60.4.28	宝 町 一 区 (女子)	優 勝	第12回宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
60.4.28	宝 町 一 区 ・ 団体	優 勝	第4回宝泉地区親睦ゴルフ大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
60.4.28	宝 町 二 区 (女子)	第三位	第12回宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
60.5.19	宝 町 一 区 (男子)	第三位	第12回宝泉地区ソフトボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
60.5.26	宝町女子ソフト	準優勝	第7回太田市家庭婦人スポーツ大会	太田市教育委員会教育長 北條富司
60.7.31	宝 町 二 区	準優勝	第12回宝泉地区野球大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
60.9.8	宝 町 二 区	第三位	第12回宝泉地区体育大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
60.9.8	宝 町 一 区	第五位	第12回宝泉地区体育大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
60.11.10	宝 町 一 区	優 勝	第12回宝泉地区バドミントン大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
60.11.10	宝 町 二 区	準優勝	第12回宝泉地区バドミントン大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫

年 月 日	受 者	状	大 会 ・ 種 目 ・ 他	表 彰 者
1986				
61.4.27	宝町二区(女子)	優勝	第13回宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
61.4.27	宝町二区(男子)	優勝	第13回宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
61.4.27	宝町一区(女子)	第三位	第13回宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
61.5.18	宝町二区(女子)	優勝	第13回宝泉地区ソフトボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
61.5.18	宝町二区(壮年)	第三位	第13回宝泉地区ソフトボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
61.5.29	宝町一区・団体	優勝	第5回宝泉地区ゴルフ大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
61.6.6	宝町地区	感謝状	59.60年度太田市環境美化運動モデル地区	太田市長 戸沢久夫
1987				
62.2.25	宝町地区	表彰状	第13回太田市社会福祉大会	太田市長 戸沢久夫 市社会福祉協議会長代行 石川且二郎
62.5.17	宝町二区壮年男子	準優勝	第14回宝泉地区ソフトボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
62.5.17	宝町一区壮年男子	第三位	第14回宝泉地区ソフトボール大会	宝泉地区体育協会会長 稲村昭夫
62.9.6	宝町子ども会	優勝	第3回太田市子育連球技大会	市子ども会育成団体協会会長 須藤 隆
1988				
63.5.15	宝町二区(女子)	優勝	第15回宝泉地区ソフトボール大会	宝泉地区体育協会会長 田村武夫
63.5.15	宝町二区(男子)	準優勝	第15回宝泉地区ソフトボール大会・スローピッチ	宝泉地区体育協会会長 田村武夫
63.5.15	宝町一区(女子)	第三位	第15回宝泉地区ソフトボール大会	宝泉地区体育協会会長 田村武夫
63.5.15	宝町二区(男子)	第三位	第15回宝泉地区ソフトボール大会・ファーストピッチ	宝泉地区体育協会会長 田村武夫
63.5.24	宝町トレジャーズ	優勝	第10回太田市家庭婦人スポーツ大会	太田市教育委員会教育長 北條富司
63.5.26	宝町一区	優勝	第7回宝泉地区ゴルフ大会	宝泉地区体育協会会長 田村武夫
63.5.29	宝町一区(女子)	優勝	第15回宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 田村武夫
1989(平成)				
1990				
2.5.20	宝町二区(女子)	準優勝	宝泉地区ソフトボール大会	宝泉地区体育協会会長 久保田昭佐
2.5.20	宝町二区	準優勝	宝泉地区ソフトボール大会・ファーストピッチ	宝泉地区体育協会会長 久保田昭佐
2.6.5	宝町一区・団体	優勝	第9回宝泉地区ゴルフ大会	宝泉地区体育協会会長 久保田昭佐
2.8.5	宝町子ども会・小学生A	優勝	第27回宝泉地区子ども会球技大会・野球	宝泉地区子ども会団連協長 橋本和子
2.8.5	宝町子ども会・小学生B	準優勝	第27回宝泉地区子ども会球技大会・野球	宝泉地区子ども会団連協長 橋本和子
2.8.5	宝町子ども会・中学生	準優勝	第27回宝泉地区子ども会球技大会・野球	宝泉地区子ども会団連協長 橋本和子
1991				
3.5.19	宝町一区(男子)	準優勝	ソフトボール大会・スローピッチ	宝泉地区体育協会会長 久保田昭佐
3.5.19	宝町一区(男子)	準優勝	ソフトボール大会・ファーストピッチ	宝泉地区体育協会会長 久保田昭佐
3.5.19	宝町二区(女子)	準優勝	ソフトボール大会・スローピッチ	宝泉地区体育協会会長 久保田昭佐
3.5.19	宝町一区(女子)	第三位	ソフトボール大会・スローピッチ	宝泉地区体育協会会長 久保田昭佐
3.6.4	宝町一区・団体	第三位	宝泉地区ゴルフ大会	宝泉地区体育協会会長 久保田昭佐

年 月 日	受 者	状	大 会 ・ 種 目 ・ 他	表 彰 者
3. 6. 3 0	宝 町 二 区 (女 子)	第三位	宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 久保田昭佐
3. 6. 3 0	宝 町 二 区 (男 子)	第三位	宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 久保田昭佐
3. 7. 3 0	宝 町 二 区	第三位	宝泉地区野球大会	宝泉地区体育協会会長 久保田昭佐
3. 8. 4	宝町子ども会・中学生	優 勝	宝泉地区子ども会球技大会	宝泉地区子ども会団連協長 橋本和子
3.10.20	宝 町 子 ど も 会	表彰状	活動模範	太田市教育委員会教育長 北條富司
1 9 9 2				
4. 4. 1 7	宝町中央公園愛護会	感謝状	公園の環境美化	太 田 市 長 戸 沢 久 夫
4. 5. 2 4	宝 町 二 区 (女 子)	優 勝	宝泉地区ソフトボール大会・スローピッチ	宝泉地区体育協会会長 吉 原 猛
4. 5. 2 4	宝 町 二 区 (男 子)	準優勝	宝泉地区ソフトボール大会・ファーストピッチ	宝泉地区体育協会会長 吉 原 猛
4. 5. 2 4	宝 町 一 区 (女 子)	第三位	宝泉地区ソフトボール大会・スローピッチ	宝泉地区体育協会会長 吉 原 猛
4. 5. 2 4	宝 町 二 区 (男 子)	第三位	宝泉地区ソフトボール大会・スローピッチ	宝泉地区体育協会会長 吉 原 猛
4. 6. 1	宝町一区・団体	優 勝	宝泉地区ゴルフ大会	宝泉地区体育協会会長 吉 原 猛
4. 6. 2 8	宝 町 二 区 (女 子)	準優勝	宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 吉 原 猛
4. 6. 2 8	宝 町 一 区 (女 子)	第三位	宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 吉 原 猛
4. 7. 2 9	宝 町 二 区	準優勝	宝泉地区野球大会	宝泉地区体育協会会長 吉 原 猛
4. 7. 2 9	宝 町 一 区	第三位	宝泉地区野球大会	宝泉地区体育協会会長 吉 原 猛
4. 8. 9	宝町子ども会・小学生	優 勝	宝泉地区野球大会	宝泉地区子ども会団連協長 橋本和子
4. 8. 9	宝町子ども会・中学生B	優 勝	宝泉地区野球大会	宝泉地区子ども会団連協長 橋本和子
4. 8. 9	宝町子ども会・中学生A	準優勝	宝泉地区野球大会	宝泉地区子ども会団連協長 橋本和子
4. 9. 1 3	宝 町 二 区	第十位	第19回宝泉地区大運動会	宝泉地区体育協会会長 吉 原 猛
1 9 9 3				
5. 5. 1 6	宝 町 二 区 (男 子)	優 勝	ソフトボール大会・ファーストピッチ	宝泉地区体育協会会長 吉 原 猛
5. 5. 1 6	宝 町 一 区 (男 子)	第三位	ソフトボール大会・ファーストピッチ	宝泉地区体育協会会長 吉 原 猛
5. 7. 1 8	宝 町 一 区 (女 子)	準優勝	宝泉地区バレーボール大会	宝泉地区体育協会会長 吉 原 猛
1 9 9 4				
6. 5. 1 5	宝 町 二 区 (女 子)	優 勝	宝泉地区ソフトボール大会・スローピッチ	宝泉地区体育協会会長 大 木 誠
6. 5. 1 5	宝 町 二 区 (男 子)	準優勝	宝泉地区ソフトボール大会・ファーストピッチ	宝泉地区体育協会会長 大 木 誠
6. 5. 1 5	宝 町 一 区 (女 子)	第三位	宝泉地区ソフトボール大会・スローピッチ	宝泉地区体育協会会長 大 木 誠
6. 7. 2 8	宝 町 一 区	優 勝	宝泉地区野球大会	宝泉地区体育協会会長 大 木 誠
1 9 9 5				
7. 5. 2 1	宝 町 二 区 (女 子)	優 勝	宝泉地区ソフトボール大会・スローピッチ	宝泉地区体育協会会長 大 木 誠
7. 5. 2 1	宝 町 二 区 (男 子)	準優勝	宝泉地区ソフトボール大会・ファーストピッチ	宝泉地区体育協会会長 大 木 誠
7. 5. 2 1	宝 町 二 区 (男 子)	第三位	宝泉地区ソフトボール大会・スローピッチ	宝泉地区体育協会会長 大 木 誠
7. 5. 2 1	宝 町 一 区 (男 子)	第三位	宝泉地区ソフトボール大会・ファーストピッチ	宝泉地区体育協会会長 大 木 誠
7. 7. 2 7	宝 町 二 区	準優勝	宝泉地区野球大会	宝泉地区体育協会会長 大 木 誠

宝町10周年表彰

昭和60年12月15日

被 表 彰	表 彰 者
個人 岩瀬更生(初代町会長) 平間正二郎(二代町会長) 本多俊一(三代町会長) 庭山熙彦(育成会会長)	宝町町会会長 岩崎好助
団体 宝町宝寿会 宝診療所 子ども会育成会 宝町商店会 宝町テレビ共同受信施設組合 群馬銀行宝泉支店 太田地区消防組合太田消防団第八分団	宝町10周年記念事業実行委員会委員長 佐藤耕平

宝町町会外歴代役職者一覧

平成3年3月現在

役職名	氏 名	地区	在任期間	役職名	氏 名	地区	在任期間
民生委員 (児童委員)	伏島光男	北	S55~58	群馬県少年 警察協助力員	小西宏	東	S56~61
	宗像宏侑	東	S55~58		本多俊一	東	S56~61
	岩瀬更生	東	S58~		常田敬利	東	S62~
	堀江雅司	南	S58~		伴場庸利	南	S62~
	斎藤義也	南	S58~	宝町駐在所 連絡協議会	岩瀬更生	東	S62~
	久保四郎	北	S58~61		常田敬	東	S62~
	本多俊一	東	S61~		長谷川太一郎	東	S62~
	江原章宏	北	S61~H1		池浦昌子	西	S62~
青少年育成 補導推進員	星野孝	北	H1~		伴場庸利	南	S62~
	依田和三	西	S56~57		柴里子	南	S62~
	大下栄二	北	S57~58		諸星京子	北	S62~
	本多俊一	東	S58~59		神谷隆	北	S62~
	柴里子	南	S59~		六本木国義	県	S62~
	酒井興一	東	S59~61	母子健康 推進員	岡田暎子	南	S56~62
	米田一男	北	S63~		笠島玲子	西	S60~62
	和田一夫	南	H2~	健康推進員	岡田暎子	南	S63~
太田市交通 指導員	小泉晟	南	S52~55		笠島玲子	西	S63~
	中村良明	東	S56~60	食生活改善 推進員	須藤ふみ子	東	S58~
	池浦昌子	西	S58~60		柴里子	南	S59~
	曾我部徹	北	S61~H1		岡田暎子	南	S61~
	佐藤寿美子	北	S61~H1		永浜美栄子	南	S62~
	杉山邦夫	北	H1~2		小方博子	東	S62~
	永井良治	市	H2~		笠島玲子	西	S63~
	神谷桂子	北	H2~				

(S=昭和, H=平成)

宝町誕生ものがたり

浅井 哲 男

◎ はじめに

現在私達が住んでいるこの「宝町」は、いったいどの様にして創られてきたのだろうか？「宝泉住宅団地」と呼ばれていたこの町の誕生について、当時用地買収から分譲まで県職員として担当した私が最も知っているのではないかと思い、20年誌発行にあたり、私の知る限りを遺言のつもりで書かせていただきました。

◎ 住宅団地造成の目的

昭和45年都市開発区域の拡大と東毛広域市町村圏の設定に関連し、太田市総合計画なるものを樹立して工業開発の推進、基幹道路網の整備等が積極的に実施された為、太田市の人口は急激に増加の一途をたどり住宅の不足が強く叫ばれていたので、その対策とさらにこの住宅団地と同時に事業開始となった「太田西部工業団地」及び「太田東部工業団地」立地企業の従業員対策の一環として計画実行されたものである。

◎ 従前の土地について

宝町が所在する太田市の宝泉地区は、昭和38年4月1日に太田市に合併される前は新田郡宝泉村と呼ばれ、塚越県議のお父さんの塚越累平氏や地権者の1人であった塚越與市氏などが村長を務めています。

この町の造成当時、市の宝泉出張所（現在は宝泉公民館の1階にある）の倉庫には、旧宝泉村時代の書類が保存されており、何度か調査に行った記憶があります。

この出張所の辺りも宝泉小学校ができるまでは大変寂しい所だったそうで、山賊が出るなんてことも言われたことがあったようです。

道路も、道らしい道は八千代グラウンドから宝町中央公園の北側を通して沖野から新田町反町に抜ける道しかなく、その道も大正年間に拡幅されていたとは言え大変道幅が狭かった。その当時の名残りは島岡酒造の前の所、岡島製作所の前、そして沖野地区内の一部に今もあり、当時を偲ぶことができます。

さて、住宅団地として造成される以前の土地ですが、その大部分が「水田」でありました。約79ヘクタールの土地のうち、水田が約62ヘクタール、畑が約8ヘクタール、道路・水路等の公共用地が約9ヘクタールでありました。

この辺はよく「どぶっ田」と呼ばれ、お米の生産には適していたようですが、大雨が降ったときはこの辺り一帯が湖のようになったそうです。今でも大雨が降ると宝町の南に位置する下田島地区で床下浸水があったという話を聞いたりいたしますが、この町自体も「あさひ寿司」さんの前あたりにいつも水が溜まってしまって、水はけが良いとは言えません。

宅地造成工事の時も、広沢山の「山ズリ」を平均約60センチの厚さで入れて締め固めをしており、その上に新里村から運んできた表土をかぶせてあります。地耐力を高めるためにそうしたのですが、樹木等を植えるために庭を深く掘ったりすると、大きな石がゴロゴロと出てきたご経験が皆様もおありでしょう。

この湿地地帯ということ、そして高圧電線が2条走っていることから比較的に買収し易いのではないかと？ また太田西部工業団地に近いという理由から、この地に住宅団地が計画されたのではないかと思います。

地質については以上ですが、次に地名について述べてみましょう。この町は太田市の大

字由良、大字別所、大字沖野及び大字西野谷の4地区の一部の土地が合わさっております。

北部は、最も北の水田が多く残っている地域の西側が別所字岡田、東側が別所字前田、曾我部塾の辺りが由良字天之下、幼稚園の辺り一帯が由良字溜下、企業局の公舎や警察寮に接する辺りが由良字北の庄で、交番から北と東の部分が由良字諏訪下と呼ばれる土地でありました。市営住宅及び県営住宅のある地域は、由良字油天と沖野字九番耕地及び沖野字二番耕地の一部、西部（県住宅供給公社分譲、勤労者住宅協会分譲及び新潟鉄工社宅）が由良字八反田、東部が由良字五反田、そして南部が由良字博痴田（ばくちだ）と県道沿いが由良字京道橋及び西野谷字堀ノ内と字宮田の一部、西に突き出た部分が沖野字一番耕地という地名でした。

◎ 用地取得

昭和46年12月の第1回契約から昭和49年7月までの間に、地権者178名から825筆の土地を買収しました。本当はもっと広く造成する計画であったのですが、沖野地区の一部地権者から反対があり、最終的に団地西側地区を縮小して事業施行しています。

その時の反対の理由は「東毛変電所の建設の時に土地が買収され、更に別所工業団地（坂本工業、池田ガラス等）で買収され、そして今回の住宅団地で買収されては農業経営が成り立たない」ということでした。これで宝町の形が整形でない理由がおわかりでしょう。

土地の買収価格は、取り付け道路（主地道前橋古河線から団地北西部に結ぶ道路）と全面売り渡ししが1反115万円、4割還元方式売り渡し（買収面積の4割の面積を耕地整理して地権者に返す方法）が1反80万円でした。

現在、80万円で何坪買えますでしょうか？ 仮に3坪買えるにしても1反300坪ですから、

なんと20年で100倍に値上がりしたことになります。「土地神話」が生まれるわけですね。

さて、用地取得はご多分に漏れず、難航いたしました。私も県教委から企業局に異動して、すぐに用地買収にかり出されました。毎日のように太田市の担当者と一緒に未買収の地主さんの家にお伺いして交渉を重ね、毎日前橋の自宅に帰るのは深夜ということが続きましたが、昭和49年の田植え前までになんとか全て終了することができました。あの当時は今と異なって「いくら金を積んでも売らないよ」と言う地主さんが多く、県や市の担当者のもとより該当の地権者の方も相当のプレッシャーとストレスを感じておりました。

この団地の分譲を終了してまもなく、太田市の担当者5人の内お二人が亡くなっており、最後まで残っていた地権者の何名かの方も早々とお亡くなりになっています。勿論このことが全ての原因ではありませんが、お互いに命を削るような攻防が交わされたのは事実です。

私が分譲当時に皆さんから鬼の様に言われたことがありますが、それはご苦労いただいた皆様に報いるためにも「なんとかこの町を良い町にしたい。金儲けの道具には絶対させないぞ」という一念が厳しい態度になって現れていたのではないかと思います。

◎ 造成工事

この住宅団地は、土地区画整理法第3条第1項（1人施行）の法律を適用して造成されました。わかり易く言うと、群馬県（企業局）1人で土地区画整理事業（通常は共同施行）を実施したということです。

造成後の土地の内訳は宅地が257,438㎡、道路150,298㎡、水路13,036㎡、雑種地（下水処理場用地、線下緑地等）29,549㎡、公園24,361㎡、還元農地田250,420㎡及び畑65,548㎡で、計790,650㎡となって

います。総工費は、用地取得費等を含めて約20億円です。

◎ 用途地域

一般分譲区画および住宅供給公社分譲区画等の区域は第1種住居専用地域で、建坪率40%、容積率80%、高さ制限10メートル等の規制があります。商店街区は近隣商業地域、市営住宅、県営住宅、その他の利便施設及び還元農地は第2種住居専用地域となっています。従って、宝町内での風俗営業は許可になりません。

ここで、還元農地について述べておきましょう。宝町の還元農地は、宅地分譲に先立ち昭和49年6月19日に各地権者に引き渡されました。この還元農地の割り込み作業も、私など太田市に泊まり込みで、旧中島記念図書館で実施したのですが、大変な作業でした。お陰様で大きくもめることもなく、無事に引き渡しを終了することができました。

この還元方式は、国土の狭い日本において農業を守りながら秩序ある開発が可能となる非常に優れた方法であるとのことで、この当時もてはやされた方式です。近くでは太田西部、太田東部、大利根(大泉町)等の工業団地や中野(邑楽町)住宅団地等で採用されましたが、その後、この方式には様々な問題点が発生して、今では全く採用されなくなりました。

その問題点とは、例をあげると、地権者は6割分の土地代しか貰っておらず、4割分は交換であると理解していたわけですが、一旦全面積について地権者から群馬県に所有権移転登記し、造成が完了してから4割分の土地を群馬県から各地権利者に所有権移転登記する方法を採るので、実際に還元された4割分の土地を売却しようとした場合、短期の譲渡所得税が適用されるということになり、地権者の不満が爆発したことです。税務当局の見解

は、金銭の授受がなくても所有権移転が繰り返されているので、群馬県から引き渡しを受けた時点から起算するため、地権者がすぐに還元農地を売った場合は短期の譲渡所得税を適用するとのことで、4割分は売っていないとの地権者の主張が認められませんでした。

当時の短期の譲渡所得税は市町村民税を含み55%も課税されたので、宝町地内の還元農地でも長期譲渡所得税が適用されるまでの10年間は売買が殆どなく、借地による住宅建設が多かった。それが宝町南北の還元地の開発を、当初の見込みから大幅に遅れさせてしまったのです。

早期に還元地をお買いになった町民の皆さんは、税金分高くお買いになったのではないかと思います。

そしてこの還元地は、農地とはいえ市街化区域内の農地であるので、農地法による許可が必要ない反面、固定資産税は宅地並課税で、地権者はまさにダブルパンチを受けたことになりました。

この様な税の問題以外にも幾つかの問題点が指摘されるようになって、還元方式は消滅したのです。

◎ 町名について

「宝町」という地名は、〈いつ〉、〈誰が〉、〈どこ〉で決めたのだろうか？ その疑問にお答えしましょう。

宝泉住宅団地の新町名と行政区の区割りを検討する会議は、昭和48年8月21日、午前10時から宝泉公民館において開催されました。出席者は、由良1区区長、由良2区区長、同区長代理、由良3区区長、同区長代理、別所区長、同区長代理、沖野区長、西野谷区長の9名と太田市から行政課及び開発課の課長、担当係長、担当者が出席しています。

新町名については西部工業団地が「西新町」、

東部工業団地が「東新町」となっており、この団地については「まぎらわしい『……新町』を付けるのは止めよう、そして旧宝泉の地名を残そう」との意見が強く、結局「泉町」が既にあったので「宝町」になった次第です。

行政区画は、太田市においては1区につき平均約270戸となっているので、5～6区（東、西、南、北、市営、県営の6行政区）に分割するのが妥当とのことに決定した。そして居住者の少ない南北の還元地については、当分の間、別所、由良2区、由良3区及び西野谷の区長さんがめんどうをみることになった。

この様に「宝町」の町名は、当該地区の当時の区長さん達が相談して決めたのです。

◎ 分譲について

第1回の一般分譲は現在の北部及び南部地区の263区画が対象で、昭和49年8月17日に太田市民会館で公開抽選が行われました。分譲申込者の数は942人で競争率は3.582倍でした。

第2回の一般分譲は、現在の東部地区の181区画が対象で、同年10月30日に公開抽選が実施されました。応募者は691人で競争率は3.818倍でした。

分譲の条件には、土地や家を持ってない人、2年以内に住宅の建築に着手すること等の厳しい条件がついておりました。また、この住宅団地の譲受人の選考方法は、従来とは異なり事前の書類審査はせず、公開抽選に当選してから詳細に調査して譲渡の可否を決定するという方法を採用しました。

当選者を審査して落とすのですから、これは相当の抵抗が予想され、担当者としては随分反対したのですが、命令とあっては従うしかありません。送られてきた買受申込書を見ると明らかに無資格と思われるものも多数目についていたので、この様なものについては申込

者に電話をして納得してもらい、約80件を抽選から除外いたしました。

当選者が決定してからの資格審査ですが、当初から予想したとおり大変でした。落選した人のやっかみでしょうか、「誰さんは何処に土地を持っている」とか様々なタレ込みが殺到し、その対応におおわらわになってしまいました。

当時土地の値上がりが激しくなっていており、県としてはこの風潮に冷水を浴びせて沈静化を図る施策もあったので、1㎡当たり平均9,600円（坪当たり約31,680円）という安い分譲単価でしたから、安く買える団地はこれが最後ということもあって、このような騒ぎになったのも致し方ありませんでした。私たち担当者も一生懸命厳しい審査を実施し、信頼に応えたいと必死でした。

現在お住まいの皆様は、この厳しい審査をクリアーされた選良の人達で、その後のめざましい「町づくり」に対する情熱を見てもそのことは明らかで、私も努力の甲斐があったと自己満足しています。

◎ 登記について

土地区画整理事業における換地処分は昭和50年11月19日に実施され、同月28日に県報告示されて、翌日の29日から正式に宝町の町名と現在の地番となりました。

換地処分まで分譲後約1年かかったので、その間に住宅を建設したり居住したりした人には大変ご迷惑をお掛けいたしました。土地の所有権移転登記ができないために抵当権の設定ができませんので、住宅金融公庫や各金融機関からの融資が受けられないのでは困るという問題では、県が設定する買戻特約（分譲後5年間に「質権」を設定することを許可することで融資を受けてもらうことにいたしました。

住宅の建設が完了し、建物の登記が必要になった人に対しては、「底地証明書」なるもの

を発行して、それで法務局が登記してくれるように措置を講じました。住民登録も「太田市大字由良××番地（宝泉住宅団地△△街区▲▲号）」といった表示でもらいました。

この仮表示は、すべて昭和50年11月29日付けをもって、職権により「宝町○○番地」に修正されています。

◎ 地番について

宝町のあの複雑な地番は、どの様にして付番されたのでしょうか？

土地の地番の付番は、法務局の登記官の権限で実施されます。

一つの街区内の番号は、大体北東の角の区画から時計廻りに付番されることが多いのですが、街区の付番順はその団地の特徴やその登記官の考えによって異なります。宅地、公園、道路、水路といったように地目別に付番するケースや、地目に関係なく筆順、区画順に地区毎に付番して行く方法等があります。宝町の場合は後者です。

宝町の付番は右図の様に、北側還元地の東の角から開始され、蛇腹状に東から西へ、西から東へと進み、最後は南側還元地の西の角で終了しています。途中、道路、水路及び公園等の公共用地が入り込んでくるので、隣の区画どうしても地番が離れている場合もあり、分かりにくくなっています。



◎ テレビ共同受信施設

この施設は、県が分譲前に造成工事と同時に約4千万円の費用をかけて施工しました。

この施設を設置しなければならなかった理由は、ご承知のとおり、団地東側には東電所有の高圧電線路「新田線」66,000ボルトが走り、また団地の中央部分に電源開発(株)が所有する特別高圧電線路「只見幹線」276,000ボルトが走っているため電波障害が起きるとのことでありました。

この施設については、昭和52年3月29日付けで「宝町テレビ共同受信施設組合」に引き渡されたのですが、この時に1世帯あたり1か月200円の組合費を徴収することが決定されました。この200円の根拠は、当時各自がアンテナを建てると約24,000円位かかり、それに耐用年数を約10年と計算して割り出したものです。その後一度も値上げをしていないので、現在の物価から考えると皆さんは本当に安い組合費で良好な画面を見ていることになります。

先般、「只見幹線」の増強に伴い、電源開発(株)からの補償金により、懸案事項であった還元地居住者の組合加入も完了し、県分譲部分の施設の改善も実施され、宝町全体の足並みを揃えることができたことは誠に喜ばしく、町会長、組合長をはじめとする関係各位のご尽力に心から敬意を表する次第です。

◎ おわりに

まだ書き留めておかねばならないことは沢山あるのですが、紙面の関係でこの程度にとどめておきます。また、このような機会がありましたら書き足したいと思います。

最後に私が自信を持って言えることは、過去から現在まで群馬県企業局が造成した住宅団地でこれ程立派に「町づくり」を成し遂げた所はありません。新田町の「いずみ住宅団地」をはじめ後続の団地はみな宝町を模範にしています。

子ども達のための「ふるさとづくり」や、暖かみのある、かつ住環境の良い「町づくり」のために努力を惜しみなくされました町民の皆様へ心から感謝申し上げ、堅い物語を終わります。

宝町発足のころ

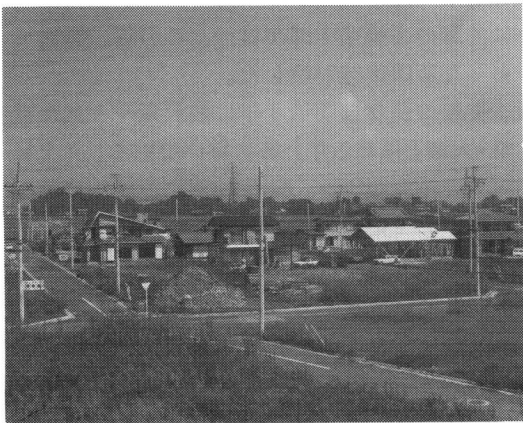
碓 氷 卓 丸

宝町発足当初を振り返って……

昭和50年5月に、此の宝町の公社建売住宅に入居いたしました。当時の団地内は引っ越したばかりの世帯が100戸足らずの入居状態で、分譲地の各所で家屋の建築中でした。

毎月約50戸程の完成入居により増加する宝町団地に対して、市役所との連絡事項、市広報の配布、其の他、区長の仕事をする代表責任者が必要となり、宝町町会が正式に組織体系を整えて運営できるまで、その基礎組織づくりも併せて市役所行政課よりお願いされ、約1年の短期間でしたが、微力ながら宝町の発展と住みよい町づくりに努力いたしました。

お陰様で、昭和51年5月に初代岩瀬更生区長(町会長)発足により、引き継ぎを無事に終え、肩の荷を下ろさせていただきました。



北 部 地 区

入居して第一に考えたことは、皆さんが集まって相談する集会所の必要性でした。団地の発足当初でもあり、時期的に建設陳情に適時と考え、当時の武川、山崎両県議の紹介により、県庁で企業局管理者、県知事に面接、昭和52年4月に現在の集会所の完成をみました。



中央公園及び公社住宅

中央公園の西南にある「乙女の像——やすらぎ——」は、宝町住宅団地に入居された皆さんが、平和で、何の心配も苦しみもなく、平穏で住みよいこの団地で円満な家庭生活を営み、乙女の像のような健康で明るい子供を育成していただきたいと願って、企業局が建てた像であり、昭和51年3月に完成。

宝町がうまれてから20年、早いものです。

宝町が発展、充実した陰で苦労された代々の区長(町会長)さんを始め各役員さんに感謝し、当初の頃を振り返りました。

宝 町 の 歩 み

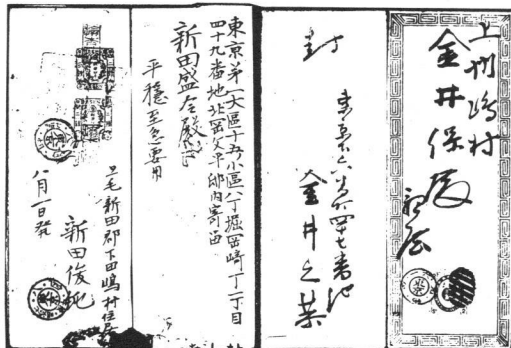
(1) 前 史

今、私達が住んでいる此の地は、遠い昔から女神の姿に似ていると言われる赤城山を眺望し、山紫水明の地。緑なる金山(かなやま)は昔から愛され、万葉歌にも歌われた。隣村(細谷)には高山彦九郎生誕の地がある。

古代、毛野国とよばれた政治区画は群馬・栃木の2県で形成されていたが、のちに上毛野国(今の群馬県)と下毛野国(今の栃木県)に分かれ、更に国名二字統一制度によって毛の字を脱して「上野」国・「下野」国となって長く用いられた。また上州の呼称も併用され、上野国、上州と二つの呼び名があった。

群馬県と称するのは「周易」の聖人南面而聴天下嚮明而治による『明ニ向ッテ治マラン』、また「孔子家語」に長聴明治五気の句のある明治となつてからの廃藩置県によってであり、幕末維新当時、近郊の下田島村には禄高20石から120石に加増された新田の殿様こと「新田俊純」の館がある。

新田俊純の祖先は56代清和天皇から分かれて源(みなもと)を名乗り、更に源義国から新田義重と足利義康に分かれ、新田義重から数えて新田俊純は25代にあたる。新田俊純は金井之恭、本島自柳、橋本正誠、大館謙三郎、黒田桃民らの新田勤王党の盟主に推され、宝町内通過の「例幣使道」をも往来していた。



新田俊純と金井之恭の書状 宝町・郵便美術館蔵

「政体書」草稿を副島種臣、福岡孝弟が起草。

明治7年に副島種臣、板垣退助、江藤新平、後藤象二郎らが愛国公党を組織し、「民撰議員設立建白書」を政府に提出。以後、自由民権運動が起こり、明治11年の「府県会規則」発布により、明治12年、初の県会議員の選挙が行われた。群馬県内44議員のうち新田郡区は高木要次郎・武藤道斎の二人だった。

明治23年には衆議院議員と貴族院議員の初の選挙が行われ、衆議院議員は制限はあるものの、全国(北海道・沖縄を除く)300議席の小選挙区制。群馬県区は5区5人を選び、第2区では新田・邑楽・山田郡で、竹井懿貞が当選した。

以後、宝泉村設立時代の昭和38年3月31日まで衆議院議員は村内から選出されていないが、貴族院議員では新田俊純の二男で相続人の新田忠純が二期担っている。

明治21年の「市町村制」発布により、明治22年4月1日より施行。由良村、西野谷村、沖野村、別所村、上田島村、下田島村、藤阿久村、脇屋村、中根村の近隣独立9ヶ村が連合して、宝(たから)の泉(いずみ)湧きいずる所、また別所村、円福寺の石幢の宝泉禅門の彫跡から「宝泉村」が誕生し、初代村長には由良の塚越禎三郎が就任した。明治27年、二代村長に沖野の峯崎宗十郎が就任。この年、男爵であった新田俊純が没した。

俊純の長女は明治3年に渋沢栄一と共に造幣・大蔵と係わる井上馨に嫁いでいる。井上は国事の重責のなか、明治19年に赤城山南東への「遷都」を計画するが実現されなかった。宝泉村となるこの地も対象とされていた。井上は三菱の岩崎弥之助、三井の益田孝と並んで明治の三大古美術収集家といわれており、また副島種臣、中林梧竹、日下部鳴鶴は明治の三大書家である。新田郡の旧家峯崎家に副島種臣の書が保存されていた。

(2) 造 成

昭和38年4月1日、宝泉村は毛里田村と共に太田市に合併した。宝泉村は75年間の歴史で閉じたが、その中で培われたものも多かった。太田市となった中でも宝泉地区の名称は地区に根付き、「宝泉住宅団地」の造成となっている。

群馬県内の市制については明治25年が前橋、明治33年は高崎、大正10年、桐生と続き、昭和15年の伊勢崎に次いで5番目の昭和23年5月3日に太田市が誕生した。それまで町長であった成田作兵衛が、選挙で初代市長となった。

初代市長	成 田 作 兵 衛	昭和23年5月
2代市長	中 村 藤 兵 衛	昭和24年2月
3代市長	武 藤 伝 次 郎	昭和24年9月
4代市長	堀 越 節 義	昭和28年9月
5代市長	武 川 英 男	昭和32年9月
6代市長	田 島 宗 仁	昭和34年6月
7代市長	戸 澤 久 夫	昭和50年6月
8代市長	清水聖義(現職)	平成7年6月

昭和42年、県議会議員選挙が行われた。

太田市は三人区で、小川省吾、岡田喜四郎、武川英男が当選した。初当選の武川英男は昭和43年9月の定例県議会で一般質問にたち、東毛経済圏、特に太田市の産業では中島飛行機から東京三洋電機、三菱電機、矢崎化工への工場誘致、また富士重工の自動車工場としての再発足による特に金属関係の生産の発展をあげ、今後を示唆している。武川議員の質問に対し神田坤六知事は「ことしから専門の先生方にも特別の調査を委託するというようなことなどもあり、また地元の町村ご当局、その他責任の方々による特別の会議を組織して、この問題を進めようというような動きもある。」と述べた。

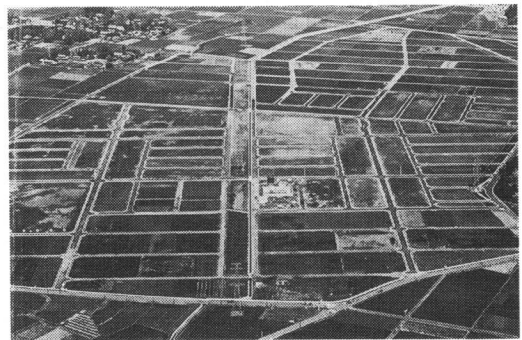
武川議員はおって昭和45年の定例議会の中で、産業、工場労働問題や住宅問題、東京方面からの労働力の確保について力説した。神田坤六知事は「工場誘致、工業開発をもし、技術水準を高め、経営の合理化、集団化、共同化のような近代化の促進、土地、地価、面積の

問題をカバーしていく。」と答弁。

太田市は昭和35年4月30日、衛星都市に指定された。これを契機に群馬県は東毛開発の中核として、太田西部工業団地、宝泉住宅団地(宝町)などの造成を実施した。

太田西部工業団地は昭和40年12月に工業適地に指定され、土地買い取り作業を終えて、企業局の事業として進められた。この工業団地は企業局の行う工業団地造成事業のなかで最も大きな面積を有し、昭和47年に分譲。

宝泉住宅団地は太田西部工業団地に追従し昭和45年からの関連で、由良、沖野、別所、西野谷に係わる土地の用地取得、造成工事が進められた。この団地も企業局の行う住宅造成団地のうち、前橋の大利根住宅団地に次いで2番目の大きさとなっている。



造成中の宝町

太田市議会において長谷川芳男は昭和46年定例会の一般質問で、宝泉住宅団地の件について工事着工の見通し、関連地域の道路、学校敷地をあげ、昭和47年には代替地地域の工事と換地、住居地域の工事、文化財の住居跡について造成事業との関連、更に昭和49年には関連道路の問題、下水処理場の処理廃水、緑地帯の管理及び換地地区登記の見通しなど、宝泉住宅造成に携わっている。

「宝泉住宅団地について」は企業局による事業計画であり、目的は昭和45年都市開発区域の拡大と東毛市町村圏の設定に関連し、太田市総合建設計画を樹立し、広域的見地にたって都市的諸要素を基に、地理的条件及び社会環境等を考慮し、計画、実施している。

(3) 抽選・分譲

宝泉住宅団地の分譲は、県庁、太田市役所、群馬銀行で申込受付をし、第1期は昭和49年7月15日から6日間(南部・北部263区画)、第2期は昭和49年9月20日から6日間(東部181区画)の一般個人宅地を行い、他の区画では太田市民分譲、県住宅供給公社(西部)、公営住宅(県部・市部)、勤労者住宅、企業社宅、店舗・医療機関、学校・保育園・交番等が割り当てられ、東部南面、南部南面、北部北面には田や畑など還元農地が広がっている。

抽選会は一般個人住宅地を太田市民会館の大ホールにおいて、第1期は昭和49年8月17日に、第2期は昭和49年10月30日に行った。

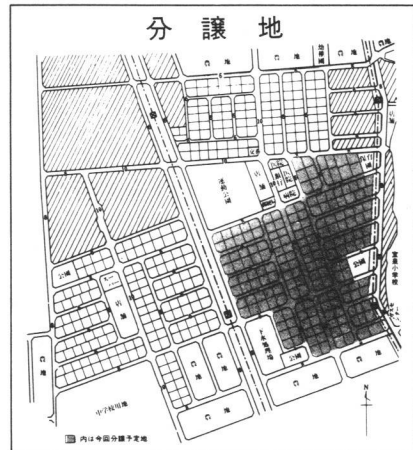
抽選方法について、第2期の181区画の当選者決定では、当日までの申込者の644人のうち棄権者53人の番号の玉を除いて2で割り、前半と後半とに分け、前後半とも110個の玉を出し、前半は1～318の296名の中から1～91までが当選者で、92～110は補欠者とし、後半は319～644の295名の中から1～90までが当選者、91～110は補欠者で、当選者181人と補欠者39人を決定した。

前半当選者は次の通り(41以下略)(第2期)

1	137	9	255	17	226	25	232	33	173
2	185	10	257	18	1	26	194	34	64
3	54	11	132	19	98	27	48	35	142
4	119	12	117	20	189	28	4	36	31
5	154	13	251	21	197	29	260	37	150
6	123	14	83	22	67	30	222	38	65
7	45	15	313	23	10	31	155	39	302
8	157	16	116	24	138	32	318	40	127



宝町住宅団地分譲のご案内(第1期)



分譲区画(第2期)

抽選の結果、当選者については区画選定の抽選が太田市民会館小ホールで、第1期は昭和49年9月19日、第2期は昭和49年12月4日に行われた。

第2期の区画選定では、書類審査で失格した11人と区画選定に棄権した4人の計15人を後日、補欠者の中から選ぶ。

(第2期)

区画	番地	区画	番地
1	81-3 385	15	87-2 516
2	97-7 414	16	110-4 784
3	80-5 398	17	80-4 397
4	86-2 527	18	93-1 444
5	棄権	19	95-6 441
6	93-3 448	20	97-5 412
7	88-2 505	21	92-11 469
8	90-10 473	22	89-2 494
9	90-1 482	23	81-1 387
10	95-2 437	中略	
11	81-4 384		
12	86-6 531	179	87-9 523
13	87-3 517	180	89-8 500
14	92-10 450	181	97-11 402

分譲契約は宝泉公民館において、第1期が昭和49年10月9日、第2期は同年12月17日に行われ、2年以内(1年延期)に住宅建築のこと。

(4) 町会・発足まで

分譲契約後、2年以内に家を建てなければならない契約だが、空前のオイルショック不況のため、1年延期となった。

第1期の分譲契約者は2ヶ月余り先行しているためか、昭和50年になると一面広い区画地に家が建ち始めた。

最初のうちは家が建つと、日曜日など自分の土地を見がてら、見学者の姿がみられ、日増しに家が建つようになっていった。

人が住み始めると、市役所とのパイプ役も必要となってくる。既に住み始めた人たちで交流ができ、「町会」の創立の話題も大きくなって、1年を経た昭和51年3月17日には町会役員の予定者を案件とした

町会長(区長)	公社	碓氷卓丸
副会長(区長代理)	東部	岩瀬更生
副会長(区長代理)	南部	岡田修
町務委員	東部	岩瀬更生
町務委員	南部	岡田修
町務委員	南部	宮崎真吉
町務委員	北部	丸山紘一
町務委員	公社	依田和三
町務委員	県営	茂木勇
防犯委員長	東部	常田敬
衛生委員長	東部	岩瀬更生
衛生副委員長	南部	金井貞夫
衛生副委員長	北部	丸山紘一
衛生委員	東部	関城由作
衛生委員	公社	大下栄二
衛生委員	県営	古暮芳男
本部会計	南部	田辺進

生活と直結する衛生の委員と、各地区の町務委員(現在の地区区長)を決めて、自治会の発足をにらんだ。

広い区域にわたって日増しに家が建ち並び、交流もままならぬ中、東奔西走して案を作ったが、一人が何役か兼任しなければならない計画に終わった。しかし自治会の必要性は強く感じられ、熱意、情熱、若さの結集で、陰での協力者も多かった。

宝町町会準備会は、委員長・岩瀬更生によって、昭和51年5月17日公告、5月30日に中央公園・乙女の像前で、会員377名、出席者274名により開かれた。

議長には宮崎真吉が選出され、柴昇、常田敬が書記に選定される。次に、町会役員選出については議長一任。議長は関城由作、依田和三、丸山紘一、茂木勇の4人を選考委員に指名した。

結果、町会長・岩瀬更生、副会長には依田和三、岡田修が満場異議なしで決定した。

——昭和51年(初代)宝町町会創立役員——

町会長	東部	岩瀬更生
副会長	公社	依田和三(町務兼任)
副会長	南部	岡田修
町務委員	東部	関城由作
町務委員	南部	宮崎真吉
町務委員	北部	丸山紘一
町務委員	県営	茂木勇
書記	東部	大内義隆
書記	公社	橋本信男
会計(正)	南部	田辺進
会計(副)	南部	柴昇
会計監査	県営	川田智恵
会計監査	公社	福島勝義
保健衛生部会長	南部	金井貞夫(副)安江敏彦
部員		大下栄二・古暮芳男・広瀬凱康
施設部会長	北部	根岸勝章(副)高橋国夫
部員		高田文男・町田道男・丸山泰
防犯部会長	北部	狩野伊勢男(副)野口育夫
部員		渋谷辰雄・堀田信秋・高木清
部員		北爪実・木部信之・山中弘
文化部会長	東部	常田敬(副)石川博志
		(副)安達秋康(副)小塚幸哉
部員		高橋道彦・青木勇・古内博
総務部会長	南部	伴場利太郎(副)佐野秀男
部員		阿部創三・土谷幸弘・大前美由
地区会計	東部	宮地司朗
	南部	関山二郎
	公社	久保田芳雄
	県営	高橋潔雄

(5) 町会・初期

町会の発足後、家並みはところどころ分譲地のままのところもあったが、建築への槌音は着実に増加し、医療機関・宝診療所も協和建設によって建てられていた。

すでに県営、市営、公社住宅も建ち、団地の完成記念を兼ね、中央公園には中島浩の作品で1.5メートルの御影石の台座に高さ1.2メートルのブロンズの乙女の像「やすらぎ」が土地提供者への感謝として建てられた。



昭和52年には市営への入居が始まり、市営の第2期、宝泉中学校や中央公園、南公園の工事も開始された。

「宝町のマーク」が募集され、10月に岩瀬更生の入選作品と安達秋康、木成茂夫、常田敬、木戸五百子(2点)の佳作5点が選ばれた。

昭和53年3月にはAコープ及び中央公園西水路端において、太田市中の消防車が集結し、消防模擬火災訓練が行われた。

宝町の造成時、地内に五反田遺跡(五反田公園)と諏訪下遺跡(中央公園)の調査報告書が太田市教育委員会(委員長・広田良)から発行された。

8月には、町会員ほか3人の乗った軽飛行機が遭難し、町会でも搜索に協力し、太田市の対策本部に呼応すべく宝町対策本部(町会・育成会役員、東部地区隣組長代表で構成)を設け、対策会役員や近所、地域内の一般協力者など多数の搜索協力を得た。資金カンパ要請もされたが、搜索は難行し、赤城山、谷川

岳と連日の搜索が続き、気流の関係もあってか日光連山で発見された。

町会のなかに文化部会がある。文化部会の活動は、卓球・バレーボール・ソフトボール・野球・バドミントン・運動会・駅伝などで、広義的に見たら文化といえるが、体育部会の名がふさわしいものばかりである。将来を見つめての名付けがされているが、まだ宝町の中に文化は根ざしていない。宝町に文化の名にふさわしい活動が期待されている。

宝町は新しく造成された「町」であり、住民の中心は30歳代前後といえる。

町で生活をしてゆくために必要な約束(決め)ごとは、必要範囲内で新しく決められてゆく。

昭和54年になると、老人クラブ「宝寿会」(会長・中野梅三郎)が発足し、目標をもった活動が始まった。

また12月1日には「太田・宝」郵便局が開局となり、利用者の足は日増しに増加していった。

昭和55年、宝町は900戸、3500人を越えた。発足時の昭和51年の377戸から52年には700戸、53年に750戸、さらに54年には830戸と増加をみて、昭和56年には920戸、57年、950戸、そして昭和58年には1000戸を数えた。

昭和57年度、町会は平間正二郎会長が就任し、初の広報紙「たからまち」が発行された。責任者は町会長で、編集責任者は斎藤伸一総務部長、編集員は町会本部役員。19名の顔写真入りで、宝町役員、地区隣組長名簿のほかに数人の文章がみられ、A3タイプ4ページだて。多くの人が期待を寄せたものの、2号の発行を見ることなく終えた。

昭和58年度、町会は本多俊一会長が就任。59年度までの2年間在任。

59年には本多俊一町会長により10周年記念事業の企画立案など、宝町こども会育成会と共に話し合われたが、10周年の昭和60年度は岩崎好助町会長に引き継がれた。

(6) 子ども会育成会・初期から改革まで

宝町の三大組織といえば、「テレビ受信施設組合（昭和51年11月発足）初代組合長・岩田勝已含む」町会（昭和51年5月発足）初代会長・岩瀬更生、子ども会育成会（昭和52年7月発足）初代会長・関城由作、商店会（昭和52年8月発足）初代会長・高木勝治である。

この三大組織は宝町の大きな行事があるときには、主催、共催、後援といったどれかの形で協力しあっている。

宝町の二大行事に「夏まつり」と「運動会」がある。「夏まつり」は町会が主導の企画であり、「運動会」は子ども会育成会が主導で企画をしていたが、後には「実行委員会」が設立され、行事として進められている。



昭和51年、町会の発足をみた時は377戸で世帯主の年齢からしても学童はそれほど多くなく、幼児が多かった。昭和52年になると1年間で世帯数は2倍近くになり、幼児から学童となる子どもも増え、7月には関城由作会長のもと「宝町子ども会育成会」が発足をし、304人の登録児童は、小学1年から中学3年までが対象となっている。

昭和53年は庭山熙彦が会長に就任。副会長には橋本茂、茂木喜美夫、石井三郎。書記は高橋秀幸、野上庄一。会計は安達秋康、清水巖。会計監査に原沢則勝、我妻勲。理事に久保田芳雄、金井秀邦、佐野隆志、鈴木宏明、長沢秀男、木成茂夫、田中洋安、沢宗夫の計18人の役員。

昭和54年度、庭山熙彦会長。

昭和55年度は熊倉忠志会長となったが、

途中で宝町外への移転となり、川口伊佐雄副会長が会長を代行。

翌、56年度も又、川口伊佐雄会長が誕生したものの中で広島県への移転となり、同年同様、西倉志郎副会長が会長代行を務め、昭和57年度の会長となった。

昭和58年度からは各地区代表の6人の中から会長を選び、他の5人を副会長とした。

この年、東部・高木勝治、西部・笠島正、南部・茂木文夫、北部・木幡丈文、県部・神谷隆、市部・木成茂夫の中から木幡丈文を会長に決め、他の5人が副会長となり、書記に清水弘・井上照三・池浦建望、会計に中野信夫・山崎雪光、理事については発足時からの三役を担った者の就任ということから、46人という数に上っている。

昭和59年度は更に改革を行い、理事の全面廃止や地区代表を三役と委員長の兼任とし、副委員長、補佐をもって構成とした。

会 長	木 幡 丈 文	文化委員会委員長	北部
副会長	高 木 勝 治	特別委員会委員長	東部
副会長	森 本 英 彰	書 記 (正)	西部
副会長	茂 木 文 夫		南部
副会長	藤 原 保 雄	部活委員会委員長	北部
副会長	町 田 健 寿	会 計 (正)	県部
副会長	梶 田 英 夫	渉外委員会委員長	市部
	酒 井 興 一	文化委員会副委員長	東部
	石 坂 三 雄	書 記 (副)	西部
	西 倉 志 郎	子ども委員会委員長	南部
	小 林 健 司	部活委員会副委員長	北部
	長 谷 井 純	会 計 (副)	県部
	吉 田 屯	渉外委員会副委員長	市部
補 佐	清 水 弘	書 記	東部
補 佐	笠 島 正	子ども委員会	西部
補 佐	中 野 信 夫	会 計	南部
補 佐	神 谷 隆	部活委員会	県部
会計監査	荒尾 清 (正)・酒井興一 (副)		

次年度の会長は、北部の次で県部の町田健寿。以後、市部・東・西・南・北と会長持ち廻り制度。

(7) 宝町10周年記念事業

宝町の10年について、町会はどうな考えを持っているのだろうか。企画によっては早目に準備をしなければ…と思った育成会の清水弘書記は、同じ育成会の木幡丈文会長と相談のうえ、本多俊一町会長に打診した。昭和58年11月のことであった。

よって、12月7日に町会と育成会の「合同会議」が行われ、町会10人、育成会17人の計27人が集まり、ここに初めて「宝町10周年記念事業」が木幡提案された。このことにより育成会の昭和59年度役員は宝町10周年記念事業の特別委員会を設置し、高木勝治委員長を選任した。

昭和59年10月30日「宝町10周年にむけて」の特別会議が行われた。町会からは本多俊一、小西宏、斎藤伸一、岩崎好助の4人、育成会は木幡丈文、高木勝治、中野信夫、清水弘の4人が出席。席上、10周年の行われる昭和60年度は本多俊一町会長、小西宏副会長ともに町会を退任したいとの意思がたく、岩崎好助区長は「一休みしたら又やってもらいたい」と労いの言葉を掛けた。

昭和60年度は岩崎好助町会長の誕生。

昭和60年10月25日「宝町10周年記念実行委員会の結成について」佐藤耕平準備委員の呼びかけによる会議が行われた。

16名の参加をもって開かれた会議の席上、集まった人たちについての説明を求められ、佐藤準備委員は次のように紹介した。

岩崎好助・町会長	町田健寿・育成会会長
佐藤耕平・副町会長	高木勝治・育成会副会長
大槻政夫・副町会長	柿沼法明・TV組会長
堀江雅司・副町会長	田村恵弘・商店会会長代理
小野 仁・西部区長	中野梅三郎・宝寿会会長
関根文雄・県営区長	岩瀬更生・有識者
石原悦博・市営区長	中野信夫・有識者
斎藤伸一・町会総務	清水 弘・有識者

有識者の内訳は、初代町会長で6年間歴任の岩瀬更生、会計で企画進行には中野信夫、書記で資料を多数所有している清水弘の3人。

第1回の実行委員会が昭和60年11月1日に行われた。

席上、佐藤耕平が委員長に選ばれ、記念式典を昭和60年12月15日、宝泉中学校体育館において行なうことを決めた。また、式典来賓委員会(堀江雅司)、表彰委員会(大槻政夫)、感想発表委員会(町田健寿)、記念誌編集委員会(岩瀬更生)も決定した。

式典来賓委員会は、開会の辞、太田市民憲章唱和、式辞、感謝状贈呈、来賓祝辞、謝辞、感想発表、万歳三唱、実行委員長謝辞、閉会の辞を式典次第と決め、招待者も決めた。

表彰委員会は、個人4名(岩瀬更生、本多俊一、平間正二郎、庭山熙彦)と7団体(宝町商店会、子ども会育成会、宝町テレビ受信施設組合、宝診療所、宝町宝寿会、群馬銀行宝泉支店、太田地区消防組合太田消防団8分団)の感謝状贈呈を決めた。

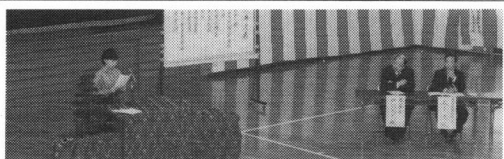
感想発表委員会は育成会が担当し、子ども会に感想発表をお願いし、「ぼくの町、わたしの町、宝町」と題して、東部地区(荒沢牧)、西部地区(竹島努)、南部地区(西倉訓)、北部地区(鈴木小百合)、県部地区(天笠純)、市部地区(山内真里)の各地区からの子ども会代表者に発表を決めた。



宝町10周年記念事業・感想発表の6人

記念誌編集委員会は式典までの45日間で記念誌を発行することになり、宝町内の各団体の協力を得ての編集となった。

全員参加型の盛大な式典が行われた。



私達家族が宝町にこしてきたのは、私が2才のころです。宝町にきた時は知らない人ばかりでした。宝町にきてもう10年になり、私はもう6年生です。来年3月、小学校を卒業します。もう10年も暮しているんですね。お父さんの故郷は北海道です。私とお兄ちゃんの故郷はこの宝町です。故郷は大人になっても、きつとなつかしく想い出すことでしょう。

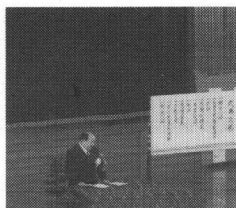
私がとっても好きな事は、夏祭りと運動会です。みんなで練習したあのたいこのリズムは忘れられません。ハッピを着て、だしに乗って、宝町を回りました。大人も子供も楽しいひとときでした。秋の運動会は小さい子供も参加して、青空の下で汗を流しました。私達東部の女の子は黄色ユニホームを着て、力いっぱいチアガールでおうえんしました。町じゅうの人達の歓声が聞えてきます。町づくりってこんなところにあるんだなあと思います。

私は東部の会長をしています。今年もたくさんの行事をしました。5月の子供会大会、夏のキャンプ、祭だいの練習、おぼけ大会、運動会、これからクリスマス会やもちつき大会もあります。私達はいつも仲よく楽しく参加しています。これからたくさんの楽しい事があるでしょう。一つ一つを大切に、すばらしい宝町を皆んなで築きあげたいと思います。

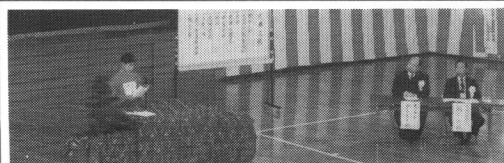
(東部・荒沢 牧)



委員長あいさつ



戸沢市長あいさつ



ぼくが、この宝町にひっこしてきたのは3才のときです。それから9年になりました。

この宝町は、いろいろな思い出がたくさんあります。ぼくの家は、宝町の西部地区にあります。宝町は行事がいっぱいあって、毎年たのしみです。

その中でも、とくに祭りが大すきで、だしののってたいこをたたいたり、おみこしをかついだり、や

きそばやかき氷を食べたり、花火を見たり、たのしい夏の思い出です。

昨年の運動会で、ぼくたち西部は優勝しました。今年は優勝できなかったけど、みんなで力をあわせてがんばったので、とってもいい思い出としてのこっています。

ぼくたちの町には大きな公園があって、ぼくたちが公園を通ったり、遊びに行くときなど、そうじをしている人をよく見かけます。

夏休みに入ると、この中央公園で、宝町の子供が全員集って、ラジオ体操をしています。そして終わると、全員でゴミひろいをします。みんな、中央公園をきれいに、たいせつにしています。また、夏休みの間には、各地区ごとにキャンプをして、みんなで大にぎわいをします。

ぼくは、来年は中学にはいるので、行事には出られなくなってしまうことが多いけれども、とっても楽しい思い出がいっぱいできました。

宝町はとってももりっぱな町だと、ぼくは思っています。そして、これからますます発展させていきたいと思います。

(西部・竹島 努)

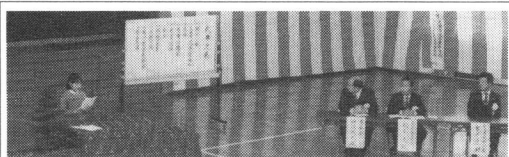


この宝町は、創立してから10周年。その間に、いろいろな行事が行なわれてきました。その中の代表として、子供の日の子供会大会や、夏にある夏祭り、秋には親子大運動会とか、ほかにもいろいろな行事がありました。その中でぼくが好きな行事は、親子大運動会です。100M競技やブロック400Mリレー、あめ食い競争とか、いろいろな競技がありました。ほかに好きな行事は、お化け大会です。この大会は、フランケンシュタインや吸血鬼ドラキュラ、雪女とか、いろいろなお化けがいたので、この大会もすきでした。それに、このような行事が毎年あったので、とてもうれしかったです。

あと、ぼくは、今年役員になってうれしかったです。それは、この記念式典で、各地区の代表として、このように感想がいえるといことは、とてもうれしいです。でも、今年はもう残りすくないので、来年も役員になるべく、なるようにして、いろいろな行事をやりたいと思います。

あと、お父さんは、この宝町のことを考えすぎて、ここ数年、しらががふえてしまいました。ぼくは、今年役員をやって、いろいろなことが勉強になりました。だから、いままでに勉強したことをいかして、宝町のために、もっとがんばりたいと思います。

(南部・西倉 訓)



宝町は、とっても住みよい町です。子どもが遊べる公園もたくさんあるし、また交通量もそんなに多くないので、安心して外にでかけられます。そして、宝町に住んでいる人はとってもいい人ばかりですし、とっても楽しく生活できる町です。

私がこの町に来て、もう約10年くらいたちました。そのころくらべると、スーパーマーケットやいろいろなお店もたくさんできて、かい物などするのにとっても便利になりました。公園なども、今では設備がととのって、小さい子供からお年寄りまで、楽しめるような公園もできました。それに田んぼも少なくなり、10年まえよりずいぶんいろいろな人がひっこしてきました。お母さんたちも、子供を安心して外で遊ばせられるような町です。

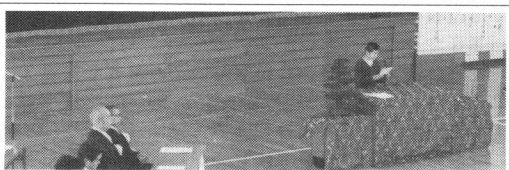
このように、私の町、みんなの町、宝町は、住んでいる人の一人一人が楽しく生活できるような、とても住みよい町です。私たちが大人になって、「私のふるさと宝町は、こういうとても住みよい町だったんだよ。」と、みんなに話せるような町づくりを、これからも、みんなで力を合わせてやっていきたいと思えます。(北部・鈴木小百合)



10周年記念式典受付風景



10周年記念式典 万才三唱



「もう10年たったのか。」
はじめ、そう思いました。お母さんに聞いた話に

よると、昔は団地から電車が見えたほど、何もなかったということです。

それに、ずいぶん家がたったと思いました。道を通っていても「こんな所に家があったっけ。」と、ときどき思います。

それに、前、同じに住んでいた人もひっこしていったし、宝町もずいぶんはたつたんだと思った。

でも、少しさんねんに思うことがあります。むかしは団地の前はひろばがあって、そこでよく、たこあげなどをしてあそんだのだけど、今では団地ができてしまった。宝町がはたつするのはよいのだけど、遊び場がなくなるのは、ちょっとさんねんでした。

でも、今では団地の前の二番公園が、サッカーなどができるぐらいよくなりました。それに、いろいろな行事があって、とてもたのしい。

この10年のあいだ、いろいろなことがあった。うれしいことやかなしいこと、くやしいことやたのしいことでも、今思えば、たのしい思い出ばかりです。

これからも、たのしい宝町でいてほしいです。

(県部・天笠 純)



10周年記念式典 10周年表彰個人の4人



宝町の行事には、いろいろある。その中で一番楽しかったのは、秋の大運動会です。

みんなが、あめ食い競争が終って帰って来る顔が、楽しみだった。みんな、真っ白い顔で帰ってくる。うまい子はうまい子で、口のまわりしかよごさない。そこで、すごい差がついてしまう。

その他、子供つな引きは、連敗して、全然勝てなかった。でも、みんなあきらめないで、がんばった。かけ声をかけて、元気をだしてやった。でも、だめだった。みんなも、がっかりしないで、次の種目でがんばった。でも5位だった。ペケよりは、よかった。

二番目に楽しかったのは、地区のキャンプです。花火ができと思ったら、雨が降ってきたのでできません。テントも、雨だったのではませんでした。結局、集会所にねることになった。外がザーザーとうるさいので、なかなかねつきませんでした。でも、楽しかったです。(市部・山内真里)

(9) 宝町・夏祭り

宝町の夏祭りは、町内に於ける最大行事となっている。町会の発足した昭和51年のときは夏祭りと言うよりは、子ども達のために何かを、と「子ども納涼大会」を企画し、スイカ割り、金魚すくい、どじょうつかみ、宝探しを楽しみ、夜には8ミリ映画を上映。

昭和52年、夏祭りらしい夏祭りをやろうと話が進み、樽みこしの作成、花おどり、2台の大型トラックの荷台を舞台としての歌謡大会。桐生信用金庫から祭り太鼓の寄付をうけ、祭り提灯も有志によって200個揃えての盛大な夏祭りとなった。

昭和53年、2日にわたっての夏祭り。前夜祭は土曜日の午後6時からで、のど自慢大会、映画会、民謡おどり。日曜日はこの年初めて作成された本格的な「神輿」と樽みこし二基のおみこし渡御に始まり、風船割り大会、花火大会、式典、八木節大会、民謡おどりを楽しんだ。「神輿」は本勝一郎から寄贈された。

昭和54年、「神輿」一基作成。大きい神輿を大人神輿、小さい神輿を子供神輿と区別、子供達も増え、賑やかな夏祭りとなる。

昭和55年、舞台の檣の組立ては各地区ごとの分担制。花飾り、ヨシズ、紅白幕、おどりの練習。のど自慢大会は大きな目玉。

昭和56年、夏祭りはカラオケ大会のようになっている。「おまつり」らしいお祭りを、と東部育成会が飾付屋台(山車)をくりだし、太鼓の音色、鐘の響きが夜空にもこだました。大川正法師匠の元、「神田ばやし・四丁目・かまくら」の題目が披露された。

昭和57年、前年の飾りつけ屋台の感動は大きく余韻を持ち続け、企画専門委員と称する小委員会を設置。庭山熙彦、木成茂男、辻俊夫、中野信夫、高木勝治、清水弘があたり、実行委員会の先導役を務めた。飾付屋台は三台とし、まめしぼりをつくり、中央公園内のお休み処、宝中プラスバンド、ハーレーパレード、ミスゆかたと、町民は大満足していた。

昭和58年、大人神輿を「男みこし」、子供

神輿は「女みこし」とし、女性がみこしをかつぐことになった。女性の華麗さと男性の勇壮さが、夏祭りを引き立てる。

太田市の太田まつりでは、第1回子どもみこしフェスティバルを開催。宝町からは育成会を中心に、小学3年生以上が参加した。

昭和59年、宝町の夏祭りは定着しつつ進行している。太田まつりでは、前年行われた「第1回子どもみこしフェスティバル」に参加の宝町の神輿をかつぐ子供達の写真がまつりのポスターに採用され、市内全域に貼られた。第2回子どもみこしフェスティバルに参加。この59年にはエリマキトカゲの創作神輿を含め、2基の神輿で人気沸騰。また、各地区からの飾付屋台(山車)が参加して、大光院を出発、市街地を披露して巡業する企画に、宝町町会は「おまつり会」に委嘱し、これに参加した。宝町の山車は太田一番と評判になった。

昭和60年、宝町10周年記念。第10回宝町夏祭りは100人の実行委員で、町内各家庭に1口500円の寄付金を募り、60万円以上の協力を得て、全体で約230万円以上の支出という、盛大な夏祭りとなった。

太田まつりの飾付屋台(山車)については、土曜日の初日は殿(しん)がりをつとめ、日曜日の2日目は先陣として華を飾った。

昭和61年以後、宝町夏祭り、太田まつり飾付屋台は多くの人に楽しまれ、心の思い出として続々と続いている。

今年は宝町20周年記念「宝町夏まつり」が計画され、実行された。



平成7年7月30日 上州太田まつりに参加する宝町の「祭りばやし」

(10) 宝町11年から20年まで

昭和61年度まで岩崎好助町会長、副会長に大槻政夫、堀江雅司、佐藤耕平、斎藤伸一の4人体制がとられていた。

昭和62年度に堀江雅司町会長が誕生。62年度からは副会長に各地区の区長が就任。東部・橋本武三、西部・小島義照、南部・新井品次、北部・佐藤耕平、県営・野上庄一、市営・尾花敏昭の6人の区長が町会の副会長となり、町会と町内の融和をはかっている。

昭和63年度には宝町の6地区制を、送電線下の水路と宝町中央の東西、由良から沖野へ走る道路を境にした4地区制に、との案が町会執行部から出され、意見のある人は無記名での提出を求めたが、その反響は大きく、年度内に決まらずに継続審議となった。

昭和64年1月7日、天皇崩御され、新元号が1月8日から使われた。

この新元号「平成」は、中国の古典、司馬遷が著した「史記」の部分にある内平外成(うচিতairaかに外成る)、また5経(易経・書経・詩経・礼記・春秋)の一つ、書経の大禹謨の中にある地平天成(地平かに天成る)を採用したものである。

平成1年度、継続審議となった宝町の地域変更の件は尚早とし、区域変更については「諮問機関」を設置し、慎重に検討してゆくこととなり、現行の6地区制を維持してゆくことで決着した。

町会は西倉志郎会長が就任。会長が南部地区なので、他の5地区の区長が副会長となる。

平成2年度から町会長、副会長の規約が改訂され、町会長1名、副会長2名から6名までおくことができる、とされた。町会長に西倉志郎(南部)、副会長は橋本武三(東部)、清水武夫(南部)、佐藤耕平(北部)の3氏。

町内主要道路愛称名を全家庭を対象に募り、

① 中央通り(東部商店街を通る北部から県道太田・深谷線まで)

② 西銀座通り(南部商店街を通る市営、西部のT字路から県道太田・深谷線まで)

③ 公園通り(中央公園北側を通る東方由良から西方沖野へ至る通り)

④ 学園通り(宝泉中学校北側を起点に宝泉小学校西側T字路突付きまで)

⑤ ふれあい緑道(中央公園西側を通る北部は県道前橋・館林線から入った道から東部T字路突きあたる北南の道)が選ばれた。

平成3年度、宝町の戸数は1370戸を数えている。1300戸をこえたのは昭和62年であり、以後、年に十数戸の増加に留まっている。増加は、北部地区に広い耕作地があるので、その耕作地に少しずつ家が建てられてゆく。

南部地区では「町会活動の手引き」が作られ、重宝がられている。清水武夫、須藤三郎、小泉晟、西倉志郎、庭山熙彦、斎藤伸一、斎藤晃らの発行になる手引き書で、町会の役員や組長になったときは勿論、生活してゆくなかでも必要に応じて利用できる。

平成4年度、西倉志郎町会長。副会長には清水武夫、園田朝民、竹上光江。この年度は町会での表彰者がなかった。町会初期から30余件の表彰をしているが、町会の内外で、町会のために協力を惜しまない人もたくさんいる。

平成5年度、清水武夫町会長就任。副会長に小玉靖人(東部)と中嶋顕弥(北部)の2人。宝町テレビ共同受信施設組合(組合長・柿沼法明)では、TVS(テレビ埼玉)が見られるように設置。これまでも「宝町の夏祭り」や「運動会」などの大きな行事を独自の撮影を駆使し、放映してきた。

平成6年度、町会発足以来、町会費月額250円であったが、運営困難のため350円とした。集金は各地区対応するところもあり、一般的には前期・後期の2回だが、納金者の都合で年間1回のところもある。

宝町も組数130組で1547戸と、前年度より北部地区の増加がめだっている。

平成7年度、宝町が発足してから20年目の年となる。記念事業が待たれる。

(1) 宝町20周年事業

平成6年10月29日、宝町20周年についての準備会が開かれた。会合に集まった町会本部役員と一部有志で、記念式典日時、記念事業内容、実行委員選出基準、予算案などが話し合われた。

平成6年12月8日、宝町中央集会所において宝町20周年記念式典事業計画案の第1回準備委員会が行われ、準備会の経過説明がなされた。また実行委員及び実行役員選出、記念事業内容の検討、記念事業予算案の検討、役割分担の検討などがなされた。

実行委員長・中嶋顕弥

副委員長・小玉靖人(副会長)、岩崎好助(商店会長)、
天笠久江(育成会長)、高木勝治(愛好会代表)

本部役員・清水武夫、小玉靖人、斎藤伸一、柳 慧、
落合幸矢、矢部久雄、柿沼法明、依田和三、
碓氷卓丸

総務部・小玉靖人、落合幸矢、小暮秀男

事業委員会・清水武夫、新島力雄

来賓委員会・中嶋顕弥、柳 慧

記念誌編集委員会・本多俊一、荒井清、西倉志郎、
清水弘

会計委員会・原田邦行、庭山熙彦、関田和丈

広報委員会・新島力雄、他平成6年度文体部員

会場準備委員会・及川茂美、他平成6年度保健
衛生部員

駐車警備委員会・足立孝雄、荒井清、他 交通安
全防犯委員

受付委員会・常田敬、小西宏、辻俊夫

接待委員会・青木幸子、石橋正子、他平成6年
度婦人交通防火部員

進行委員会・斎藤晃、小野昭三

支出予算案は、①中央公園あずまや…140
万円、②20周年のしおり…50万円、③宝町
地図…50万円、④除幕式式典…30万円。

平成7年1月22日、第2回の準備委員会が行われた。第1回のときの検討が行われ、席上で実行委員会役員の追加と訂正がなされ、総務部に中野信夫と西倉志郎、記念誌編集委員会には斎藤伸一と庭山熙彦が追加され、平成6年度役員の3項目は平成7年度と訂正された。のち、さらに事業委員会に庭山熙彦、式典委員会に中野信夫を追加。

平成7年1月28日、記念誌編集委員会案の6人が集まった。まだ実行委員会も始まらない案の段階だが、すでに町会の意向が進んでいる。阪神・淡路大震災の話題から編集関係全般まで、初顔合わせ方々語り合う。

平成7年2月24日、2回目の編集委員会では予算に応じての内容の枠組が提出され、また南部地区の「町会活動の手引き」が回覧され、こうした手引き書が町内全体での発行でできるか検討。宝町で新しく生活する人に手軽なパンフレットを…。「宝町はこんないいところですよ。最小限、こんな約束ごとがあります。」と、心温かい案内書を考えている。

平成7年3月24日、3回目の編集委員会。20周年に合わせて20才の若者に原稿を依頼したり、歴代町会長の座談会の件など順調に進んでいるが、今年は統一地方選挙の年で、県議会議員選挙、市議会議員選挙、市長選挙が3月、4月、5月と続き、気持ちの落ち着かない人も多く、選挙が終えてからの準備も残されている。

平成7年4月30日、第1回実行委員会が23名の出席で行われた。開会を小玉靖人副会長、挨拶は清水武夫町会長、本多俊一の一任の発声で議長に中嶋顕弥、書記は小暮秀男が決まる。経過説明の後に実行委員会を設立。

実行委員及び役員の承認では、天笠久江に代わって次回から榎原次郎が出席。記念事業及び日程の承認。記念予算案については、20周年のしおりと宝町地図とが融通しあうことで予算内の承認がなされ、それまでの案が実行への位置付けとなる。

式典は「あずまや」の除幕式と兼ねるので、あずまやの前で、招待するお年寄りや多くの人達と宝町の20周年を祝福したい。宝町20周年のタイトルについては次回までに全員で考えてくること、また宝町20周年表彰については総務部で検討することとなる。

記録委員会についての項目はなかったが、10年後、20年後を考えると必要であるとして、本部役員をあてる。

宝 町 ・ 年 表

発足～5年（昭和51年～昭和55年）

宝 町 ・ 町 会 （子ども会育成会）	宝町・町会関係 文化・入賞入選展示 他 参考 (上毛新聞・他)
昭和51年度（1976） 5.30 町会発足 公園、バス路線、郵便局設置の陳情 8.15 子ども納涼まつり（第1回） 11.28 宝町テレビ共同受信施設組合設立 「3月に県企業局～宝町譲渡契約」 4.24 第1回定期総会（宝町TV含）	各年 3. - 中 島 浩 中央公園に乙女の立像 「やすらぎ」 12.11 高木勝治（宝診療所） 子どもクリスマス会 12.14 群馬銀行宝泉支店開店
昭和52年度（1977） 4. 1 市営住宅完成入居、集会所、公園完成 6.27 宝町のマーク募集、10月決定62点応募 7.17 宝町子ども会育成会発足 8.13 宝町納涼まつり（第2回） 3. - 消防模擬火災訓練 4.16 第2回定期総会（宝町TV・育成会含）	5.15 小野昭三 ユネスコ活動・記 6. - 米田一男 宝泉学童保育所 (ドングリクラブ)発足 8. 5 高木勝治 宝町商店会発足 8.28 荒沢紘一・矢古宇宏・森尻武 第8回群馬県マンドリン合同演奏会
昭和53年度（1978） 7. - 衛生モデル地区指定 8.3～10 航空機遭難捜索協力 8.12～13 宝町納涼まつり（第3回） 11. 3 宝町大運動会（第1回） 1. - 橋梁建設工事完成 4.15 第3回定期総会（宝町TV・育成会含）	3. - 太田市教育委員会「五反田・下諏訪遺跡」発行 4.14 新井充江 優良運転者表彰 5. 3 矢古宇 宏 太田市制30年記念感謝状 7. 2 宗像真由 第3回ふるさと太田 9. 3 庭山雅彦 第12回統計グラフ展 9.12 高木美佐 第13回群馬県絵画展 10.5 藤田慎吾・清水 巖 交通安全功労者
昭和54年度（1979） 4. 1 宝町東部地区へ由良の一部が町会加入 4. 8 宝町老人クラブ（宝寿会）発足 4.22 町内用水路、公園清掃 8.11～12 宝町納涼まつり（第4回） 10.10 町内灯籠流し 10.14 町内親子大運動会（第2回） 4.13 第4回定期総会（宝町TV・育成会含）	7.30 山田美恵・芝裕史・大津真幸 ふるさと太田展 9. 5 天笠一英・橋本真一・小西英毅 第13回太田統計グラフ展 9.19 山田めぐみ 群馬県統計グラフ展 10.11 路線バス開通（東武鉄道） 10.23 金井正志 群馬県電信電話展出品 10.26 宮地千晶・岡田淳・永野知佐子 文集「見学記」 12.1 佐藤征洋 太田宝郵便局開局
昭和55年度（1980） 5.11 町内一斉清掃（用水路、公園等） 5.31 防犯映画会 8.9～10 宝町納涼まつり（第5回） 8.10 町内功労者表彰 10.12 町内親子大運動会（第3回） 4.19 第5回定期総会（宝町TV・育成会含）	8.27 西村伸宏 群馬県小学生総体水泳 9. 7 山田久美 群馬県将棋3位 9. 9 永野知佐子 太田統計グラフ展 9. 9 荒尾みどり 太田統計グラフ展 11.13 吉田八重子 太田市民憲章カルタ展 11.14 石井淳子 群馬県郷土美化展

6年～10年（昭和56年～昭和60年）

宝町・町会（子ども会育成会）	宝町・町会関係 文化・入賞入選展示他 参考 (上毛新聞・他)
昭和56年度（1981） 5.17 町内一斉清掃 8.1 中央公園、用水路清掃 8.8～9 宝町納涼まつり（第6回） 8.9 町内功労者表彰 10.18 町内親子大運動会（第4回） 12.26 宝町駐在所火災 1.1 町内第3回元旦マラソン 4.18 第6回定期総会（宝町TV・育成会合）	各年 3.9 荒尾みどり 太田地区消防ポスター展 6.29 矢羽ちはる 環境月間作文 6.29 宗像真由 環境月間作文 8.10 小川宏克 太田ふるさと写生展 9.13 山田久美・今西健二・山本英之（団体） 県将棋優勝 10.14 宮崎桂子 太田防犯絵画展 10.21 木戸紅鈴 電信電話絵画展
昭和57年度（1982） 5.30 第1回宝町子供会大会 8.2 宝町子供自転車乗り方教室 8.7～8 宝町納涼祭（第7回） 10.17 町内親子大運動会（第5回） 11.17 防犯講演会 3.29 宝町駐在所再建 4.24 第7回定期総会（宝町TV・育成会合）	3.4 新井昭 太田勤労者美術展 3.31 高木勝治 文集「宝東子」発行 5.9 矢羽ちはる 県民健康作文 6.23 山口典子・茂木康幸・青木美枝・光山章子 太田ふるさと写生展 6.28 今井克恵・宗像真由・森本由美子・今井千恵子 太田環境月間作文 7.1 広報「たからまち」No.1発行 8.20 藤倉香織 ぼくの・わたしの街 9.16 県結 太田緑化絵画展 10.17 荒尾みどり・町田理恵子・丸山恵理子・登坂雅彦 群馬県統計グラフ展
昭和58年度（1983） 4.24 表彰式 （第7回定期総会の中で、功労者表彰と同質のもの） 5.5 第2回宝町子ども大会 5.8 町内一斉清掃 7.24 太田まつり（第1回子供みこしフェスティバル） 8.6～7 宝町夏まつり（第8回） 10.30 宝町親子大運動会（第6回） 4.1 第8回定期総会（宝町TV・育成会合）	3.8 辻智博 あかぎ国体推進絵画展 6.8 塚腰柁男 太田勤労者美術展 9.8 荒尾みどり・小野勉 群馬県国際理解絵画展 10.4 清水裕加里・近淳子 群馬県統計グラフ展 10.21 佐藤恵・新井紀子 農協共済貯金絵画展 11.17 高橋正樹 群馬県農業まつり作文 12.13 小沢みゆき 群馬県緑化推進絵画展
昭和59年度（1984） 5.5 第3回宝町子ども大会 5.20 春季クリーン作戦（町内清掃） 7.28～29 太田まつり （第1回飾付屋台・山車、29のみ第2回子供神輿） 8.4～5 宝町夏まつり（第9回） 10.7 秋季クリーン作戦（以後年2回・雨天の場合は中止） 10.14 宝町親子大運動会（第7回） 3.31 第9回定期総会（宝町TV・育成会合）	2.8 木戸健房 如月会展 3.28 重田和宏 第14回世界児童画展（東京） 9.11 矢羽ちはる・田部井加奈子・天笠千恵 県統計グラフ展 9.14 藤川伸介 群馬県国際協力ポスター展 9.20 高木泉・高木宝・清水葉文・内田智和・高木静雄・ 新井剛元・大沢昌史・新井忍・新井聖美・魚沢徹也 蒼狼社・ジュニア書展（埼玉会館） 10.1 木戸佐基 群馬県交通安全絵画展
昭和60年度（1985） 4.6 中央公園お花見会（宝町10周年記念） 5.5 第4回子ども大会（宝町10周年記念） 7.27～28 太田まつり（第2回飾付屋台・山車） 8.3～4 第10回宝町夏まつり（宝町10周年記念） 10.13 第8回宝町親子大運動会（宝町10周年記念） 12.15 宝町10周年記念式典 3.30 第10回定期総会（宝町TV・育成会合）	2.15 高橋季美 社会福祉作文 3.1 長沼正之 24回太田勤労者美術展 6.6 曾我部かおり 第35回連盟展 9.18 木戸佐基・高木泉・青木めぐみ・石関恵美 太田緑化展 10.11 木戸佐基・小川宏克 農協交通安全ポスター展 10.22 沢井裕美 郷土ぐんま書道展 12.6 高木泉 県教育委員会国際森林展 12.15 編集委員会 宝町10周年記念誌「伸びゆく宝町」

11年～15年（昭和61年～平成2年）

宝町・町会（子ども会育成会）	宝町・町会関係 文化・入賞入選展示 他 参考 (上毛新聞・他)
昭和61年度（1986） 4.10 中央公園お花見会 7.26～27 太田まつり（第3回飾付屋台・山車） 8.2～3 第11回宝町夏まつり 10.19 第9回宝町親子大運動会 12.20 町内防犯診断 3.8 宝町市営地区内にて爆発火災訓練 3.29 第11回定期総会（宝町TV・育成会含）	各年 2.5 木戸健房 第3回如月会展 4.28 木戸健房 第63回春陽会展（都美） 5.22 曾我部かおり 第36回連盟展 6.26 高木勝治 群馬県まちづくり功労者 7.15 木本圭子 太田環境月間作文 7.21 富岡多美子 太田環境月間絵画展
昭和62年度（1987） 5.10 春季クリーン作戦（10月には秋季） 7.25～26 上州太田まつり（第4回飾付屋台・山車） 8.1～2 第12回宝町夏まつり 8.31 夏期防犯活動 10.18 第10回宝町親子大運動会 11.29 宝町ファミリーソフト大会 3.27 第12回定期総会（宝町TV・育成会含）	2.19 大沢正義 太田勤労者美術展 3.9 黒田津葉佐 太田防火絵画展 4.26 岡島喜男・横谷彰夫 太田市議会議員当選 9.10 木戸紅鈴 太田統計グラフ展 9.25 黒田隼人・黒田飛鳥 太田防犯絵画展 9.25 郡司美紀 明るい選挙啓発絵画展 12.7 木戸佐基 太田人権絵画展
昭和63年度（1988） 5.15 春季クリーン作戦（10月には秋季） 7.23～24 市制40周年上州太田まつり （第5回飾付屋台・山車） 8.6～7 第13回宝町夏まつり 10. 第11回宝町親子大運動会 1.1 年始め防犯活動 2.20 町内防犯診断 3.26 第13回定期総会（宝町TV・育成会含）	2.5 木戸健房 如月会展 5.11 曾我部かおり・曾我部美都 連盟展 7.15 岡島稲穂・岡島智恵子・岡島喜男・五十嵐文子 環境写真展 9.4 秋場崇弘 京都国体出場「水泳」 9.27 清水葉文 群馬県動物愛護絵画展 10.15 小野昭三 上州太田まつり写真展
平成元年度（1989） 5.14 春季クリーン作戦（10月には秋季） 7.29～30 上州太田まつり（第6回飾付屋台・山車） 8.5～6 第14回宝町夏まつり 9.10 第16回宝泉地区大運動会参加 （宝町発足以後全て参加してきた） 10.15 第12回宝町親子大運動会 4.1 第14回定期総会（育成会含） 4.22 宝町テレビ共同受信施設組合第14回定期総会	1.8 田口誠也 平成元年初日誕生 6.18 中野梅三郎・とわ 金婚式記念式典 10.15 黒田隼人・前沢裕彦 太田防犯絵画展 10.15 鳴海与一郎 太田市広報文芸欄川柳 10.26 橋本みゆき 県民の日「作文」 12.1 浅井哲男 沢野元旦マラソン事務局 12.1 山田久美 プロムナード将棋にかける青春
平成2年度（1990） 5.14 春季クリーン作戦（10月には秋季） 7.5 町内主要道路愛称募集 7.21～22 上州太田まつり（第7回飾付屋台・山車） 8.4～5 第15回宝町夏まつり 8.19 ふれあい広場 10.15 第13回宝町親子大運動会 3.31 第15回定期総会（宝町TV・育成会含）	4.1 山田久美 女流王将戦（4.9 二局） 5.20 橋本武三・カツ 金婚式記念式典 9.25 高橋治 太田まつり写真展 11.8 吉田房子 第1回ホワイト展前橋 11.11 大沢正義 県展（群馬県美術展） 12.5 佐藤耕平 太田市勤労者美術展 12.20 中村要人 テーマ「文化祭」

16年～20年（平成3年～平成7年）

宝町・町会（子ども会育成会）	宝町・町会関係 文化・入賞入選展示他 参考 (上毛新聞・他)
平成3年度（1991） 4.15 中央公園清掃(各地区が年2回中央公園の清掃、草取りをする。最初東部) 5. 5 春季クリーン作戦(10月には秋季) 8.3～4 上州太田まつり(第8回飾付屋台・山車) 8.3～4 第16回宝町夏まつり 10.20 第14回宝町親子大運動会(今回で終わり) 2.29 新年度町会役員選出及び説明会 3.29 第16回定期総会(宝町TV・育成会含)	各年 1. 8 広瀬詩織 14万人目の市民誕生 5.15 曾我部美都 連盟展 8.23 森 恵子 ふみの日手紙作品集 10.15 富岡恵津子 太田防犯絵画展 11.10 大沢正義 第42回県展 12.1 山本とわこ ホットクッキング 12.26 吉田 恵 バレエフェスティバル
平成4年度（1992） 5.10 春季クリーン作戦雨天中止(10.4秋季は実施) 8.1～2 上州太田まつり(第9回飾付屋台・山車) 8.1～2 第17回宝町夏まつり 10.18 宝町送電線建替対策委員会発足 12.1 太田市史、第8回通史編近世頒布 12.20 平成4年度宝町クリスマスツリー大行進 3.28 第17回定期総会(宝町TV・育成会含)	3. 1 和田きみ子 ホットクッキング 5. 8 吉川和子 サロン展 6. 3 曾我部美都 連盟展 6.21 鳴海与一郎・千鶴子 金婚式記念式典 7. 1 田中益代 ホットクッキング 9. 1 矢古宇和子 市民の声「応急処置」 11.14 吉田房子 県展「洋画」
平成5年度（1993） 4. 4 中央公園お花見会 4.11 中央公園清掃(昨年に準ずる) 7.31～8.1 上州太田まつり(第10回飾付屋台・山車) 8.7～8 第18回宝町夏まつり 9.12 第20回宝泉地区大運動会参加 12. 平成5年度宝町クリスマスツリー大行進 3.27 第18回定期総会(宝町TV・育成会含)	4. 1 森山直樹 太田市広報利用者の声 5. 3 佐藤 弘 市制45年地方自治功労表彰 5. 3 近藤克也 市制45年感謝状 6.20 和智英治・ノブエ 金婚式記念式典 7. 1 中島三枝 太田市広報利用者の声 10.28 木戸真梨乃 県民の日作文「夏まつり」 11.12 吉田房子 第44回県展
平成6年度（1994） 4. 3 中央公園お花見会 5. 8 春季クリーン作戦(緑地、用水路、公園 10.2には秋季) 7.23～24 上州太田まつり(第11回飾付屋台・山車) 8.6～7 第19回宝町夏まつり 12.4 中央公園集会所大掃除 12. 平成6年度宝町クリスマスツリー大行進 3.26 第19回定期総会(宝町TV・育成会含)	1.15 杉山邦雄 ふるさとの「駿河風」 3.10 大沢正義 アート展 3.15 富岡恵津子 テニス優秀表彰 3.15 小野昭三 ビデオ「記録」 6. 5 湯田秋一・ミツ子 金婚式記念式典 10.6 吉田房子 太田勤労者美術展
平成7年度（1995） 4.30 宝町20周年記念事業実行委員会設立 7.22～23 上州太田まつり(第12回飾付屋台・山車) 8.5～6 宝町20周年記念夏まつり 10.22 宝町20周年記念式典予定 10.22 宝町20周年記念誌発行予定 12. 宝町20周年記念クリスマスツリー大行進予定 3.31 第20回定期総会予定	7.29 森尻裕子 太田まつり「ミスゆかた」

宝町20周年記念式典・町会功労者

碓氷卓丸	(町会発足までの市役所との連絡役)
中野梅三郎	(老人会発足に尽力、初代会長)
橋本武三	(第1宝寿会会長)
新井品治	(第2宝寿会会長)

特記

■ 本誌作成にあたり

- ① 一部をのぞき、敬称は省略させていただきました。
- ② 資料については町会本部資料によりましたが、補充資料として上毛新聞、太田市広報の20年間を8ヶ月にわたり確認したが、見落としについては御容赦下さい。また、個人資料も活用させていただきました。
- ③ 名簿について、資料の段階での誤植もみられましたので(例＝雄・夫・男などの使い分け他)、判明したものは正しました。
また、調査部分について、統一しきれなかったところもありますが、次へのたたき台や役員選考などの参考にと考えました。
- ④ 宝町10周年記念誌の発行は、10周年記念の式典に併せて発行したものであり、大きな行事でありながら式典の様子を掲載できずにいたが、特に「子ども会」の発表した「ぼくの町・わたしの町・宝町」は良かったとの声も多く、また当時式典に参加できなかった人もあり、ぜひこの機会に、意見発表に写真を添えての掲載希望がよせられ、編集委員会での討議の結果、全員賛成で掲載に至った。
- ⑤ 賞状の記録については、中央集会所に掲げてあるものにつき、保存管理を機会に記録にとどめたもので、他の集会所や個人が保存されているものは割愛した。
- ⑥ 写真については高木勝治さん、中野信夫さんのほか写真付原稿でのご協力者を得ましたので、ここに感謝をいたします。
- ⑦ 歴代町会長座談会は3時間にも及ぶものであり、その話題も膨大なものであったが、それを12ページに編集したので、貴重なお話を断腸の思いで割愛した部分もある。
- ⑧ 各編集委員および数軒の協力者の家を会場とさせていただき、感謝いたします。

編集後記

平成6年12月18日、宝町20周年記念事業実行委員会の設立準備会の席上、記念誌編集委員に任命されて以来、6名で編集作業を行ってきました。

原稿依頼に快諾、また編集から発行までに種々ご協力いただいた団体、個人に対し、心より感謝申し上げます。

(編集委員長・荒井)

「うたかたの夢のごと」と申しますが、20歳の歳月の移ろいは宝町の風情に落ち着きと、安寧と、成熟とをもたらしました。歴代の役員諸兄のご努力に改めて敬意を表すとともに、ご健勝をお祈り致します。

編集子の一員として、少し背伸びをしたため委員の皆さんに大変ご迷惑をおかけしたことを、この場でお詫び致します。特に編集長にはお世話になりました。30周年の時には企画の段階から参画されることを期待します。

原稿を仕上げて、ホッと一息……

反省頻り…… ほぞを噛む……

エコー(山彦)・(庭山熙彦)



編集後記

青年は蕩蕩と流るる大利根の流れを見つめていた。太陽と碧空は波面を輝かせ、静かに時間はすぎていた20歳の日。未来への希望を抱いた旅人だった。

宝町も20周年。そして20歳の若者の多くは東京へ、地方へと分散こそしたが、地元に残った若者も、みんなが宝町を「ふるさと」と思っているようだ。青春時代の20歳の日と宝町の20年を交錯させながら……。

宝町に住む書家と作品談議をした。いい線を引けば引くほど、余白の白が、より白く見えるものなのだそう。線は点の集まりでもあろう。宝町の20年は一年一年の積み重ねによって。もう少しいえば、一日一日の積み重ねによって、20年という線になっている。宝町の20年が、良ければ良いほど宝町の未来に大きな希望が湧くのであろうか。

日本語は美しいという。そこには詩、短歌、俳句などが生まれ、造語能力があるという。私達は無限の可能性を秘め、あるときは行動をも起こせます。20周年の記念誌も、ある意味では自由な発想をもったの作成も可能であつたろうに、小石につまずいたため、型式にはまったものとなってしまった。編集委員および町のみなさんの期待に及ぶべくもなく、天空をおおぐ……。 (編集長・清水)

編集を終えて

連絡役から代表、そして編集委員会委員長として全員の「和」づくりのため東奔西走にತ್ತとめた・荒井さん。

あるあるあるあると思っていた時間がいつの間にか……と。9年間の総務生活、その間、共に活動した3人が他界。北部の橋本慶子(婦人防火部長)さん、南部の茂木泉(文体部長)さん、東部の長谷川太一郎(防犯部長)さん。心より御冥福をお祈り申し上げます。と・斎藤さん。

宝町便利帳の作成に意欲を燃やしていたのに、宝町20周年記念誌の中におり込めず、次回に希望を持ち越しの・西倉さん。

定年になり、24時間が自分の時間となつて宝町住宅地図作成、編集にと努力されたのは嬉しいことなのだが、さて、これから時間をどう使うのか・庭山さん。

得意、不得意はつきもの。得意の分野での力量発揮を……と・本多さん。

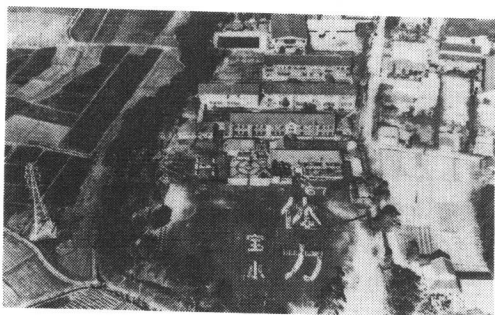
みんなの顔を見渡すと、みんな、いい顔をしている。努力した後の顔だ。だが、じっとしてはいられない。明日がくるのだから……と、ひとりごと、の・清水。

あつと言う間の20年。楽しくもあり、嬉しくもある。それは宝町という空の下で、皆さんと共に活動し、言葉を交わした20年であつたことに。わが「ふるさと」は、宝町のところにあり……。みなさん、ありがとう。

太田市役所の各課にご指導いただき、また表紙の写真についてもご協力をいただきました。ありがとうございます。

心の中に生き続けて勇気をたゆまなく送りつづけてくれた人に「ありがとう」。

(文責・清水)



宝町誕生前の宝泉小学校周辺



宝町誕生後の宝泉小学校周辺

発 行	宝町20周年記念事業実行委員会
発 行 日	平成7年10月22日(日)
発 行 数	2000部
編集委員会	荒 井 清 (委員長)
(五十音順)	斎 藤 伸 一 (編集長)
	清 弘 郎 彦 一
	西 倉 志 俊
	庭 山 多 一
	本 多 俊 一
印 刷 所	美 和 プ リ ン ト
